今年度日本GAP総会特集

# UFO contactee

SINCE 1961
GAP JAPAN NEWSLETTER

UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

WINTER
1991

115

## アダムスキーとUFO問題の真相

金星表面に超長大な水路を発見!

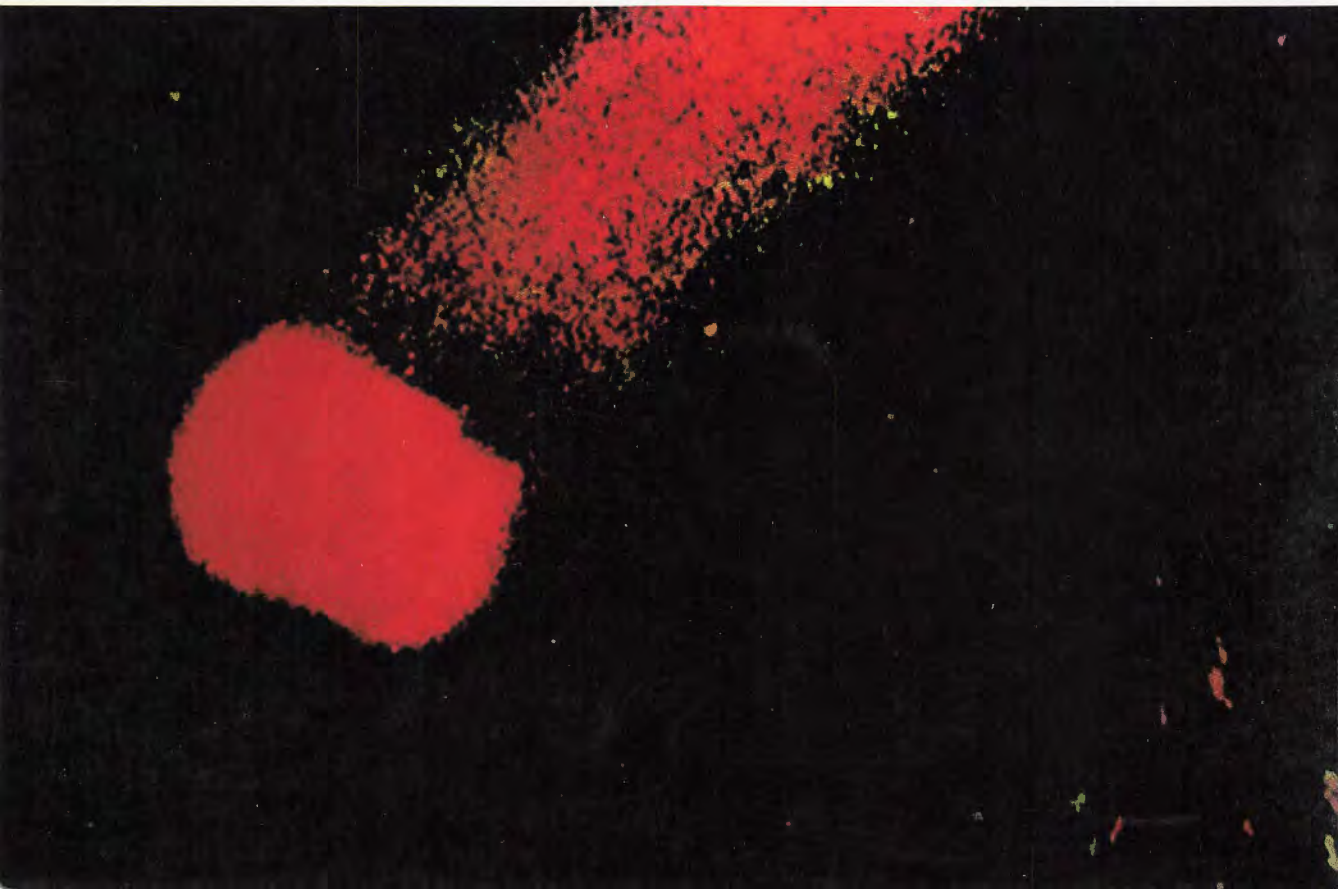
28年ぶり宇宙からの帰還!?

突然消滅した10人の少年少女!

暗闇から現れた不思議な人々

UFOの色彩についての一考察

UFOと古代マヤの謎 — 久保田八郎



*UFO contactee No.115* *Hachiro Kubota, Editor/Publisher, GAP-Japan*

*CONTENTS* *〈Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness〉*

〈巻頭言〉UFOと人間 — 1
**アダムスキーとUFO問題の真相** — ハンス・ピーターセン 2
**金星表面に超長大な水路を発見！** — 17
**28年ぶり宇宙からの帰還!?** — 18
**突然消滅した10人の少年少女！** — 20
**暗闇から現れた不思議な人々** — 21
**円筒型の奇妙な物体を見る** — 服部哲雄 22
**謎の飛行物体、米子に出没** — 23
**UFOの色彩についての一考察** — 斎藤俊徳 24
〈写真〉鷲羽山から目撃したUFO — 25
韓国の雑誌、アダムスキーのUFO写真を掲載 — 26
〈予告〉1992年度日本GAP海外研修旅行 — 27
GAP短信 — 28
科学—SCIENCE — 29
第8回 旭川・札幌合同支部大会 — 32
大阪支部特別月例会 — 34
凄い！ 新潟支部UFO写真展 — 35
**UFOと古代マヤの謎** — 久保田八郎 36
本誌バックナンバー掲載記事目録 — 47
〈投稿欄〉ユーコン広場 — 48
編集後記／英文版第7号 — 49
〈広告〉新アダムスキー全集 — 50
〈広告〉GAPグッズ — 51
日本GAP全国月例研究会案内 — 52

金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理（陽）、右側は母性原理（陰）を意味する。円は宇宙をあらわしている。

## GAPについて

ＧＡＰは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がＵＦＯの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本ＧＡＰの目的はＵＦＯとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1．この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2．他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3．ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

**表紙写真**
**ジョージア州のUFO**
1973年9月1日の夜、米ジョージア州の新聞発行人チェスター・タタム氏が撮影したUFO。同じ夜に数名の人もこの物体を見ている。

＜巻頭言＞

# UFOと人間

世界のＵＦＯ問題は混沌としているように見えるが、大勢は決したと思われる。つまりＵＦＯなるものは別な惑星から来る宇宙船であり、その中には高度に発達した人間が乗っているという図式が定着してきたということだ。このことは八月に出た「宇宙人の死体写真集２」（中村省三著・グリーンアロー出版社刊）の内容でも首肯できる。

著者の中村氏は編者が昔からよく知る人物だが、高度に知的でまた実証主義をつらぬいている人であり、その綿密な調査には定評がある。派閥に依らず、独善的な考え方をしない、いわばアウトサイダー的な立場を堅持している。

こうした研究家によるすぐれたＵＦＯ関係図書が書店に見られるようになったことは、ＵＦＯの存在有無が論じられていた昭和三〇年代の頃を回想すると隔世の感がある。

ただしアダムスキーの著書の内容はあまりにも時代を先走り過ぎたために（少なくとも一世紀は早すぎた！）いまだ日の目をみない状態にあるけれども、地球の宇宙開発科学がさらに進展して有人宇宙船を建造し、太陽系の別な惑星を地球人が訪れるようになったならば、アダムスキーの名は急速に浮上するだろう。偉人というものはそんなものらしい。数世紀とまでゆかなくても没後かなりの年月を経過してから真価が認められるのである。

ソ連の共産主義政権は崩壊しつつある。マルクス・レーニン主義は誤謬の学説として認識されつつあるように見受けられる。しかし共産思想自体に誤りはない。ただ地球上での展開が早すぎただけである。

人間の財産を平等化し、貧富の差をなくして平和な社会を建設しようというこの美しい思想は、アダムスキーの描写する金星の社会のそれと一致する。

なぜ共産主義政権が打倒されたか。その理由は簡単である。地球人はまだその思想を受け入れるだけの準備が出来ていなかったのだ。現在の地球人には欲望、特に物欲が限りなく心中に巣くっている。他人よりもモノが欲しい、他人よりも裕福な生活がしたいという欲望は果てしなく増大し、その歯止めはない。こうした地球人の特性を無視して政府が一党独裁により強制的に国民の財産を平等化すること自体に無理があったことはカンボジアのポル・ポト政権の失敗でも分かる。

もっと人間が物欲の無意味を悟り、他人への奉仕的な生き方によってこそ互いに幸福が得られるという次元に覚醒してこそ、共産主義的な社会が無理なく生まれるだろう。マルクスやレーニンは純粋であったかもしれないが、主義を行使し、国民に押しつけて権力闘争に明け暮れした政治家に問題があったといえるだろう。

アダムスキーの説いた太陽系の真相も、到底地球人が受け入れる準備のない頃に発表されたから、当初は嘲笑の的になったのである。だが、疾病の原因として病原菌説を打ち出したパストゥールに対抗した悪魔説論者は必ずしも愚劣な存在ではない。これは時代の流れを象徴しているのである。

同様に、いまだにアダムスキーを否定する人達も決して盲目ではない。それなりの見識と判断力をもって自己の信念を吐露しているのだ。これも時代の潮流を現しているといえるだろう。

そして、年月が経過し、科学が進歩するにつれてアダムスキーの真実性が立証される段階になったとき、否定論者も目覚めるだろう。そうなれば覚める時期が早いか遅いかの相違である。それだけのことにすぎない。否定論者を敵視する必要もない。

日本のあぶく銭経済がどこまで続くか見当がつかないが、永遠に続かないことは確かである。いつか崩壊して難儀な時代が訪れるかもしれないし、あらゆる価値観が変換する時代が来るかもしれない。

しかしたぶん人間が地球上から絶えることはないだろう。ということは、人間を生かす宇宙的な英知または生命力が変化することはないということになる。飛鳥川の縁瀬ではないが現象は絶え間なく流動変化しているけれども、絶対に変化しないものは人間やその他のあらゆる生物を生かす生命力または英知である。これこそは絶対に平等なものなのに、なぜかこれが一般人に意識されることなく、滅しやすい所有物の多寡ばかりが問題になる。だから真の意味での共産主義は受け入れられないのだ。

しかし悲観は禁物。来世紀には飛躍的な進歩が展開するだろう。第一、そのようなヴィジョンを描き続けることが必要だ。ヴィジョンがなければ実現もないからだ。

ＵＦＯ研究とは実は人間研究であるという編者の多年の持論は次第に識者の理解を得つつあるように思われる。前記の中村氏の著書の「あとがき」から最後の部分を引用しよう。

「どうやら宇宙人の謎を解明するためには、人間そのものについての理解をもっと深める必要がありそうだ。人間がこの宇宙の中に存在しているからこそ、『宇宙人』というものが重要な意味を持ってくるわけである。どうも、『彼ら』は宇宙の彼方からのゆきずりの訪問者ではなく、太古から人類と深い関わりを持ってきた『それ以上の存在』のように思えてならない」　（久）

# アダムスキーとUFO問題の真相

The Truth of G. Adamski's Claims and UFOs by Hans Petersen

アダムスキーの真実性とUFO問題の真相を貴重な交流と目撃体験により公開！

●ハンス・ピーターセン　久保田八郎訳

**今年はアダムスキー生誕一〇〇年目、UFOと宇宙哲学の世界的研究集団「日本GAP」創立三〇周年、新アダムスキー全集（中央アート出版社刊）全一〇巻（別冊一巻）完結という記念すべき年である。日本GAPはこれを祝福して去る九月二二日、東京銀座七丁目の「銀座ガスホール」で盛大な総会を開催。デンマークより元デンマークGAP創立者でヨーロッパにおけるUFO研究家として名高いハンス・ピーターセン氏が招待されて記念大講演を行ない、多数の来場者に多大の感銘を与えた。以下は迫力ある講演の内容全文。同氏が持参したUFOビデオとスライドも映写された。**

まず第一に私達にとって全く新しい未知の国である日本へ、私と妻をご招待下さった久保田八郎と日本GAPに対して御礼を申し上げたいと思います。

私達の旅の関心はこれまで中南米にありました。今までに訪れた国はメキシコが五回、グァテマラが二回、ホンデュラス、ベリーズ、ペルー、ボリビアが各一回です。したがって今回の訪問は極東へ参りました最初の旅になります。この良き機会を与えて下さいましたことに感謝致します。

## 宇宙は一つの法則に従う

本日のテーマでありますUFOと宇宙から来る訪問者についてお話しするにあたりまして、全宇宙は一つの法則に従っているということをまず心に留めておくのが非常に価値のあることです。その法則はさまざまの遠い銀河系、太陽系、惑星群にまで同じように働いています。

この法則はあらゆる生き物、地球上の全人類、あらゆる惑星に働いており、あらゆる自然界、あらゆる創造物にも働きかけています。

この大宇宙、この広大な太陽系の中のどこかに高度に発達した『世界（複数）』が存在しています。それはあまりにも高度に発達しているので、私達の想像をはるかに超えています。こうしたパワーセンター（複数）が大宇宙の数十億の銀河系、太陽系（複数）、惑星群などやそれらの表面に存在するあらゆる物の発達の背後にひそむ原因となっています。

現在、この地球に住んでおります私達はこの法則がどのようにして働いているかを充分に理解しておりません。誰がそのような『秩序』を与えているのか、誰に責任があるのでしょうか？私達はそれが『神』であることを知っています。しかし『神』はどこにいるのか、『神』は何であり誰なのか、私達は何も知りません。

私達が知っているのは、『神』とはすべての力であり、それは宇宙の創造主であるということだけで、神のインスピレーションのもとにいつの時代でも人類に対する援助者が太陽系内の多くの惑星に遣わされて来たのでありまして、この地球にもやって来ました。その援助者のなかにはブッダ、マホメッド、イエスその他がいます。

▲講演中のハンス・ピーターセン氏。右は通訳の久保田八郎日本GAP会長。 撮影／松村芳之

しかしこうした救済者が地球へ来る前に、素晴らしい進歩の跡が多くの時代に反映しています。世界のなかの私達の地域、すなわち世界のいわゆる発達した地域において、イエスが来る前に長い興味深い発達の跡が見られます。この発達の跡はキリスト教の聖書のなかに読むことができます。

## UFOは異星人の宇宙船

さて、気にされる必要はありません。私は宗教についてお話ししようとしているのではなくて、ある物事にちょっと触れてみようとしているだけです。これはUFO問題の背後にある真相を理解できるようになるために、心の中に留めておく必要があるのです。

よろしいですね。私達はイエスが来る前に、何人かの面白い人物が地球上で活動していて、空中に奇妙な物事が発生しています。これも聖書で読むことが出来ます。

こんにち、全体的なUFO問題に深くかかわっている私達は、これがスペースブラザーズと彼らの宇宙船の活動であることを知っています。したがって、今日、ここに私達が集まっているのは、いわば『いつの時代』をも通じて実際に発生してきた事柄なのです。

いま誰にも明らかなのは、この物凄いパワーセンターの背後には、物凄い高度な発達があるに違いないということです。これはあまりにも高度なので、その背後にいる人達は、地球上に住む私達が行なっているあらゆることを規制することが可能であるのみならず、遠い未来に何が起こるかを知ることさえできるのです。これは我々地球人が『予知』または『予言』と呼んでいるものです。

イエスは地球へ来て『我らの救済者』と呼ばれている偉大な使節達の一人です。彼は惑星地球の住人達の救済を準備するためにただ一つの目的をもって二〇〇〇年前にやって来ました。

その宇宙の活動センターには、二〇〇〇年後の地球の人間が惑星それ自体とそこの生命全部を破壊するようになることと、生命救済活動が準備される必要のあることが予見されていました。

## 人間は自分の波動を高めること

もしこれが実現するとなれば、地球人は大抵の動物のレベルである低い次元から自分達の波動を高度に高めることを知る必要がありました。これはもっと優れた道徳的な生き方によって得られることです。あらゆる感覚による道徳です。もし地球人がこのような生き方を代々知るならば、互いに協力することが可能なほどに発達するでしょう。いつか生命救済活動を起こす必要があるならば、です。このことは今後一〇年間に起こるかもしれません。

私達が宇宙旅行を可能にする前に、各人の波動を高める必要があることを

理解するためには、高度に進歩した惑星群のさまざまの状態は地球とは異なるということを、私達は記憶しなければなりません。別な惑星群ではより高度な波動があるのです。ですから、もし私達が自分の波動を高めないで別な惑星へ連れて行かれるならば、私達は体がだめになって死ぬだけでしょう。

ジョージ・アダムスキーの場合は、彼が地球を離れる前にスペースブラザーズが彼の波動を高めたのですけれども、土星に着いたときには気分が悪かったことを思い出して下さい。彼が元通りに気分が良くなるまでに三カ月かかっています。

したがって、イエスの使命は人々の道徳感を高め、それによって人々の波動をも高めることにありました。それでイエスは『愛』を説いたのです。というのは、誰しも愛の感覚を持たずにいて高度な波動を持つ人はいないからです。私達にはすでに一〇戒というものがありますし、宇宙の法則に従って自分達の波動を高めながら生きるためのガイドとして従うべき多くの法則も持っています。

高度に進歩した惑星から来た非常に多くの人々が、これまでも、そして現在もこの活動に従事しています。現代においてこの活動に従事した人々の一人にジョージ・アダムスキーがいました。しかも彼はたぶん自分の使命に気づいていました。彼は莫大な知識と智恵を持っていましたが、当時、知らせるのに必要であった事柄だけを世の中に伝えました。もし彼が今なお生きていたとすれば、もっと多くの事を私達に伝えてくれたことでしょう。

アダムスキーは最終的な活動をするために地球へやって来ました。それは他の世界からの訪問に関する真相を伝えることにありました。それは一つのプログラムとして発足したのですが、遂行されねばならないプログラムでした。アダムスキーの使命は、聖書の中に書かれている事は貧弱なことではなくて雄大な物語であり、しかもきわめて深刻であり、そして別な惑星からの訪問は聖書の物語の連続であることを人々に理解させることにありました。

アダムスキー自身が天空の彼方の世界から来たということは、私達のほとんどにとって次第に明らかになっています。確かに彼は、多くの奉仕活動を行なうために先行して地球へ来ていたエリヤ、エゼキエルその他の偉大な人々のすべてに比較できるでしょう。

## アダムスキーのメッセージ

アダムスキーが世界に警告するのには数年間を要しただけです。誰もがアダムスキーのメッセージを読みました。それは次のとおりです。「我々の太陽系の全惑星に生命がある。また、宇宙全体の惑星群にも生命がある。この巨大な太陽系は神の法則、宇宙の法則、動・反動の法則によって機能している」

アダムスキーは『人間を処罰する神』という印象を排除しました。なぜなら彼は次のように言ったのです。「人間が種をまけば、自分でそれを刈り取るのである」と。これが意味するところは、人間は自分の生き方によって自分で自分を罰したり報いたりしているからです。

アダムスキーが出現したことは、各方面からひどい抵抗を起こさせることになりました。教会から、経済界から、軍部からなどです。アダムスキーは世界の人々に聖書の真の意味を語ることが出来ました。このことは教会が大衆に対して持っている強大な権力を失うことにつながったのです。そのために教会は彼に対して敵対しました。

アダムスキーは大宇宙から訪問者が来ることや、そこに戦争はないことなどを人類に語ることが出来ました。別な惑星の人々は互いに平和と調和の中に生きています。軍事力も知られていません。この理由によって、地球の現代の軍部は、世界に対してスペースブラザーズが地球に来ることや、世界で発生している物事や、彼らが地球に来る理由などを秘密にしているのです。

## 空間に存在する無限のエネルギー

アダムスキーは、我々は、いわば突然に油、石炭、原子による産物などを用いることをやめることが出来るだろうと人類に語ることが出来ました。我々の回りの空間には枯渇することのないエネルギー源があるのです。それを我々は自分で引っ張り出しさえすれば、代金を払うことなしに、しかも汚染もなしに絶えずエネルギーが利用出来るのです。

しかしそうなれば、経済界は彼らの大きな利益とそれに付随する力とを失うでしょう。彼らは真実に対して反抗したとアダムスキーは言っています。そのために我々は汚染による破壊の方向に向かっています。仮に我々がそれ以前に核戦争や核による大破滅によって地球を爆発させなくても破壊の方向に向かっているのです。

アダムスキーの生前においては、生活は全く容易ではありませんでした。ここに私には理由のよく分からない逆説があります。それはアダムスキーが強力な敵を持っていたと同時に彼は強力な味方をも持っていたということなのです。

## 迫害を受けたアダムスキー

ここでアダムスキーに関する事をお話ししましょう。皆さん方はご存じないかも知れません。というのはこの話は彼が私に面と向かって話してくれた事なのです。周囲の人達に話したかどうかは知りません。アダムスキーが『空飛ぶ円盤は着陸した』を出したとき、あの書物は空想科学小説で、真実の話

▲1967年３月、ペルーのユンガイに出現したＵＦＯ。撮影者不詳。

ではないと宣言するならば、多額のお金をあげようと、ある人から言われたのです。アダムスキーがそれを拒絶しますと、彼はさまざまな方法で脅されました。しかし彼は屈しませんでした。彼は自分の主張を撤回してまで脅されることを恐れるわけにはゆかなかったのです。

ところである夜、アダムスキーが住んでいたパロマーガーデンズの家のドアーを誰かがノックしたのです。そのときアダムスキーは助手の女性のアリスとマーサに「お休み」と言ってほっぺたにキスをしたばかりでした。だからかなり夜更けだったわけです。

彼がドアーをあけると、二人の男が入ってきて、いきなり彼をつかみ、外へ引きずり出し、車に彼を縛りつけて走りだしたのです。アダムスキーはそんなに早く走ることが出来ず、すぐに倒れてしまい、約三キロほど引きずられてから車が止まって、彼は解放されました。

男達は言いました。「これはまだ序の口にすぎない。心を変えて自分の書いた本が空想科学小説だと宣言しなければ、もっとひどい目にあうぞ」

血を流し、全身傷だらけになりながらアダムスキーは這うようにして家へ帰りました。

次の夜、誰かがまたドアーをノックしました。アダムスキーがドアーをあけると、また二人の男が入ってきましたが、今度は違う人達でした。二人はアダムスキーに向かって、「昨夜あなたに何が起こったかを知っています。あの連中は連邦捜査局から派遣された者で、これからは、あなたはずっと護られます」と言ったのです。

アダムスキーは自分が特殊な使命を帯びた人間であるとか、あるいは自分がいわば地球で生まれた宇宙人であるというようなことを全く認めてはいませんでした。しかし一度だけ正体を見せかけたことがあります。それは私達が聖書の内容について話していたときです。それはUFOの船隊と異星人の来訪によって世界の人々の目の前で今や展開しているこの新しい展望におけるイエスとイエスの重要性について話していたときです。

## イエスと関係があった?

私達はイエスとマグダラのマリアについて話していました。これについて私は現在知っているようなふうに本で読んだことはありませんでしたので、少し奇妙な話だと私は言い、どうしてあなたはそんなことに確信が持てるのかと尋ねたのです。するとアダムスキーはすぐさま答えました。「私はそこにいたのだ」

彼はすぐに謝って、これ以上は言えないのだと言います。というのは彼はその件について話せる立場にはなかったからです。しかし彼は言いました。「私が言えるのは、過去五〇〇〇年にさかのぼる過去世の鮮明な記憶を私は保っているのだ」

そこで当時素朴であった私は尋ねたのです。「あなたは過去世でイエスだったのですか?」

彼は非常に尊敬感に満ちた態度で答えました。「ああ、違う。私はそんなに偉大な人間ではなかったよ」

この発言ではっきりしているのは、彼には少なくともイエスを知っていたという隠された情報があるということです。

「あなたがイエスでなかったというのなら、あなたは誰だったのですか?」と私は尋ねました。すると彼が答えたのです。「これだけしか言えない。私はイエスを護った人達の一人だったのだ」

私にとってこのことは、アダムスキーが一二人の使徒達の一人だったのだという事実が明確になってきたのです。これはまた彼が後に金星と土星へ案内されたときの彼の活動において証明されたのです。

しかし彼は一般人にほとんど知られない一人間として去ってゆきました。なぜ連邦捜査局は彼を護ったのでしょうか。なぜアダムスキーは世界中の米軍基地と民間の施設に出入り出来る許可証を持っていたのでしょうか。

私にその理由が分かるかといいますと、分かります。というのは、ある日、アダムスキーが私と一緒にいたとき、「あなたが外国の民間人に対する許可を得ていないために、私が勤務している空軍基地へ私と一緒に行けないのは残念です」と私が言ったのです。

すると彼は自分のポケットから身分証明カードを取り出して、私に渡しました。私はすぐにそれが何であるかに気づきました。というのは、私がアメリカの空軍基地に勤務していた頃から私は自分の身分証明カードを持っていたからです。しかし私の身分証明カードはわずか数箇所の基地への許可を与えただけですが、アダムスキーが持っていたカードは世界中のアメリカの民間と軍事施設への自由な出入りを許可したものだったのです。いわば政府関係の施設です。なぜ彼がこのような身分証明カードを持っていたのでしょうか。我々はただ推測するのみです。

## 常に驚かせたアダムスキー

アダムスキーという人は驚きを与える要素に満ちていました。ある日、突然、ポケットから一枚の写真を取り出して、心から笑いながら言うのです。「これは土星から来た異星婦人の写真なのだ。彼女は今オーストラリアに住んでいて仕事を持っており、イギリスにも仕事を持っている。彼女がイギリスへ行くときには、王室の家族を訪問するんだ。

私が（アダムスキーが）彼女の写真

を撮らせてくれと言うと、彼女は拒絶した。するとある日、我々二人が会う約束をしたときに、彼女が来ることになっている路上で通行人を撮影する写真屋を見た。私はその男の所へ行って、彼女が来たらそれを撮影してくれと頼んだ。私は彼女の姿形を説明した。そしてあとでその写真を取りに来るからと言っておいた。

ここに彼女が写っている。彼女は写真屋のそばを通り過ぎるときに一人の男と一緒に歩いているよ」

最後にアダムスキーが言いました。「ハンス。宇宙婦人に絶対にキスをするな。私はそれをやったことがある。絶対に忘れられなくなるよ」

「そしてこれは金星から来た婦人の写真だ。私は彼女とその夫、二人の子供にニューヨークであったことがある。彼らが私を自宅に招いてくれたのだ。広間に宇宙服があるのを私は見たので、その婦人に向かって、宇宙服を着た姿を写真に撮らせてくれないかと頼んだのだ。

彼女は承諾したが、ただし彼女の上半身だけを写すようにと命じた。これは彼女の宇宙服の下半身にある技術的な装置が見えるからだというわけだ。私は全身の写真を撮った。そして彼女がそれを見たときに、ただちに鋏を持ち出して、写真の下半分を切り取ってしまった。君はそれがはっきりと分かるだろう」

▲ジョージ・アダムスキー

## 大変な話し好き

アダムスキーは私と妻にずいぶん多くの物を見せてくれて、何時間も話し続けました。一九六三年に、彼は私達夫婦と一〇日間ほど過ごしました。夫婦で朝七時にリビングルームに入ると、アダムスキーはすでにそこへ来ていました。「おはよう」と彼は言い、「座りなさい。一緒に話そうではないか」と言います。

私は言いました。「いけませんよ、ジョージ。さあ、朝食にしましょう。そのあとで話ができますよ」

するとアダムスキーが言うのです。「君達は食べすぎだよ」

私達が食事のたびごとに彼は食べすぎだと言うのです。彼はきわめて少食で、ほとんど食べなかったと言えるでしょう。

平日は私は仕事に行かねばならないので、彼は私の家内と話していました。午後五時に私が帰宅してみると、彼はなおも話しており、真夜中になっても話していました。私達が寝る前に、彼はいつも黒胡椒を入れたストレートのウイスキーを要求しました。これは彼が喋りすぎたときには喉によいのだと言っていました。それからついに我々はなんとかして寝室へ連れ込むことができたのです。

アダムスキーはヘビースモーカーでした。夜中でも翌朝でも彼の寝室の灰皿に約二〇本の吹い殻があったものです。ですから彼は夜間にはあまり眠らなかったと思います。通常、彼はスペースブラザーのオーソンからもらった部屋着を着ていました。彼はたぶん夜のほとんどを瞑想したりタバコを吸ったりして過ごしたのでしょう。

アダムスキーが私の家に着いた日には、私と息子のラースが空港へ迎えに行きました。私達は飛行機が接近するのを外で見ていましたし、この小さな空港の全体を見渡すことが出来ました。飛行機が滑走路の端に来るちょっと前に雲から出てきたとき、私達は一機の円盤がそのあとをついて来るのを見たのです。しかし数秒後には円盤は引き返して雲の中へ消えて行きました。あとで私達がアダムスキーにそのことを話しましたら、彼は言うのです。

「そうだね、連中はいつも私のあとをついて来るんだ」

## 消えたスペースピープル

彼がデンマークにいたあいだ、我々は集会を企画したのですが、そのときアダムスキーと私は演壇上に座っていました。あるとき、彼は私のほうへ体をかがめて、低い声でささやきました。

「最前列に二人のスペースピープルがいるよ」

その列には約二〇名の人がいて、席は全部ふさがっていました。その集会では三五〇名が出席していました。

あとで私はある人に、最前列を含めて会場全体を写真に撮ってくれと頼んだのです。最前列はなおも一杯でした。

数日後、写真をもらったとき、最前列の二つの椅子が空席になっているの

です。写真が撮られたときには空席などなかったのに――。

## スペースビープルからの警告

アダムスキーが私達夫婦と別れたとき、彼はフィンランド、ドイツ、ベルギー、スイス、イタリアへ行くように計画されていました。しかしその前に我々は彼を首都のコペンハーゲンへ案内しようとしたのです。

コペンハーゲンの我々のグループは市の外側の小さなホテルを手配していました。この場所は誰も知らない所ですから、彼は邪魔されることはありません。それで彼は私の家を離れましたが、これが彼を見た最後です。

コペンハーゲンに着いてから、そこのグループが彼をチボリへ案内しようとしたのです。これはコペンハーゲンの真ん中にある有名な娯楽公園です。しかしアダムスキーはまず休息を望んだのです。

それで彼らはみな空港からまっすぐにホテルへ行ったのですが、フロントへ行ったとき、係員が、一人の紳士がアダムスキーのことを尋ねていたというのです。一同は驚きました。アダムスキーがここへ泊まることを誰も知っているはずはないのですから――。

グループの人達はアダムスキーを助けながら彼の部屋へ案内して、六時に迎えに来ると約束しました。そのホテルは各部屋にドアーが二つついた古いタイプのホテルです。グループの人達がアダムスキーを迎えに引き返したとき、彼らはアダムスキーの部屋の二つのドアーの間に手紙があるのを発見しました。その封筒はアダムスキーに宛てたもので、その中には次のような手紙が入っていたのです。

「アダムスキー、今回はフィンランドへ行ってはいけない。反動宣伝だ。あなたにとってトラブルが起こる」

その手紙はCSA　U・S・A・Cとサインされていました。

私は彼のヨーロッパ旅行の主催者でしたから、彼はすぐに電話で私を呼び出して、この手紙についてどう思うかと尋ねました。私は言ったのです。

「これは誰かの冗談か、または混乱を発生させようとしているのかもしれません。少し様子をみたらどうですか」

アダムスキーは、これについて良い感じがしないと言いましたが、とにかく様子を見ることで意見が一致したのです。

グループとアダムスキーはそれからチボリ公園へ行きました。チボリにはあるテントがあって、そこでは木の玉を投げて皿を割る遊戯があります。グループはアダムスキーをそのスタンドへ連れて行って、皿を割るようにとすすめたのです。連中はアダムスキーが皿を割るのを見るのは面白いだろうと思ったのです。

最初アダムスキーは断わったのですが、次に同意したので、グループは彼の動作を写真に撮りました。そうすれば彼らにはアダムスキーの訪問の面白い思い出が残るでしょう。しかしその写真は細部を示す非常に鮮明な写真であったにもかかわらず、アダムスキーの姿はぼやけていたために彼の姿が見えないのです。彼は何者かによって保護されていたのであって、写真中で誰も彼が皿を割る姿を見ることはできませんでした。

## ヨハネ二三世宛の包み物

アダムスキーはいつも朝早く起きていました。次の朝も例外ではなく、六時に起きて彼は港へ行き、そこで彼は一人の金星人に会ったのです。相手はアダムスキーに小さな包み物を渡し、ローマのバチカンへ行って、それを法王ヨハネ二三世に出来るだけ早く渡すようにと告げたのです。

アダムスキーはまたも私に電話をかけて事の次第を話してくれましたので、私は彼のフィンランドとドイツへの旅を中止しました。このことはこの二カ国の団体から全然認められなかったのです。ですからそれ以来、彼らからの協力は一切得られていません。彼らは怒ったのです。彼らはこの問題の重大さを理解しなかったのです。

コペンハーゲンのグループはアダムスキーの言う出来事、つまり港で金星人から包み物を渡された件を非常に疑って調査をしようとしました。彼らは毎朝桟橋から釣りをする一人の老人がいることを知っていましたので、その老人の所へ行って、アダムスキーの言った事柄を証明出来るような光景を見たかどうか問いただしてみました。

「はい、私は今朝桟橋の上にいました」と老人は答えます。

「私は一人のヘンなアメリカ人旅行者に話しかけましたが、それはほんのちょっとのあいだだけです。というのは、その人は別な若い人に呼び止められて、その人の方へ行ったからです」と老人は答えました。これが包み物事件の証明です。

それからアダムスキーはベルギーへ行きました。そこでは協力者のメイ・モルレと過ごしました。二人があるとき食事をしていたとき、アダムスキーが言いました。「ごらん、あのテーブルに向かって座っている人は異星人なのだ」。メイはまったく混乱してしまってほとんど信ずることが出来なかったのです。

次にアダムスキーはメイと共にスイスに向かいました。協力者のルー・チンスタークに会うためです。三人が一緒に食事をしていたとき、アダムスキーがメイに言いました。

「ごらん、あなたが会った異星人がまたあそこにいるよ」

メイが見ると、ベルギーのレストランで見かけたのと同じ人がいるのです。

その後一同はローマでもその人を見ました。したがって異星人達はアダムスキーに付き従っていたのです。

ローマではアダムスキーは法王に会いましたが、この事はよく知られていることですから、私は次の事だけをお話ししましょう。アダムスキーは、病気で寝ていた法王のベッドのそばへ案内されて、その小さな包み物を渡しました。

そこで法王はアダムスキーにもっと近寄れと言い、自分の腕をアダムスキーの首の回りにまわし、アダムスキーの顔を自分の顔に引き寄せて、低い声で言いました。「友よ、心配しなさんな。私達は目標に達しますよ」

アダムスキーがバチカンから出てルウとメイに会ったとき、彼は子供のように嬉しそうな顔をしていました。次の日、彼はバチカンから金メダルを授与されたのです。当時、それ以前にそのメダルは一人の人だけに授けられていたにすぎません。それは有名な原子物理学者のニールス・ボーアの息子であるデンマークの物理学者アーゲ・ボーアに与えられていたのです。

翌日、アダムスキーは法王が亡くなったことを聞きました。それで彼は叫んだのです。「ちくしょう、誰かが法王を殺したのだ」と。

たぶん誰かが法王を殺したのでしょう。というのは法王はイエスの使命と全体的なUFO問題の真相を伝えたがっていたからです。法王が次のように言ったことがそれを意味しています。「友よ、心配しなさんな。私達は目標に達しますよ」

ですから書物を書いたり世界中を旅したりして自分の体験を語りながら、アダムスキーはスペースピープルの存在と彼らの使命について世界に知らせたのです。

## 脱落したコーワーカー達

その当時、アダムスキーには世界中にコーワーカーと呼ばれる協力者がありました。アメリカ、ブラジル、メキシコ、カナダ、イギリス、スペイン、フランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、オーストリア、スイス、デンマーク、日本、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカなどです。

これらのコーワーカーのほとんどは、いわば脱落しました。というのは、しばらくアダムスキーのために活動したあと、GAPのリーダーとしての地位にいる彼らに対してアダムスキーがまかせた事柄を受け入れることが出来なくなったからです。それは彼らにとってあまりに空想的な事だと思われたために、彼らはアダムスキーがウソをついていたと思ったのです。彼の金星と土星への旅は各国GAPリーダーにとって難問題であったのでした。

アダムスキーが亡くなった当時、残ったGAPリーダーは数名だけでした。現在、その古いチームで残っているのはクボタ、ドラ・バウアー、メイ・モルレ、それに私です。ドラ（オーストリーGAPリーダー）は年をとっておりますが、まだ活動を続けています。彼女が活動していた頃は、比較的磨かれた石のようであった私達のなかで、輝く宝石のように光っていたものでした。メイはいまオーストラリアに住んでおり、現在はフリットクロフト夫人になっています。フリットクロフト氏と彼女はほとんど地元の範囲で活動しています。

新しいメンバーが時折GAP活動に協力するために出てきますが、いっときするとかれらの熱意は消えてしまいます。ただ一人の新しい協力者で残っているのはダニエル・ロス氏です。私達はまもなく年をとってしまいますから、ロス氏が私達と一緒に残って活動を続けることを望んでいます。

大体に世界を見ますと、UFO問題はきわめて大きな混乱を呈しています。沢山の自称専門家が世界を歩き回り、自分達の説を説いています。しばしば乱暴な説やコンタクト物語を話したりします。そのほとんどはアメリカ人ですが、大抵の国にもその種の人間がいます。気をつけて下さい。大抵のコンタクト物語はインチキです。

## 私もUFOを目撃した

私自身はときどき異星人とコンタクトしたかと聞かれますが、いいえ、と答えますと、空飛ぶ円盤を見たかと尋ねられます。一九五七年までは見なかったと答えます。それはほとんど真実です。しかし第二次大戦のさなかの一九四三年に空中高く巨大な母船が飛ぶのを見ました。数百機の連合軍爆撃機がドイツへ行く途中、私達の上空を飛びましたが、私が見上げると、その巨大な葉巻型物体が爆撃機群の後ろから飛ぶのを見たのです。

一九五三年、つまり私が妻と知り合った年ですが、二人は東から西の地平線へ輝く光体が飛んだのを一緒に見ました。その当時は皆さんがご存じのような人工衛星はなかったものですから、その光体は本物のUFOだったのでしょう。

それから一九五八年に物事がいわば急速に展開しはじめて、私に対して起こった事が世界中で同じように起こっていることを示しました。彼ら異星人は私達がやっていることを知っており、私達をガイドしています。私はここで少しそのことを説明しましょう。そうすれば、いかにして彼らが私達を助けているか、私達を導いているかが分かります。

私は今までにスペースシップを五〇回以上見ています。ここに私の体験を手短にお伝えしましょう。これは二～三の選ばれた実例です。

## アメリカのUFO出現事件

一九六三年に私が妻と一緒に物体を見る前に、私は航空管制を学ぶためにアメリカへ派遣されました。ミシシッピー州のバイロクシーの学校にいたあいだ、私はローカル新聞のモービル・ガゼット紙の記事を読みました。それにはライトパターソン空軍基地でUFOを調査していたグループが、その活動をやめたと書いてあるのです。そのグループはいわゆるUFOの背後にひそむ真実を発見したというのです。しかしそのことは公表されませんでした。というのは公表すればパニックが発生すると思ったからです。そのグループのメンバーの名前も公表されませんでした。ハリー・S・トゥルーマンと署名してあっただけです。

私は当時UFOについては何も知りませんでした。バイロクシーの学校を終えてから、オハイオ州デイトンのライトパターソン空軍基地へ派遣されました。ライト基地で六週間ほど航空管制の仕事をするためです。

そこへ滞在していたあいだ、モービル・ガゼット紙が報じた、解散したはずの例の調査グループがなおも活動していることを知りました。これは私にとって当局がウソをついていることを突き止めた最初の時です。それでこれは真実なのだと思いました。というのは一体何が正確に行なわれているのかと私は考えさせられたからです。

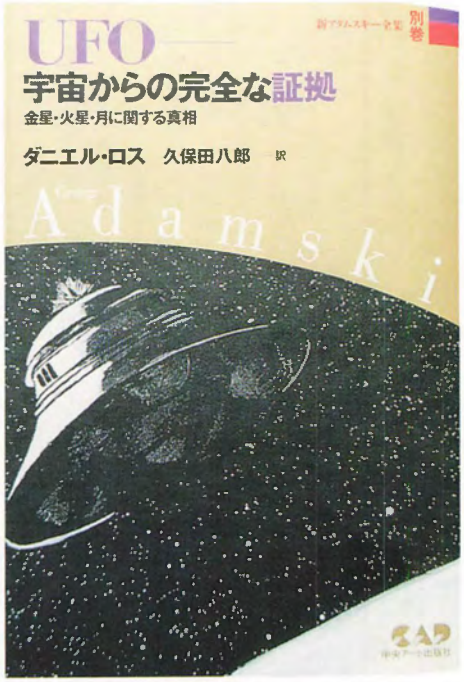
ライト基地にいたあいだに一機のUFOが飛来したことがあります。そのUFOは基地の上空に衝撃波のパンという音をたてて、雲のない空に小さな白い雲を残しました。

私が国へ帰ってから、私は航空管制システムを作る必要がありました。これはいまわが国の陸軍基地に導入されています。それで新しいレーダーをテストしていたあいだ、軍曹の一人が私に電話ですぐにレーダーの所へ来いと言います。

外は濃い霧が立ちこめていました。私がレーダー基地へ行きますと、彼らはレーダーを見せてくれましたが、そこには未確認飛行物体が時速一八〇〇〇キロメートルのスピードでスクリーンを横切っているのです。時速一一〇〇キロから一二〇〇キロのあいだに存在する音速障壁は、戦闘機タイプの飛行機を投入させることによって突破することが出来ます。

あらゆる方向から入って来るこの未確認物体群を見ていたあいだに、それらは突然スクリーンを通過するのをやめました。数秒後、それらは突然、スクリーン上であちこちに停止した状態になったのです。こんなふうに見せるためには、物体群がレーダーアンテナ上にある無感円錐域を通って垂直に降りて来る必要があります。そこならばそれらがレーダービームに入る前に探

▲ダニエル・ロス氏。 撮影／久保田八郎




▲ロス氏の著書「UFO―宇宙からの完全な証拠」の日本語版。

知されないでしょう。

物体群は飛来して、また行きました。ときどき沢山きたり、ときには数機になったりします。私は基地指令と作戦将校に来るようにと要請しましたら、彼らはすぐにレーダー装置の所へ来ました。そして一同は口をあんぐりとあけたのです。「こりゃ一体何だ?」と基地司令が尋ねます。

私は答えました。「これは空飛ぶ用盤ですよ」「いや、私はそんな物を信じない」と彼は言いました。

次に私は戦闘機でもって阻害する許可を乞いましたら許可が出ましたので、四機のジェット機に命令し、霧が上がったらすぐに離陸出来る準備の出来た滑走路上の離陸位置に両側に二機ずつ待機させました。

離陸が可能だということを天候が示したのは一一時です。ただし雲がまだ低く垂れこめています。私はジェット機に発進せよと命令しました。

私がこの命令を下す直前に、四〇キロのレーダー測定範囲の中に一二機の物体群がいましたが、私が発進の命令を下した瞬間、一二機のうち一〇機が消えたのです。残ったのは二機だけでした。これらのうちの一機は基地から一五キロ北方に位置しており、他の一機は基地から二〇キロ南方にいました。

私はそれで二機に対して北へ飛ぶように、他の二機には南へ飛ぶようにと命令したのです。二機が北の位置に接近したとき、私は言いました。「目標は一二時の方向に位置している。距離は五キロ。高度は不明」

その瞬間、物体は消滅しました。パイロットは何も見なかったのです。二番目の物体は南の方の位置にまだいました。他の二機は南方へ接近したのです。それで私はパイロットに言いました。「そちらの目標は一二時の方向にいる。距離は五キロ。高度は不明。見えるか」

するとまた同じ事が起こったのです。その物体は私がパイロット達に情報を伝えた瞬間に消えたのです。

結論として次のことが言えます。スペースブラザーズはパイロットに対する私の命令を聞いていて、UFOがレーダースクリーンに見えて、我々がそれを阻害しようとしたときに、どのように見えるかを私に見せたかったのです。たぶん彼らは、私が世界中から将来何度もこのようなことを聞くようになることを知っていたからでしょう。

私はもうUFO研究を続けませんでしたが、この事件によって別な段階へ進むことになりました。

## 真実を抹殺するデンマーク空軍

この事件があってからまもないある朝、私は私の国で少なくとも、真実を抹殺する最初の実例を目撃しました。朝の訓示のときに、一人の大佐が全パイロットや作戦将校達の前に行って、次のように話したのです。

「全員聞け。私はここで発表したいことがある。あとになってから質問することは許さない。私がみんなに伝えるように命令されているのは、アメリカ軍のレーダー基地には問題が生じているということである。この問題とは、彼らのレーダースクリーンに未確認の目標物が現れるのだ。彼らはそれを『天使』と呼んでいる。それらはいつでも突然に現れるニセ映像なのだ。それらが危険であるかもしれないと信ずべき理由はない。このような映像はデンマークのレーダースクリーンにも期待されるかもしれないが、我々はその現象に関するいかなる報告も望まない」

以上は暗躍するサイレンスグループでした。

以上は私がUFO研究を始めようと決めた頃のことです。これについてはお話ししません。話せば数日間を要するからです。しかし私がアダムスキーの書物『空飛ぶ円盤は着陸した』を読んでまもなく、そしていわゆるアダムスキー円盤の写真を見たとき、私は一人の古い友人と会ったような気持になったのです。

## 自分自身のUFO目撃

一九五八年八月九日の夜二時頃、私は妻と二人で一個の輝く物体が着陸するのを目撃しました。最初にそれを見たとき、それはどこからともなく来たのですが、眼前の真っ暗な高い空にいたのです。私達は車をとめて外へ出て、その物体がゆっくりと降りて来るのを見ました。私達の左方の近くに着陸したのです。そこは夜間には行けない場所です。

一九六〇年六月一四日、私は午後五時に仕事から帰りました。家族は祭日でおらず、私はただ一人でした。私は新聞をつかんで一番良い椅子に座り、ゆったりとしていました。

私が座ったとたん、異様な警戒感とおかしなフィーリングを感じたのです。そこで家族に電話をかけたのですが、みんなは元気でした。しばらくのあいだ、これは一体何だろうと考えましたが、やがて、アダムスキーもコンタクトをする前に奇妙な感じがしたことを思い出したのです。

私は少し微笑して自分に言い聞かせました。「これはアダムスキーが体験したのと同じだという考えを起こしてはいけない」

しかししばらくしてから私は少なくとも似たような事だと思ったのです。しかしそれについてどうすればよいかは分かりませんでした。

それから私は車でドライブに出て、五〇平方キロの地域を十文字に横切ったりしました。六時間ほど私はどんどんドライブを続けて、止まっては空を見上げたりしました。家に帰ったのは夜の一一時でしたが、まだ奇妙なフィ

ーリングが残っていました。
私は再び新聞をつかんで、同じ椅子に座りましたが、その瞬間に奇妙なフィーリングが消えたのです。「ああ、救われた」と思いましたね。
私は寝ることにして二階へ上がる階段の中程まで昇ったとき、また奇妙なフィーリングに襲われたのです。しかし今度は窓の外を見よという明確な想念が起こりました。一階にある窓は東側だけが見える大きな窓です。
私は急いで窓の所へ駆け寄りましたが、何も見えず、夏の夜空が見えるだけです。『窓』という考えはきわめて鮮明に浮かんできましたから、疑問はありません。何かが起こる必要があったのです。
私は服を脱いでベッドに入る前に何度も窓の所へ駆け寄って外を見ましたし、ベッドに入ってからも飛び出て外を見ましたが、やはり何も見えません。
それから私は眠り込んだに違いありません。というのは突然目が覚めたからです。ベッドの脇のテーブルに置いてある時計を見ますと、二時一二分を示しています。
私は窓の所へ駆け寄りました。すると空中に巨大な葉巻型の物体がいるのです。一方の端は家に接近していて、さほど高い所にはいません。その物体は真っ黒でした。私が言うのは、ライト類は見えないという意味で、薄明るい朝の空に黒いシルエットのように見えました。
私は一階へ走って降りて双眼鏡をつかみ、また窓の所へ走って上がりました。しかし物体はもう見えなくなっていましたが、それがいた位置から地上の方へ向かって煙のように見える濃い黒い柱が残っていました。私はカメラをつかんで外へ出て、写真を撮りました。この写真はそれが実際の体験であったという唯一の物的証拠です。
しかし私は、このことはすべてあらかじめ計画されていたことで、多くの人と同様に、私も上空から見つめられていたということを強く感じたのです。私のテレパシー能力をテストしたあとで物体が出現したわけです。

## レーダーに現れた不思議なUFO

ある夜、軍の基地で我々が夜間の訓練を行なっていたとき、スペースブラザーズは別な体験を私に与えました。最初の飛行機が離陸する直前、レーダーのオペレーターが私に電話で言います。
「我々はスクリーン上に一つの物体を見ています。それは低空で、東方一五キロの位置にいます」
「有難う。それに注目し続けてくれ。何かが起こればまた報告してくれ」
少ししてから彼は別な物体が出たと報告してきました。両方の物体とも半径一キロの円を描いて旋回しています。軍用機が帰還して着陸するときに最後の接近のために旋回する場所の真上です。
あとから来た物体はしばらくしてから離れましたが、他の物体は軍用機が帰って来るまで夜中同じ位置に停止していました。次々と軍用機が二万フィートの高度で基地の上空へ入って来ます。そして東方へ旋回して一二〇〇〇フィートに高度を下げます。しかしそこには例の未確認物体が軍用機の下方で旋回しているのです。
オペレーターの眼前にいる軍用機のすべては地上に着陸したか、または着陸態勢に入っているのですが、私がよく知っているパイロットの乗っている最後の飛行機が頭上の位置から東方へ旋回して高度を下げました。
その彼が一二〇〇〇フィートに高度を下げて、着陸態勢に入ろうとしたときに、レーダーのオペレーターが、例の未確認物体がその位置から離れて着陸しようとしている飛行機の方へ向かったのです。オペレーターはすぐに衝突の警告を発しました。
「ダスウッド二六。注意せよ。未確認物体がそちらの右側の後ろから上昇しているぞ。」パイロットは答えました。
「了解。分かった。私は――おや、いなくなったぞ」
レーダースクリーン上でオペレーターが見たのは、ほんの一秒以内にその物体は、飛行機とともにいた位置から、五〇キロも離れたある橋の真上の位置まで『ジャンプ』した光景です。私はレーダーステーションが活動していたあいだずっとその場所にいました。
着陸してからパイロットは私に話しました。彼は、レーダー基地が彼に衝突の警告を発すると同時に突然自分の右側に大きな黒い影を見た。それで彼がレーダー・オペレーターに物体をよく見るつもりだと報告しようとしたとき、それは消えてしまったというのです。
ひどい吹雪の別な夜、滑走路の除雪をするために数台の除雪車を使っていました。除雪車の一台が滑走路の東側の端に近づいたとき、乗っていた連中が強力なライトの真上にアダムスキー型円盤が滞空しているのを見たのです。彼らはすぐ私に報告しました。しかしそれを見ていたあいだに物体は飛んで行ったのです。

## 一牧師の奇妙な体験

ある夜、私は小さな集会で講演しました。そのあと、土地の牧師が私に警告したのです。「中佐、注意しなさい。あなたの空想事は生命の保証をしませんよ。あなたは何が真実で、何が希望的観測かが分かっていないんだ。あなたの講演は最も面白かったが、正直に言ってあなたが話した事は私にはほとんど信じられなかった。しかし」と彼は続けて、「あなたが話してくれたことに似たようなことを私が体験したなら

ば、知らせてあげますよ」というのです。

約一カ月後に、彼は私に電話をかけてきました。「中佐、あなたを信じなかったことを大変申訳けなく思う。先日の夜、死にかかっていたある婦人を見舞ってから、そこを出て、ほんの数キロほど車で走ったとき、私の車が停止した。

私がエンジン部をあけたとき、先夜あなたが講演で話したことが起こったのだ。『もし車が急にエンコしたらそれはUFOのせいかもしれない。そのときは空を見上げなさい』

そこで私は見上げた。するとUFOが真上にいるじゃないか。

それから私はじっとしていた。そのようにしろとあなたが言ったからね。UFOが飛び去ったとき、私は独り言を言った。『物体が飛び去るとすぐに車のエンジンが再度始動するとピーターセン中佐は言ったぞ』

そこで私はイグニッション・キーを回した。するとエンジンがかかった。それで私は帰宅したのだ。首をひねりながらね」

## アダムスキー型円盤の出現

一九六一年一月一一日、私は当時住んでいたところから車で二時間離れた小さな町で講演をしました。私はその講演会へ急行するために仕事から帰ったのです。休息も夕食もなしに――。

講演は終わって時刻は夜中の一一時三〇分でした。あたり一面は薄い雪で覆われています。金星が夜に精彩を添えて輝いています。

私は狭いでこぼこ道を非常にゆっくりと走って大通りに出ようとしていました。私は次第に不快になって、ハンドルに寄りかかりながら冬の夜空を見上げて叫びました。

「聞いて下さい、空中の方々。私はこの地球であなた方に協力しながら身を粉にして活動しています。あなた方は何をしているのですか。独りぼっちで、お腹をすかして疲れて眠たくなっている私を見捨てるだけですか」

そのとたん、輝くアダムスキー型円盤が車の前方を通過したのです。たぶん一五〇メートル前方でしょう。地上から約二〇メートルぐらいでした。

ある日、私が基地の管制塔で非常に忙しかったとき、大きな物体が頭上を通過するのを見ました。天候は悪くて、物体は低い雲の下にいました。それはこの講演のあとで皆さんにお見せするつもりの物体に似てカムフラージュしていたのです。

## 消えていった巨大な円盤

一九八〇年のある夜、私は妻と二人で夜一一時三〇分にサマーハウスを出て、湾岸沿いの道路をドライブしたのです。そのとき東の方の低い丘の上方に奇妙な物を見たのです。しかしそれが何であるかはよく分かりません。丘の頂上に登ったとき、巨大な円盤が地面に着地しているのを見たのです。真っ暗闇の中ですから、そこまでの距離がどれぐらいかは分かりませんでした。

私達はそこの地形をよく知っていましたから、物体までの距離を二〇〇ないし八〇〇メートルと見積もったのです。その物体は乳白色で、輝いてはおらず、ライトもついていません。形は蓋のついたスープ皿をさかさにしたようでした。大きさはもちろん距離によりますが、大体のところ直径は三〇〇メートルあったと思います。

さて、その物体はその場で、船体をいかにカムフラージュできるかを見せてくれたのです。それは目に見えない状態になり始めたのです。私達に対するデモとして、非常にゆっくりと鮮明に――。

それはあたかも大きな滑り戸が右側から非常にゆっくりとその物体の前を覆うかのように見えるのです。約三分の後、そのカムフラージュは右側から左へ完全に行なわれて、物体は見えなくなりました。

## 崩壊する超小型UFO

私達の次の体験は、これもあらかじめ計画されていたのでしょうが、小さなリモコン物体――つまりテレメーター円盤の破壊です。

私が自分のサマーハウスの入口のドアーから出たとき、ひどい悪臭に襲われたのです。私はその理由をみつけようとしたのですが、妻が出てきたとき、それが分かりました。その悪臭はドアーの前で最もひどかったのです。突然分かりました。ドアーと壁のあいだの隅に茶色のゼリーの塊があるのです。それは崩壊する小さなUFOでした。

私はグラスにスプーン一杯の物質を取りました。それはいまここにあります。いまは液体になっています。もしばらくグラスのふたを取っておけば蒸発するでしょう。

一九八八年八月八日、私は別なUFOのデモを見ました。私がサマーハウスの屋根にいて煙突のペンキ塗りをやっていたとき、ジェット機の音を聴いたのです。空を見上げると、二機のジェット機が一機のアダムスキー型円盤を妨害しようとしているのです。円盤はスピードをあげて、数秒間で東方へ飛び去りました。

## またもアダムスキー型円盤が

一九八九年六月一九日、ダニエル・ロスとパメラ夫人と私がサマーハウスのリビングルームに座っていました。時刻は夜の一二時を一五分ほど過ぎていました。私達はアダムスキーのことや、転生のこと、世界がいかに無知な状態にあるかとか、スペースピープルのことなどを語りあっていました。

（以下16頁へ続く）

1991 GAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY

アダムスキー生誕一〇〇年記念・日本GAP創立三〇周年記念・新アダムスキー全集刊行完結記念

1991年度

# 日本GAP総会

一九九一年九月二二日(日)、東京都中央区の銀座ガスホールにおいて、一九九一年度日本GAP総会が開催された。

今年は、世界的に有名なコンタクティー、ジョージ・アダムスキーが生まれてから一〇〇年目、そのアダムスキーの要請により久保田八郎会長が世界的な「知らせる運動」の一環「日本GAP」を設立してから三〇年目、さらに昨年から中央アート出版社より順次刊行されてきた「新アダムスキー全集」が本年八月をもって全一〇巻が完結するという誠に慶ばしい年となった。これら三つの慶事を記念して、本年度の日本GAP総会では、デンマークGAP創立者であり、アダムスキーとも親しく会見したことのあるハンス・ピーターセン氏をお招きして大講演会を開催した。

会場には開会二時間前から受付を待つ熱心な出席者もあり、約二七〇名の方々が訪れて総会を盛り上げた。

午後一時に始まった総会は、まず久保田会長の挨拶。本誌前号「巻頭言」にもあったが、一口に三〇年といってもその功績は一朝一夕のものではなく、並々ならぬ御苦労があったに違いない。しかしそのような〝苦労話〟を得意気にお話しになる方ではないので我々には推察できかねるが、アダムスキー生誕一〇〇年と日本GAP創立三〇周年という歴史が久保田会長の胸中をよぎる時、その感慨はいかほどであろうか。

続いて、日本GAP地方支部の中で最も歴史が古く、長年に渡って久保田会長を支えてこられた大阪支部の平塚和義代表と、膨大なアダムスキーの著書と資料を新アダムスキー全集として発行して下さった中央アート出版社の吉開狭手臣社長からご祝辞をいただいた。

一時一五分からいよいよハンス・ピーターセン氏の講演が始まった。「アダムスキーとUFO問題の真相」と題して、ピーターセン氏がUFO問題に触れるきっかけとなったエキサイティングな出来事や、アダムスキーと会った時の様子や秘話が次々と紹介される。講演内容は本号に掲載されているのでそれをお読みいただくとして、とにかく年齢を感じさせない力強い話し方と、増々磨きのかかった情熱に圧倒される思いであった。

休憩を挟んで次はピーターセン氏ご持参のUFO関係のビデオとスライドが大スクリーンに映写された。ビデオではカラーも含めた本邦初公開の大母船やUFOの編隊などが、またスライドでは中世の絵画に描かれたUFOや、月面の建造物の数々、アポロ宇宙飛行士を見守るUFOなど貴重な映像が多数紹介され、会場からは驚嘆の声が漏れた。

上映後は、本誌にも連載され、この度中央アート出版社より新アダムスキー全集別巻として発行された「UFO——宇宙からの完全な証拠」の著者であり、アメリカGAP会長でもあるダニエル・ロス氏から日本語を交えたお祝いの言葉をいただいた。ロス氏はこの総会に出席するためにわざわざアメリカから駆けつけて下さったのだ。

そして東京本部の小宮明子さんと米永紀子さん、大阪支部の山崎真由美さんと福井貴子さんが感謝を込めてピーターセン氏、ロス氏、吉開社長、久保田会長に花束を贈呈し、最後にピーターセン氏からご挨拶をいただいて、本年度日本GAP総会は大盛況の内に幕を閉じた。

六時三〇分からは会場を東京ホテル浦島に移し、大夕食会が開催された。ここではピーターセン氏とロス氏の奥様にもお越しいただき、全員記念撮影、久保田会長の挨拶、ロス氏の乾杯音頭、佐藤春雄氏の民謡、升田裕子さんの美しい歌声、ロス氏ご夫妻と坂本氏ご夫妻の合唱、スカウトシップの演奏などを楽しんでいただいた。ピーターセン氏は出席者からの質問にも積極的にお答え下さったり、快く記念写真に入って下さるなど大変気さくで親しみやすい方だった。また会場の一角には総会のスライド上映では紹介しきれなかった貴重な写真や文献などが数十点展示され、たくさんの方が熱心に見入っていた。

こうして一三〇名に及ぶ大夕食会は九時に終了したが、例によって名残りを惜しむ方々が銀座の別会場で二次会を開いた。うれしいことに、この二次会にもピーターセン氏ご夫妻とロス氏ご夫妻がお越しになり、世話係の予想をはるかに上回る約八〇名の大二次会となってしまった。そしてここでもピーターセン氏は会場内を動き回り、深夜まで多くの方々とのふれ合いを楽しんでおられた。

今年、ピーターセン氏をお迎えして個人的に感じたことは、情熱を持ち続けることの大切さと素晴らしさである。ロス氏もおっしゃったように、ピーターセン氏と久保田会長という偉大なお二人に接することができたことを、私も心から光栄に思うものである。

(安藤澄雄)

**▲左上より**篠司会者、久保田会長、平塚大阪支部代表、吉開中央アート出版社社長、ハンス・ピーターセン氏。
**中上より**ダニエル・ロス氏、花束を受けるピーターセン、ロス、吉開、久保田の４氏、大夕食会開会前の記念撮影、ロス夫妻を囲む大阪支部会員、ピーターセン氏を囲む人々。
**右上より**佐藤春雄氏の秋田民謡、升田裕子さんのソプラノ独唱、スカウトシップの演奏、ロス夫妻と坂本夫妻によるアメリカ民謡、フィナーレの大円陣行進（伴奏はスカウトシップによる行進曲『旧友』）。　撮影／松村芳之

（13頁より）

突然、瞬間的ながら強力な赤い光が南に面した三つの大きな窓を照らしたのです。私は大声で言いました。「彼らが来た。外へ出て見よう」

外へ出てみますと、夏の北の空に、真夜中なのに新聞が読めるほど物体は非常に明るいのです。ただ一個か二個の明るい星が見えるだけです。数秒後、私達はみな人工衛星ほどの大きさの物体が西からやってくるのが見えました。ほとんど頭上を通過してから、ゆるやかな右旋回をして、一分後に南からはいってきて、頭上を通過しました。

私はその高度を約一万フィートと見積もりましたが、そのあと、ダニエルとパメラと私が各人の寝室へ入ってから、寝室から出てきた妻がもう一度その物体を見たのです。それはまたも西の方から来たということで、今度はかなり低く、いつのまにか高く出ていた月を通過したときには、妻ははっきりとアダムスキー型円盤を見ることが出来たのです。

## スペースブラザーズは見守っている

皆さん方は私が意味することを充分に理解されることと思います。先程私は申しましたが、スペースブラザーズは私達を見守っており、私達が何をやっていても彼らは知っており、私達の一歩一歩の歩みを知っているということなのです。そして彼らは私達を導くことによって私達を助けているのです。

ジョージ・アダムスキーがいなかったら、この問題は可能にはならなかったでしょう。というのはその場合、私達も世界のあらゆる人も事実や真実に目を向けなかったと思われるからです。その真実を当局は隠しています。

したがって、もし私が皆さん方にアドバイスをするとすれば、それは皆さんの歩む道をきれいに保ちなさいということです。派閥の妨害もなしに、偽りのコンタクト物語もなしに――。というのはこんなことはすべてみなさんに有害であり、皆さんの心の中にスペースブラザーズの活動、目的、真の目標に関して混乱した概念を心の中に作るからです。それは皆さんの波動を低めることになります。

ジョージ・アダムスキーの教えに執着しなさい。そうすれば皆さんは訪問者に関する真実や生命に関する真実について理解する機会を持つようになります。そして新しい世界の運動である『ニューエイジ』から遠ざかりなさい。それは一見真理を語っているように見えますが、実際には皆さんをゆっくりと脇道へそらさせます。そうなると皆さんは立ち止まってしまいますが、一方、真理は大通りを進んで行き、皆さんの進路や視界らそれてしまいます。

どうも有難うございました。皆さんにお話しできたのは非常な喜びです。

# 金星表面に超長大な水路を発見！

NASAが八月三一日付で発表したところによると、金星探査機マゼランはイメージング・レーダーで金星の地表を探査中、太陽系中で知られている最長の水路を発見したと、カリフォルニア州パサデナにあるNASA(米航空宇宙局)のジェット推進研究所でプロジェクト・スポークスマンが発表した。

この水路は六七二〇キロメートルにわたって金星の平地に延びており、これは地球最長のナイル河よりも長いと、プロジェクトの科学者スティーブ・ソーンダーズ博士が言う。「こんなに長い水路の存在そのものが凄い謎だ。その長い水路が地表に溢れる何かによって刻み付けられたものとすれば、流体は異常な特性を有していたにちがいない」と彼は付け加えた。

ソーンダーズは言う。それは、金星の平均的な地表条件における凍結または溶解に近い状態にあったなにかの物質であったかもしれない。

「そこには流体になるようなものはない。非常に高温の溶岩であったにしても、そんなに長く流れるには凄く突出する必要があるはずだ」

彼によると、この水路は幅がきわめて均一で、平均一・六キロメートルを少し超える程度であるという。「それは曲がりくねった滑らかなコースをなしており、アタランタ・プラニティアと呼ばれる大盆地に近い北方のアトラ・レジオの真西の地表を連続して走っている」

一九八四年にはソ連の金星探査機ベネラ一五号と一六号によって、その水路の断片が発見されている。これは約一キロから二キロまでの分解能をもつレーダーを搭載していた。これよりも高度な探査能力をもち、一二〇メートルの物まで識別するマゼランは、その水路のコースを全部発見したのであるとソーンダーズは言った。

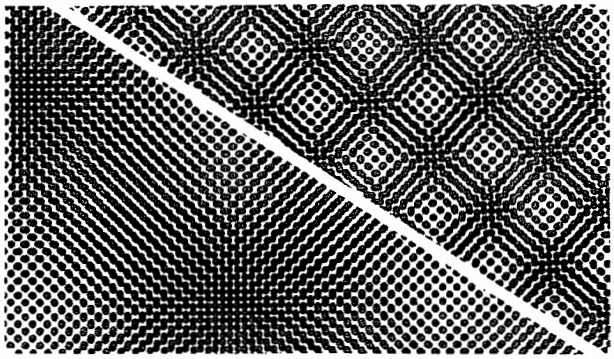
金星の他の部分にはこれに似たような水路が多くの平野の表面に発見されてきたと彼は語る。ある場合は、その水路（複数）は溶岩の流れのなかで停止しており、これはたぶん火山の爆発から流れ出た溶岩によって形成されたことを示している。これに似たような現象は地球では知られていない。ただし数十億年昔には地球でも溶岩による水路が形成されたことが知られている。

この水路の起源に関する理解へのチャレンジは、惑星の地質学的なプロセスと物質の特性のような、関連する多くの分野の、より良き理解に至るだろうとソーンダーズは述べた。

マゼランは現在金星の北極を探査中である。五月一五日に終わった最初の二四三日間の探査期間中に、この探査機は金星の八五パーセントを調査した。マゼランはいま金星地表の長い地域を探査するために高感度アンテナを右方に向けている。最初の探査期間中、レーダー・アンテナは左方へ向けられていた。

（資料提供／原　永庫）

編注＝この件に関する新聞記事類では、「川床」を発見したとなっているが、右の英文資料ではchannelとなっており、これは水を含む意味が強い。この語源はもと「水管」であって、運河を意味するcanalと同義である。川床なら水のない状態をあらわすけれども、それならばbedとするほうが適切だろう。言葉の綾で意味が大きく変わり、そのために重要な真意を見逃すことがあるから注意を要する。



# 28年ぶり宇宙からの帰還!?

**今年８月１日付米紙「サンニューズ」によると、1963年、極秘裡にロケットで打ち上げられたアメリカの宇宙飛行士が大気圏外で失踪をとげたあと、今年28年ぶりに地球へ無事帰還するという驚異的な謎の事件が発生したという。一体どういうことなのか？**

この宇宙飛行士はチャールズ・ヒンソン海軍中佐。この人がどのようにして宇宙飛行で生き延びたのか、如何なる方法で地球へ帰って来たかについては、ＮＡＳＡ（米航空宇宙局）は発言を拒否しているけれども、「たぶん我々には準備できないような何事かが宇宙空間で発生したのだろう」と情報筋は個人的に肯定している。「我々には絶対に説明できないような何事かが起こったのだ」

「それ以外に何が言えるというのだ？」とＮＡＳＡの内幕に通じている一高官が続ける。「ヒンソン中佐が1963年に打ち上げられて各種の指令を受けてから４時間後に連絡が途絶えた。我々は彼が死んだものとあきらめるより他に方法はなかった」

「しかし彼が宇宙空間で消えてほぼ28年後の今年３月26日、海軍の一軍艦が救助を求める信号をキャッチして、南太平洋に着水した中佐を救出したんだ。

彼はとても健康そうに見えたが、方向感覚を失っていたし、とてつもなく正常な感覚をもたなかった。だが地球外生物または超自然的な力をもつ物などに明白に言及して彼は『これ以上は言えない。あなたがたは理解する必要がある。彼らは我々の友人ではないんだ』と言い続けている。

それが何を意味するかを私が（情報筋が）言えるとすれば言うだろう。だがヒンソンは詳しく話さないだろう。彼はワッと泣き出しただけだ」

ＮＡＳＡの権威筋は1963年のロケット打ち上げに関する前代未聞の秘密のふたをピシャリと閉じてしまった。いま69歳になるヒゲを生やしたヒンソンがずっとＮＡＳＡの職員であることを、ＮＡＳＡは肯定も否定もしていない。

インサイダー（内幕を知る人）たちはこの件であまり隠しだてしない。しかも実際にはヒンソンの写真と着水したジェミニ宇宙船の写真も公表した。これは過去28年間ヒンソンの住み家だったものだ。

「この宇宙旅行はもともと６カ月間続けることになっていた。そして宇宙船がテストされていなかったために秘密裡に行なわれた。連絡が途絶えたとき、我々は宇宙船に故障が起こったと思ったのだが、そうではなかったことがいま分かっている。もちろん今のところほとんど心配はしていない。

それよりも我々は６カ月分の酸素、食料、水などがそろえてあっただけなのに、どのようにしてヒンソンが生き延びたのかを知ることにもっとも関心がある。地球外生物かまたは超自然的な力をもつ者がヒンソンの生還となんらかの関係があるかどうか――」

ＮＡＳＡはこうした疑問に答えようとしているのだが、ヒンソン中佐はいまカリフォルニア州のエドワーズ空軍基地で検疫を受けていると情報筋は言う。ジェミニ宇宙船がどこにあるかは不明だが、これもエドワーズ空軍基地で調査されているという噂がある。

「我々の調査はいまヒンソンを調べている精神医学団の成功いかんにかかっている」とインサイダーが言う。彼が話すまで我々の言えることは、彼は不可能な旅に出て、なんとかして、なんらかの方法で帰って来たということだけだ」

**サンニューズ紙の編者注**＝本社の12名から成る記者、編集者、カメラマン等がこの宇宙飛行士の事件にとりかかり、今後もこの件に関して発展があれば掲載するつもりである。

編者注＝この記事はメイン州に住むアリス・ポマロイ女史から送られたもので、現在、これ以上の詳細は判明しない。アメリカ文化センターに照会したが、このような打ち上げの記録は文献に出ていないという。記事内容に関しては真偽いずれとも判定しがたい。真実であったとしてもインサイダーが内容を歪めているか、または事件全体が情報工作によるフィクションなのか、全体が真実なのか、真相はまだ闇の中にある。今後のＮＡＳＡの動向を注目したい。左頁はサンニューズの記事。

# U.S. ASTRONAUT LOST IN SPACE SINCE 1963 RETURNS TO EARTH!

## Man vanished 28 years ago during secret NASA mission!

LEFT: POWERFUL *Atlas* rocket blasts off into space carrying astronaut Charles Hinson in his modified *Gemini* space capsule.
BELOW: SHOCKING photo of astronaut Hinson's splashdown and recovery at sea — 28 years after he vanished in outer space — was leaked to *The NEWS* by NASA insiders.

By NICK MANN
In Washington

**An astronaut who was lost in space during a secret nission in 1963 has returned to Earth — 28 mind-numbng years later!**

And while NASA refuses to say how Commander Charles Hinon managed to survive the flight, much less get back to Earth, sources rivately concede that "something we couldn't possibly have prepared'or happened up there, something we may never be able to explain"

"What else can I say?" continued one highly-placed NASA insider. "We lost contact with Cmdr. Hinson four hours after he was launched in 1963 nd given the circumstances, we had no choice but to give him up for dad.

"But on March 26, almost 28 years to the day after he vanished in space, a Navy vessel picked up a distress signal and rescued the commander after he splashed down in the South Pacific.

"He appears to be in good health but as you might suspect, he's disoriented and not making a heck of a lot of sense.

"But in an apparent reference to extraterrestrials or supernatural forces, he keeps saying, 'No more. You've got to understand. They are not our friends.'

"If I could tell you what that means, I would. But Hinson won't elaborate. He just breaks into tears."

NASA authorities have clamped an unprecedented lid of secrecy on the 1963 space shot and will neither confirm nor deny that the bearded Cmdr. Hinson, now 69, has ever been on the agency's payroll.

Insiders have been much less secretive and actually leaked photos of Hinson as well as splashdown shots of the modified *Gemini* capsule that was his home for the past 28 years.

"The space flight was originally scheduled to last six months and was conducted in secrecy because the capsule was untested," said one veteran source.

"When contact was lost we assumed that the capsule had failed but now we know it didn't.

"That's the least of our worries at the moment, of course. We are more concerned with finding out how Hinson survived 28 years on a six-month supply of oxygen, food, water and Tang. Why a 28-year-old space capsule is in mint condition. And if extraterrestrials or supernatural forces really did have anything to do with Hinson's survival."

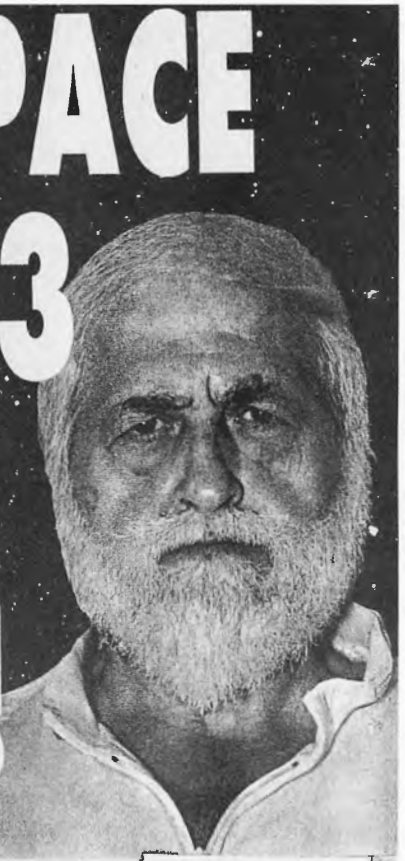
While NASA attempts to answer those questions, Cmdr. Hinson remains under quarantine at Edwards Air Force Base in California, said the sources.

The whereabouts of the modified *Gemini* capsule is unknown, although it is rumored to be under study at Edwards as well.

"Our investigation hinges on the success of the psychiatric team that is trying to get through to Hinson," said the insider. "Until he talks, all we can say is that he went on an impossible journey and some- how, some way, made it back."

**EDITOR'S NOTE:** A special team of 12 *NEWS* repoters, editors and photographers has been assigned to the astronaut story and we will continue to keep our readers abreast of developments as they occur. Follow-up stories will appearin future editions as warranted.

SECRET astronaut Charles Hinson in 1962 shots



PHOTOGRAPHER snapped this photo of Cmdr. Hinson

# 突然消滅した10人の少年少女！

## 10 Bicyclists Vanish in Fog Cloud!

今年五月六日、フランスのマルセーユ郊外で開催された慈善資金作りの自転車ロードレースで疾走中の選手一〇名が、突然出現した巨大な霧のかたまりの中に走り込んで二度と現れず、そのまま行方不明になるという世にも不思議な事件が発生した。

「彼らは厚い霧の中に走り込んだぎり、あとは出てこなかった」と目撃者のローラン・ソージーが言う。「叫び声も衝突音も何もなかった。何がなんだかわからない」

警察はずっと捜索しているが、一人も発見できない。この集団に付き添って伴走した一人、ローランが唖然とした顔で語る。

「このロードレースには約八〇名の一〇歳代少年少女が参加していた。私はマルセーユ郊外の曲がりくねった丘に沿って彼らと一緒に伴走する八人の大人の一人だった。彼らはエイズ研究資金作りのレースで走っていた。

彼らは一〇人のグループで走り、私は車からその先頭集団のあとをついて行った。トラブルを起こす選手を救出するためだ。

この集団は五名の男子と五名の女子から成っていた。彼らは田舎道の素敵な長い自転車競技に胸をふくらませていた。

しかし二時間後に、あるカーブを彼らが曲がったとき、道路を覆っていた霧のかたまりの中に突っ込んだぎり、彼らは二度と出てこなかった。

一同が私の前方で霧の中へ走り込んでから約一五秒後に私の車も突っ込んだ。私は車のライトをつけた。霧は豆のスープのように濃い状態だったからだ。霧の中から出たとき、ヤング達が前方を走っているものとばかり思ったが、いないんだ！　沿道に一〇ないし一五人がジュースのビンを持って立っていた。一同に聞くと、選手達は全然霧の中から出てこないという。

少し後に霧が晴れたけれども、選手達の姿は全然見えない。

警官達も首をひねるだけだ。『全く何の形跡もない』と呆れ顔のクロード・ブルナー刑事が言う。『我々は数マイル一帯をしらみつぶしに捜索したが、一〇選手は跡形もなく消滅した。一人や二人の失踪なら脱走か誘拐が考えられるのだが、健康な体をした一〇人がいっぺんに消えるとは、どうしようもないな』

UFOが降下して彼らをさらっていったのだろうと言う人がいたが、誰も笑わなかったね」

（米ウィークリー・ワールド・ニューズ紙一九九一年五月七日付）

▼謎の失踪を報じた米紙ウィークリー・ワールド・ニューズ

**BIZARRE ENDING TO TEENS' RIDE FOR CHARITY**

# 10 BICYCLISTS VANISH IN FOG CLOUD!

**Ten teenage bicyclists on a charity fund-raising ride through the countryside pedaled into a 150-foot fog bank — and vanished off the face of the earth!**

"They just rode into the thick fog and never rode out," said bewildered witness Roland Saugey.

"There were no screams, no crashes, no anything. It was like something right out of the Devil's Triangle.

"The cops have searched for a month now and they haven't found a trace of them — not one single clue."

The flabbergasted schoolteacher was one of eight adult volunteers assigned to accompany the teens on their trek through the rolling hills outside Marseilles, France.

"There were about 80 kids on the trip altogether and they'd all signed up pledges for AIDS research," rattled Roland told a reporter.

"They rode off in groups of 10 and I followed the first bunch in my car, just in case anybody ran into trouble. There were five boys and five girls, and they were all looking forward to a nice long bike ride in the country."

But two hours out, the unsuspecting schoolkids rounded a curve, rode into a fog bank — and disappeared forever.

"I saw them go into the fog ahead of me, and I drove in about 15 seconds later." Roland recalled. "I turned on my lights because it was thick as pea soup in there, and when I came out I expected to see the youngsters up ahead of me, pedaling away.

"But there were 10 or 15 people picking up bottles along the road and they told us the kids never came out of the fog.

"The stuff lifted a little later, but we never found a trace of those kids or their bicycles. It was like the earth just opened up and swallowed them alive."

## They rode in — and never came out, say eyewitnesses

BAFFLED cops can't explain why 10 teenage bicyclists vanished without a trace in a fog bank.

And the cops are just as bamboozled as anybody else.

"There's no sign of foul play — there's no sign of anything," said dumbfounded detective Claude Bietner.

"We have searched every square inch of ground for miles around and there's no indication any of those kids has ever been there.

"If it was one or two teenagers, you'd say maybe they ran away or were abducted. But 10 able-bodied teenagers on bicycles, with a man in a car right behind them — there's just no way.

"The other day, somebody said a spaceship swooped down and got them. And the scary thing was, nobody laughed."

— JOE BERGER

# 暗闇から現れた不思議な人々

久保田八郎

一九四〇年の暮れも押し詰まったある寒い日、メァリー・ボガートは夫のフランクとともに車を運転してテネシー州チャタヌーガ付近の山道を走っていた。

夜の暗闇の中で、岩だらけのでこぼこ道をごろごろと進むうちに、タイヤがパンクしたではないか！

真っ暗なのでタイヤを交換することができない。夫婦は途方にくれてしまった。どうしよう。こんな山奥に救援に来てくれる人などありはしない。

身が凍りつくような寒気のなかで一夜を過ごすことも不可能だろう。

凍死？　不安と恐怖が全身を襲い、いてもたってもいられぬ焦燥にかられる。

だがメァリーは気をとりなおした。そうだ、お祈りをしよう。

「神さま、私達は今この山の中で立ち往生しています。どうすることもできません。どうぞ全能のお力で私達をお救い下さい」

彼女は星々の輝く夜空に向かって大声で呼びかけた。不気味な森林がその声を飲み込んで、残るのは静寂のみ。

空しい結果に終わるのか。

突然、前方に車のライトがきらめいた。あっ、人が来る！　助かるのか、それとも——。

安堵感と不安が交錯する。

暗黒の中から一台の車が接近した。ドアが開いて、二人の男が飛び出る。見たこともないような大男で、顔にヒゲを生やしており、ラフな格好をしている。

二人は素早く車を〝大きな素手で〟持ち上げてタイヤを取り替えると、アッというまに去って行った。その間終始無言。

一九五二年。この年フランクは海軍将校としてヨーロッパに赴任しており、メァリーも一緒に暮らしていた。

ある日メァリーは夫とともに子供達をつれて車でスイス・アルプスの山道の濃い霧の中を前進していた。

突然、道の真ん中の大きな割れ目に遭遇した。幅約二メートル、深さ一メートル二〇センチ。これでは通れない。

夜がふけていく。フランクは子供達をつれて隣村まで歩くことにした。持ち物全部が車中に置いてあるので、メァリーは残ることにした。

救助隊が来るまで待ってみよう。

しだいにいらいらして、どうしようもない不安感にさいなまれ、気が狂いそうになる。

いけない、お祈りをしよう。気をとりなおしてから、メァリーは詩篇九一の一節をくちずさんだ。

「主があなたのために天使達に命じて、あなたの歩むすべての道であなたを守らせる……」

主よ、どうぞあなたの天使達を遣わして下さい！

突然、暗闇の中から一台のトラックが来た。ドアが開くと、六人の大男が飛び出た。みなヒゲを生やしてラフな格好をしている。

驚いたことに彼らはそのトラックを持ち上げて陥没した場所へ橋渡しをし、さらにメァリーの車を持ち上げて反対側へいとも軽く移動させた。中にメァリーが乗っているのに！

一言も発する者はいない。そしてアッというまに暗闇の中へ消えて行った。

メァリーは急いで隣のブリック村へ車を飛ばし、家族と再開した。村人達に聞いてみると、先ほどの六人の男について知っている人は誰もいない。

メァリーは首をひねるだけである。彼女に分かっているのは、六人の大男が突然やって来たこと、自分たちの手で彼女が乗っている車を持ち上げたこと、それだけだ。

あの無言の男達はいったい誰だったのか。私が夜の山道で困っていることをどうして知ったのか。今後も何かの機会に私を助けてくれるだろうか。

本当に主が遣わされた天使達だったのか——？

＊　＊

以上は実際に発生した出来事である。この資料を筆者にくれたアリス・ポマロイ女史は、「たぶんあの男達はスペース・ブラザーズだったのではないか」と言っていた。

そうかもしれない。超人的な早業と力量を発揮したところを見ると、到底地球人とは思えない。

そうだとすれば、なぜメァリー・ボガートなる婦人が、あのような特殊な救出の恩恵にあずかったのか。

おそらく彼女には過去世からの非常に特殊なカルマがあったこと、それは特に宇宙的な事柄と関連するカルマであったのではないだろうか。つまり彼女自身が別な惑星から転生してきた人であったかもしれないし、彼女は常に異星人から注目の的になっていたのかもしれない。自分でそのことに気づかなかっただけだろう。

これに類似する例は他にもある。大正一二年九月の関東大震災のとき、猛火の東京の町を逃げ惑う一人の女性の眼前に、一機の円盤が超低空に降下し、円盤上に〝人間〟が現れて、手招きしながら安全な場所へ誘導するという実話があった。これも特殊なカルマをもつ人であろう。

他にも実例はある。筆者自身にもいろいろと体験はあるのだが、そのたびに宇宙空間の深遠きわまりない或る種の法則性を感じるのである。

運命なるもの、それは偶然をはるかに超えた波動的要素の織り成す超絶したドラマではないだろうか。

A Mysterious Cylindrical Object
by Tetsuo Hattori

# 円筒形の奇妙な物体を見る

●服部哲雄（静岡県）

私は田舎の高校で理科（物理、地学）を担当している者です。

今年夏の日中、次のような不思議な飛行物体を目撃しました。その直後、同僚や生徒達に話しましたら、半信半疑で笑っていました。

私にとっては今まで見たことも聞いたこともない物体なので、記憶が薄れない内に、事実関係だけをお知らせ致します。

**(1)目撃日時**

一九九一年八月一日、午前一〇時三〇分頃（腕時計で確認）。快晴。目撃時間は一〇数秒ぐらい。

**(2)場　所**

静岡県沼津市岡一色、沼津城北高校二階地学教室より目撃。暑い日なので、この教室の南側窓を全開していた。校地のすぐ南側に新幹線のレールがあり（ただし目撃時には列車は通過していなかった）、このやや南上空を西（富士市）側から東（三島市）へ飛行物体が通過した。

**(3)飛行状態**

目視で時速五〇キロないし一〇〇キロぐらい（街の中を自動車が走る程度のスピード）の水平飛行。私から見て最も接近した時点では高度約三〇パーセント、直線距離四〇〇メートルぐらいだったが、無音であった。私には何も聞こえなかったし、プロペラのようなものもガス噴射もなかった。

**(4)飛行物体の特徴**

一口に言って単一乾電池型。側面は黒色でつやがあり、窓のようなものは見当たらなかった。上部に乾電池のプラス極に相当する突起があり、ここが白色で、ピカッピカッと明滅していた。

大きさは目視で縦三～四メートル、横二～三メートルぐらい。

とっさのことで写真など撮るひまはなかったが、目撃地付近の後日の写真を添付しておく。この目撃以来、小型カメラを常時携帯するようになった。

※同種の飛行物体を目撃した方がおられましたら御一報頂ければ幸いです。

静岡県富士市森島七九―一二
TEL　〇五四五―六一―三五九五

▼筆者が目撃した場所から撮った写真に物体を描き込んだもの。

# UFOか

## 謎の飛行物体、米子に出没

### 夏の夜の怪奇

**鳥取県米子市効外の奈喜良地区で、謎の光る飛行物体が出没し、近所の話題をさらっている。今月始めにはオレンジやブルーに輝く光のかたまり五、六個が夜空に出現し、数分間にわたって光のページェントを繰り広げた。近くの牧草地ではミステリー・サークルも出現。光の正体はようとしてつかめず、真夏の夜のミステリーとして謎が謎を呼んでいる。**

この飛行物体が目撃されるようになったのは昨年の秋ころから。同所で焼肉店「カントリーロード」を経営する金辛澄子さん（四八）の長女、景延さん（二七）が昨年九月、同店の近くの国道180号で乗用車を運転中、突然、オレンジ色に輝く光の玉が現れた。

電柱の二、三倍くらいの高さを時速一〇〇キロ前後のスピードで目の前を通り過ぎ、数秒後に消えたという。

その後も景延さんは同じ場所で度々目撃し、金さんの家族や店の客にも目撃者が相次いだ。時間は午後九時前後が多く、いずれもオレンジかブルーの光のかたまりが突然現れ、数秒から数十秒にわたって複雑な動きをして消滅。大きさはテニスボールほどの大きさに見えたり、それ以上だったりと分かっていない。

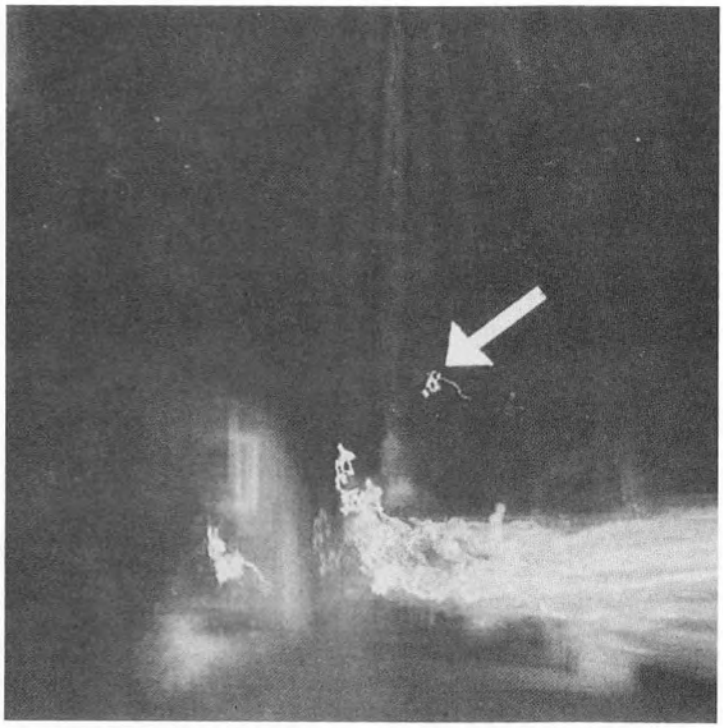
極め付けは米子がいな祭が行なわれていた今月四日夜のこと。午後八時四五分頃、景延さんがいつものように飛行物体の出現を予期して店の前に出てみると、突然、五、六個の光のかたまりが現れた。店にいた客も交じって大騒ぎになり、近くの会社員、久城秀二さん（二九）が、カメラを持ち出して撮影に〝成功〟した。

また、謎の飛行物体が出没し始めた昨年秋には、現場から約一キロ離れた同市榎原で、牧草地の牧草が、直径十メートルの円形状になぎ倒されたうえ、周囲八カ所に直経約一メートルのサークルを伴ったミステリー・サークルが現れ、近くの建築業、佐野征暉さん（四八）がカメラに収めた。

光る飛行物体とミステリー・サークルの因果関係は定かではないが、「UFOの出現か」と話題で持ちきり。飛行物体を写真に撮った久城さんは「複雑な動きをするので明らかに普通の光とは違う。出来ればもっとはっきりした写真を撮りたい」と話している。

一九九一年八月二一日付日本海新聞（鳥取市）より。転載許可済。資料提供＝上田幸男氏（日本GAP会員）

▼久城さんが撮影した謎の光る飛行物体（矢印）。複雑な動きをしているのが分かる（バルブで約20秒間露光。下部の光の帯は車のヘッドライト）



A Study of the Colors of Flying Saucers

# U・F・Oの色彩についての一考察

by Toshinori Saito
岡山大学女子短期大学専任講師
●斎藤俊徳

## 1 はじめに

昔から日本だけでなく、地球上の諸外国でも空飛ぶ円盤や宇宙人の伝説や昔話、そして、記録が残ったりしている。

アメリカの青年実業家ケネス・アーノルドが一九四七年六月二四日、自家用飛行機で九つの空飛ぶ円盤を目撃してから『空飛ぶ円盤（Flying Saucer）』の名が一躍世界中に有名になった。（当然、それ以前にも目撃例はある訳だが）世界中に円盤の出現が報じられた日を記念して、毎年六月二四日を『国際円盤デー』として設けられている。

それから四四年を迎えようとしている今日、自然界の破壊や、現在の地球上の危機状況を、U・F・O（記録用から葉巻型母船まで各種）が興味を示し、静かに、そして確実に出現している。

昨年、イラクがクウェートに侵攻した頃、ソビエトのレニングラードやモスクワでは約五〇〇〇名が、U・F・Oを目撃し、それに続く、八月四日には、岡山城天守閣前広場での『U・F・O呼び出しプロジェクト・イン夏まつりおかやま、ぽっこうカーニバル』では、約二〇〇〇名がU・F・Oを目撃していた。

一一月の石川県羽咋市での『宇宙&UFO国際シンポジウム』で、ソビエトのウラジミール・G・アジャジャ博士は、八九年度、ソビエトでは、五五〇〇人の国民がU・F・O、及び、宇宙人に連れ去られたと公表力説し、さらに会期中、金沢でU・F・Oが出現し、写真に撮られた。アメリカのブルース・マカビー工学博士は「地球外のものだ」と言明している。

アメリカのケネス・アーノルドが空飛ぶ円盤に出合って四〇年以上が過ぎた今でも、「いる」「いない」の愚論に明け暮れている日本は、海部首相の「日本はUFO後進国」と言わざるをえまい。

人類は、近い将来、否応なく、他の惑星の住民達と交際し、宇宙社会の仲間入りをしていかなくてはならないであろう。その為には、世界中の人々がイデオロギーや人種の違いを乗り越えて一つになる事が大切であり、今や全く新しい価値観をもとに、全く新しい地球社会を築く時に来ているのではなかろうか。

今回は、今迄に数多くのU・F・Oが目撃された際の色彩について特にここでは取り上げることにしたいと思う。

## 2 目的

U・F・Oが見えていたのが消えたとする証言は多く、人間の可視波長範囲外の、人間の目では見えないスペクトルの範囲へU・F・Oが移動したと考えられるが（多重空間――パラレルワールド説）、ここでは、人間の可視波長範囲内で見られたU・F・Oの色彩が、目撃者に対して、どのような色彩で見えているのかを調査し、検討したいと思う。

又、昼間視の色彩と夜間視の色光色、及び、色彩等についても調査、検討してみたい。そして、目撃分布時間等も調査したい。

## 3 方法

まず、入手できた目撃記録を年代別に整理し、年代別の色彩と、全体の色彩関係を比べてみる。次に、地域別に色彩関係を比較検討してみる。そして、目撃者の昼間視の場合、色彩を調べてみる。薄明視の場合の色彩、及び、夜間視の色彩を比較検討してみる。又、目撃者のその時の状況と色彩が関係しているかを調査、検討してみる。全体の色彩を総合し、統計的に割り出して、一般的に見え易い色彩順位を挙げてみる。

## 4 結果

一九二七年から一九八九年迄に目撃されたU・F・Oの色彩について、一一四五件のデータを基に総合的に統計したところによると、表のような色彩の目撃順位となった。（表は省略）

それによると、年代別、及び、地域別な色彩関係よりも、表のような目撃例の多い順の色彩が問題となってきた。

## 5 考察

色彩の見え方は、スピードによる変化であるとする説もあり、速ければ、白っぽく（速いノック・ターンなどは、青色から白色に変化する）、遅ければ、オレンジ色。銀白色等は、本体の色で、円盤の推進方法によるフォースフィールド発生の（大気中、酸素との間での変化色でスピードが出ている時にイオン化する）円盤の特性であり、オレンジ系は、スカウト・シップ乗員二名の七～一〇メートル以上のものが多く、大気圏内外の推進が出来、大気圏内には、記録用のもので、白色が多い。他に、W形のUFOを見た人も出て来ているが、これは生命体としてみて、余り良いものとは言えないようだ。

いずれにしても、見え易い順位として、一位に橙・オレンジ系が二七三件もあったことは、特筆すべき事であると思われる。その次の二位、白色（白光体七）一五八件。三位、銀色（銀白・白銀）一三四件。四位、赤色（赤光色）一二一件と、一〇〇件を越す色彩を挙げてみたが、ベスト5として次の、五位、青色（青白色三）七五件も挙げておく。米空軍の二一九九の目撃例調査によると、オレンジ色がいちばん多く、次が赤と黄だ。

色彩や形状の見え方には、通常の見え方と、アストラル・アイ的な見え方、そして、宇宙からの投影としての見え方なども存在し、宇宙船（異星船とでも言おうか）からの波動を合わせられて見える場合が多くあるという事を特筆し、これからのU・F・O、或るいは、スカウト・シップとの電磁波や色彩を考察していく必要があると思う。

「日本色彩学会誌」VOLUM 15 NUMBER 1 1991掲載記事に筆者が加筆の上寄稿。

▲今年１月2日、右頁の記事の筆者・斎藤俊徳氏が岡山県の鷲羽山ハイランドへ家族で行ったとき、午後4:30分頃に出現したＵＦＯを連続2枚撮影したうちの１枚。方角は瀬戸大橋側。2枚写して物体はすぐ消えた。

# 韓国の雑誌アダムスキーのUFO写真を掲載

韓国ソウルで発行されている有名誌「HOT WIND」（株式会社ソウル21発行）今年八月発行号にアダムスキーの金星の円盤二点と母船一点、計三点の写真が三頁に大きく掲載されて韓国の読者間に大きな反響を起こした。

これは日本へ取材に来た同社の営業企画次長・朴広辛氏が書店でダニエル・ロス氏の著書「UFO——宇宙からの完全な証拠」を見つけて日本GAP久保田会長から写真提供を受け、掲載したもの。今後もUFO問題を取り上げるという。

▼掲載されたアダムスキーのスカウトシップの写真。右頁の裏側に母船の写真がある。

日本GAP企画第14回海外研修旅行

# カナダ・イースター島 宇宙ロードの旅

大気圏外に思いを馳せるのは結構ですが、私達のホーム惑星である地球再発見も大切であるとの見地にもとづいて、日本GAPは過去13年間、毎夏に海外研修旅行を実施してきました。その間、謎の遺跡の見学を主体に訪れた国は延べ約50カ国に渡り、参加者も延べ約400名に達しています。

1992年も8月にカナダと南太平洋の謎に満ちた孤島イースターへの旅を実施します。ここは私達にとって未知の土地。素晴らしい体験が待ち受けていることでしょう。

カナダでは屈指の大都会トロントに到着、次に南米チリの首都サンチャゴへ直行。ここをたっぷりと見学後、ここから3700km離れたイースター島へ飛び、名高いモアイ像その他の謎の遺跡観光を満喫して、またサンチャゴへ帰り、この美しい都市でゆっくり散策休養。ふたたびトロントへ引き返して、ここで存分に観光と休息をし、希望者はナイヤガラの大瀑布を見学するという豪華な大旅行です。皆様のご参加をお待ちしております。日本GAP会員でなくても参加できますので、お誘い合わせください。

## 日程概要

1992年8月11日(火)　17:45成田発。
同日トロント着。飛行機を乗り換えて南米チリ・サンチャゴへ直行。
12日　朝サンチャゴ着、市内観光。
13日　終日市内観光。サンチャゴ自然博物館、アルマス広場、大統領官邸、サン・クリストーバルの丘、マイポキャニオン等を見学。
14日　イースター島行き。
15・16日　島内観光。カルデラ湖、鳥人の儀式村、各種モアイ像等を見学。
17日　再びサンチャゴへ。
18日　終日自由行動。
19日　自由行動。夜サンチャゴ出発。
20日　朝トロント着、午前中市内観光、午後は自由行動。
21日　トロント滞在。終日自由行動。希望者はナイヤガラの滝を見学（別途料金約¥15,000）。
22日　トロント発。
23日(日)　13:05成田着。

■期間＝1992年8月11日(火)〜23日(日)
■費用＝¥658,000
■定員＝20名

**案内書請求・参加申込先**　下記へハガキでお申し込み下さい（日本GAPでは扱いません）。

〒150 東京都渋谷区東3-24-9
サンイーストビル2F
**ワールドセブントラベル株式会社**
田中　正
☎03-3499-2461
（夜間は 0475-89-2039・田中自宅へ）

- 旅行中は朝食8回、昼食4回、夕食5回付。
- 費用は24回払いローンもあります。詳細は案内書をご覧下さい。
- 夏はサンチャゴからイースター島までの飛行機が込みますので、参加申し込みは早めにお願いします。
- 旅行説明会＝第1回目・1992年5月17日(日)
  第2回目・1992年7月26日(日)
  （会場等の詳細は本誌次号に掲載します）

企　　画＝日本GAP
主　　催＝株式会社日本旅行
（運輸大臣登録一般旅行業第2号）
取扱い旅行代理店＝ワールドセブントラベル株式会社
（運輸大臣登録旅行業代理店業第1957号）

# GAP短信 GAP NEWS

■大阪支部特別月例会

去る六月一六日、大阪支部の月例会は特別月例会として久保田会長が招待され、講演と質疑等で有益な一日をすごした。出席者は約三〇名。夕方は付近の公園で観測を行なった。詳細は本号34頁。

■第八回旭川・札幌合同支部大会

六月二二日、北海道旭川市において、旭川・札幌合同支部大会が開催され、二二名の出席者のもとに熱気溢れる一日を過ごした。翌日の観光では十勝岳に登り、雄大な自然を満喫した。

■今年度海外研修旅行

八月七日より一八日まで一二日間、日本GAPは今年度海外研修旅行として「アメリカ東部西部・メキシコ宇宙ロードの旅」を実施。一七名が参加して感動と歓喜の日々を終え、全員無事に帰国した。アメリカではダニエル・ロス氏夫妻、アリス・ポマロイ女史、デイビッドウィッツ邦子さんが合流。旅行中はたびたびUFOが目撃され、また種々のミステリーが発生する等、話題の豊富な旅となった。会長と参加者による詳細な記事が本号36頁より掲載されている。

■新潟支部UFO写真展

八月一一日より一五日まで五日間、新潟支部は新潟県新発田市のジャスコ新発田店でUFO写真展を開催。五日間で総計四一八二人の入場者があり、空前の大盛況を呈した。詳細は本号35頁。

■東京本部月例会、会場を変更

東京本部は月例会会場として上野の東京文化会館を約二〇年間利用したが、今年九月より港区芝公園東京タワーそばの機械振興会館に会場を変更、九月一日の月例会を新会場で開催した。出席者は七一名。新鮮な雰囲気のもとに活気に満ちた月例会が展開し、また最高得点者が賞品を獲得する新形式のテレパシー練習が大いに盛り上がり、楽しい一日を過ごした。新会場に関する詳細は本誌一一四号に出ている。

■今年度総会、大盛況

九月二二日、日本GAPは今年度総会を都内銀座七丁目の銀座ガスホールで開催。今回はデンマークより元デンマークGAP創立者のハンス・ピーターセン氏が招待されて講演を行ない、氏が持参したUFOのビデオとスライドを映写して大好評を博した。「UFO——宇宙からの完全な証拠」の著者ダニエル・ロス氏もアメリカから駆けつけてステージ上で挨拶した。出席者は約二七〇名に達する大盛況。夜はホテル浦島の大ホールで盛大な夕食会を開催。プロ級の芸達者による各種の演芸で盛り上がり、終了後は銀座へ繰り出して二次会を行ない、名残りを惜しみながら深夜散会した。ピーターセン氏の講演内容は本号冒頭に掲載。

■栃木支部、UFO写真展を開催予定

来たる一〇月三一日より一一月五日まで栃木支部はUFO写真展を開催する。会場は栃木県宇都宮市オリオン通りのａｍｓ宇都宮店五階スペース・ファイブ。期間中は毎日午前一〇時より午後六時まで開場。アダムスキーのUFO写真を主体に約八〇点を展示。他に支部作成による「UFO問題一〇〇人に聞きました！」のビデオ上映も行なう。

■秋田支部もUFO写真展を

今年一一月三〇日より一二月一日までの二日間、秋田支部も秋田市中通り二丁目のアトリオン二階の第二展示室でUFO写真展を開催の予定。写真展示の他にビデオ「これがUFOだ！」を上映したり、その他各種の催物を企画中。本誌や新アダムスキー全集の即売も行なう。同市では最初の試みなので盛況が期待される。

■新アダムスキー全集完結

昨年より順次刊行されていた新アダムスキー全集（中央アート出版社刊）は八月の第一〇巻「超人ジョージ・アダムスキー」の出版でもって、全一〇巻が出揃った。この他に別冊としてダニエル・ロス氏著「UFO——宇宙からの完全な証拠」も刊行されている。

■来年度海外研修旅行

来年夏の海外研修旅行は八月一一日（火）より二三日（日）までの一三日間、「カナダ・イースター島宇宙ロードの旅」を実施する。これは成田からトロントまで飛び、さらに南米チリのサンチャゴへ直行、サンチャゴから南太平洋のイースター島まで飛行するという大旅行になる。帰途も逆コースをたどり、希望者は別料金でナイヤガラの滝観光という豪華版。費用六五万八千円。定員二〇名。イースター島は空を見つめるモアイ像で有名な謎に満ちた島。詳細は本号27頁を参照。

■お詫び

本誌一一四号の本欄で予告された松村芳之氏の一〇月結婚の件、事情により婚約を解消した。多数の方にご迷惑をかけて申訳ないと本人が謝っている。

◀大夕食会のピーターセン氏。

## シャトルのわきをUFO?

鳥でも飛行機でもスーパーマンでもないなぞの飛行物体が、飛行中のスペースシャトル・アトランティスのわきをすり抜けていったことを、米航空宇宙局（NASA）が明らかにした。

この物体は、長さ約一・五㍍、自動車のバンパーのような形で三日、シャトルと地球の間を流れていったのを乗員がビデオに録画。次の日にはもうシャトルからは見えなかったという。

NASAはこの物体について、追跡・データ中継衛星を打ち出した際にはずれた漂流物ではないかとしているが、証拠はないという。「以前の飛行でも同じようなものが見えていた」とエンゲラウフ飛行部長はいっている。

同部長は、「シャトルが帰ってくる度に調べるが、なくなったものはない。だから漂流しているのが本当はなんなのか、わからない」と首をかしげている。（8・6朝）

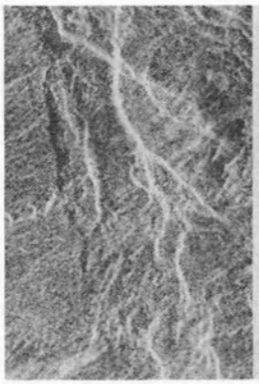
## UFO……「実は氷」

飛行中の米スペースシャトル・アトランティスが撮影したナゾの飛行物体は、シャトルからはがれた氷だった、と米航空宇宙局（NASA）が六日発表した。

物体は長さ一・五㍍の曲がった形。三日に大型通信衛星を放出した際の振動で、シャトルのエンジン噴射部分（ノズル）の外壁から外れたらしい。（8・8朝）

## 「金震」?で地殻変動

米航空宇宙局（NASA）の金星探査機マゼランがこのほど「金震」によるものと見られる地滑りの跡を撮影した。地球以外の太陽系惑星で地殻変動が起きているのがわかったのは初めてだ。



写真右は今年七月、左は八カ月前の昨年一一月に撮影された同じ場所。写真右の中央部を南北に走る明るい部分が西の方向に広がっている。これが地滑りの跡で幅二㌔、長さ約八㌔。NASAの研究者によると、これだけの地殻変動を起こすには、マグニチュード5・0の地震に匹敵するエネルギーが必要で、「金震」によるものとしか説明出来ないという。（9・2朝）

## 21年以内に有人火星飛行

ブッシュ米大統領は「火星への有人飛行を二〇一九年までに達成したい」との構想を掲げているが、米スタンフォード大（カリフォルニア州）とソ連の科学者グループは二六日、米、ソ連、日本、欧州などの宇宙先進国が協力すれば、火星への有人飛行は、今から二一年以内に費用も十分の一で達成できる、との研究報告をまとめ、発表した。

この報告では、ロケットにソ連の「エネルギア」を使うことを想定しており、前例のない巨大国家プロジェクトとなる火星飛行の具体計画作成にも影響を与えそうだ。

「スタンフォード・ソ連案」をまとめたのは、同大ブルース・ルシグナン教授やソ連の宇宙技術者ウラジーミル・コーチン氏らの国際共同グループ。

米航空宇宙局（NASA）の計画では、火星有人飛行には、宇宙ステーションを建設したり、原子力ロケットを開発したりなど、いろいろな準備段階があり、開発に五千四百億㌦（約七三兆円）もかかると推定されているが、スタンフォード・ソ連案では、それらは必要ではなく、現行の技術で火星飛行が可能で、費用も六百億㌦（約八兆一千億円）程度、としている。（6・27読）

## 巨大な分子雲複合体銀河系の中心に発見

われわれの太陽系が属している銀河系の中心領域には、約千三百光年もの長さを持つ巨大な分子雲の複合体があるのを、東京大学理学部天文学教育研究センターの長谷川哲夫助教授らが電波観測で初めて見つけた。

この分子雲複合体は質量が太陽の一億個分もあり、激しいエネルギー放射や爆発を続ける銀河系中心核に燃料を供給する〝火薬庫〟の役割を果たしているらしい。銀河の進化や構造の解明につながる新発見だ。

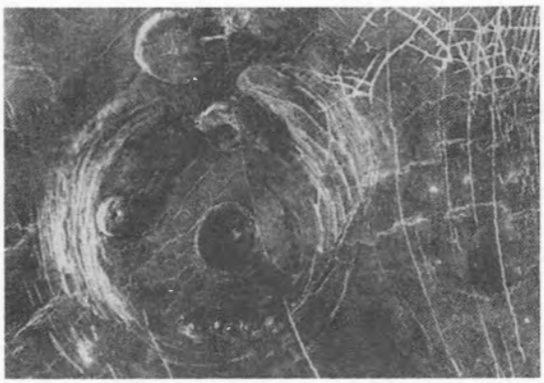
長谷川助教授らが観測したのは、温かくて濃い星間ガスの検出に有効な波長一三㍉のサブミリ波。電波望遠鏡に当たる超高性能のパラボラアンテナ（直径六〇㍍）を三年がかりで製作し、野辺山宇宙電波観測所（長野県南佐久郡南牧村）に設置して、今年一月から銀河系の広域観測を始めた。

その結果、銀河系の渦巻き中心を取り巻く巨大分子雲の塊を捕らえることに成功。この塊は長さ約一三〇〇光年、厚さ約一五〇光年に広がり、数個の巨大分子雲が集まって複雑な形をしていた。星間分子がギューギュー詰めの状態だった。（7・22日経）

## 金星の素顔くっきり

米航空宇宙局（NASA）は、金星探査機マゼランが一回目の探査を終え、金星表面の八四%を高精度で地図化した、とこのほど公表した。三回目の探査で全表面を地図化する計画という。

金星は厚さ九五㌔という二酸化炭素の厚い雲に覆われており、地上からの観測



は不可能。マゼランは周回軌道からレーダーで観測を続けている。

金星の表面はソ連のベネラ探査機も一九八三年から八四年にかけて観測しているが、今回はそれに比べ、観測精度が十倍以上向上し、一二〇㍍の物体まで見分けられる。

NASAが公表した画像には、直径が四〇〇㌔におよぶ火山やパンケーキのような形をした溶岩ドームなどがはっきり写っている。（7・22朝）

**筋肉分子の運動捕らえた。**

筋肉が収縮する際に働く力の性質を分子レベルで捕らえることに、大阪大基礎工学部の柳田敏雄教授（生物物理学）と本田技術研究所の石島秋彦研究員らが成功し、英科学誌「ネイチャー」に発表した。筋肉が出す力の大小により個々の分子も力の出し方を変えるなど巧妙に調節している様子が明らかになった。

筋肉の収縮は、アクチンとミオシンという線維状のたんぱく質が、お互いに滑ることによって起きる。運動に必要なエネルギーは、生体に広く見られるアデノシン三リン酸（ATP）を分解することで得ているが、詳しい仕組みは分かっていない。

柳田教授らは、ミオシンの線維をばらばらの分子にほぐし、ガラス板にびっしり張り付けた。直径五―一〇ナノメートル（ナノは十億分の一）のアクチン線維の一端を、太さ一万分の三㍉のガラス針に取り付け、もう一方の端をミオシンの上に置くと、互いに滑ろうとする力が働く。ガラス針のたわみ具合から、力の大きさを割り出した。

この方法で、ミオシン分子一つとアクチン線維の間に働く、百億分の一㌘重（一㌘重は質量一㌘の物体に重力が及ぼす力）以下の微小な力も測ることができるようになった。

まず、硬いガラス針を使って、アクチン線維を動きにくくすると、ミオシン分子は短時間の強い出力を繰り返す。これは、筋肉が大きな力を込めている状態に当たる。次に、小さな力で運動する様子を見るため、軟らかいガラス針に変えて動きやすくすると、一定の滑らかな力を出すことが分かった。

いずれも一つのATP分子を分解することで生じる、筋肉の最小単位の運動だが、周りの条件に応じて分子がエネルギーの使い方を調節しているようだ、という。

柳田教授によると、これまでは個々の分子の運動は単純だが、筋肉の神経が多数の分子を制御することで力の出し方を変えるのだと考えられてきた。しかし生き物はもっと精巧にできており、それぞれの分子にも状況を判断する機能が備わっているようで、「アクチンとミオシンの間に、どんな機構で力が働くのかを解明する手がかりになると思う」と話している。（8・21朝）

**抗がん剤の脱毛を頭部の冷却で予防**

抗がん剤の中には脱毛の副作用を起こすものがあり、患者の大きな悩みになっているが、治療中に零下八〇度にした保冷剤の袋で頭を冷やせば脱毛をかなり予防できることが、福井県立病院婦人科病棟の柿沢いさ子婦長らの研究で分かり、日本看護学会看護総合分科会で発表された。

この保冷剤は、家庭用の保冷まくらよりも低い温度まで冷やすことができる特殊な製品で、帽子状の袋に入れて頭頂や前後左右に計六個固定する。フリーザーで零下八〇度にした保冷剤を使い、女性がん患者の抗がん剤治療中に、薬の種類に合わせて二―六時間冷やした。二時間以上の場合は、二時間ごとに保冷剤を取り換えた。三〇人のうち二四人は完全に脱毛が予防でき、他の六人は軽い脱毛にとどまった。（9・10朝）

**心臓病予防にウイスキー**

ワインやビール、蒸留酒（ウイスキーなど）を毎日ほどほどに飲めば、心臓病にかかりにくい――。こんな研究結果をハーバード大のエリック・リム博士らがまとめ、二三日発行の英医学誌ランセットに発表した。

研究グループは、四五―七〇歳の米国人男性五万人以上に、飲酒習慣と病歴を聞くアンケート調査を行なった。その結果、毎日、二、三杯ぐらいの飲酒は心臓病の危険を半減させ、全然飲まないか一日に平均一杯以下しか飲まない人は、かえって心臓発作や心臓病になりやすいことが分かった。

またアルコール含量の高い蒸留酒ほど心臓病の軽減につながっていることも見つけた。

リム博士らは「この発見は、適度な飲酒が心臓病を減らすという仮説を支持するものだ。アルコールは脂肪を排せつする血中コレステロール（善玉コレステロール）を増やして、心臓病を防いでいる可能性がある」と指摘したが、同時に、飲みすぎやアルコール中毒の危険に警告を発した。

（注）AP電によると、この研究での酒一杯は、ビールなら小瓶一本、ワインなら小グラス（約一二〇㍉㍑）、蒸留酒ならシングル（約三〇㍉㍑）各一杯を指す。（8・24毎）

**磁気共鳴で脳機能を画像解析**

磁気共鳴は、磁場の中におかれた物質の原子核が固有の周波数の電磁波と共鳴してエネルギーを吸収する現象をいう。MR装置はふつう、この現象を利用して水素原子の分布状態をとらえ、体の断層像を映し出すのに使われている。

同時に、MRは物質の検出にも応用できる。同じ水素の化合物をとらえても実際には分子構造が違うため物質ごとに電磁波の共鳴周波数が微妙にずれる。逆にこのずれをもとに物質を検出し物質ごとの信号の強さをスペクトル図として表すこともできるわけだ。

成瀬講師らはシーメンス社製のMR装置を使って頭の中を一立方㌢ほどの小さな領域に区切って分析し、各領域ごとのスペクトル図を一度の測定で一斉に得ることに成功した。こうして得た領域ごとのスペクトル図をコンピューター解析して、脳の特定の物質の分布を画像化した。

これまでに画像化できたものにはNAA（N―アセチルアスパラーゼ）や乳酸などがある。例えば脳腫瘍の患者の分布をみると、神経の伝達機構と関係が深いとみられているNAAは腫瘍部分で顕著に少なく、体内では低酸素の組織に多くみられる乳酸が腫瘍部分に蓄積されていることがはっきり分かる。

成瀬講師は「体の中からあるがままの生化学的な情報を引き出し、しかも一目で見られるのが、この方法の特徴だ。今後、核の種類を変えたり技法を改良する

などしていけば得られるデータがますます広がるはずだ」と話している。（7・17朝）

**「アトピー」に〝新療法〟**

米発酵エキスの入った入浴剤を使用すると、アトピー性皮膚炎の治療に効果があることが長崎大学皮膚科の調査でわかった。この結果は三〇日福岡県久留米市で行なわれる日本皮膚科学会福岡地方会で発表される。アトピー性皮膚炎は皮膚病の中で最も治りにくく、はっきりとした治療法もないことから、患者にとって朗報となりそうだ。

発表するのは、同科の田中洋一医局長で、使用した入浴剤は、勇心酒造（本社・香川県）製造、エーザイ（本社・東京都）発売の薬用入浴剤「クアタイム」。同商品には、米発酵エキスが九八％含まれており、昨秋発売されている。

米発酵エキスは、同酒造が伝統の醸造技術を生かしたバイオテクノロジーの研究から生まれたもので、米と水、コウジ菌を加えて、日本酒の約三・五倍の二四日間熟成させるのが特徴。昭和六二年、米に関連したものとしては初めて新規医薬部外品成分として認められた。

長崎大皮膚科では長崎県内の一五病院に通院中の重度の皮膚病患者八二人（アトピー四八人、乾皮症二五人など）に対し、約二カ月間入浴剤を使用させ、症状を観察した。

その結果によると、患者のうち一五人が「非常によくなった」と答えたほか、二六人が「かなりよくなった」、二九人が「いくらかよくなった」としており、全体の約八五％の七〇人が効果があったと答えた。また、アトピー性皮膚炎患者も八割を超える三九人が効果ありとした。（6・29読）

**内耳器官が超音波識別**

米紙ニューヨーク・タイムズは全く耳の聞こえない人でも超音波をキャッチする能力を持ち、将来、特殊な補聴器が開発されれば言葉を聞き取れるようになるとの新研究をこのほど紹介した。

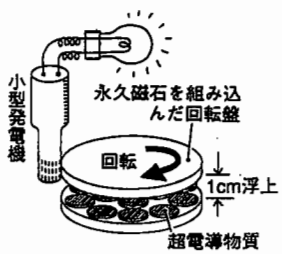
米バージニア医科大学のマーチン・レンハート博士らが人間が聞き取れない高い周波数の超音波に変換した「ソックス（靴下）」「ロックス（岩石）」「フォックス（キツネ）」など発音がよく似た六つの言葉を頭骨に伝えたところ、耳の聞こえる人は八〇％の確率で対照する絵を正しく選び出し、全く耳の聞こえない人でも四〇―六〇％の確率で答えたという。

レンハート博士はこの結果について内耳の一部を構成する球形嚢（のう）というコロイド状体液の詰まった袋が超高周波の振動をキャッチ、脳に伝えるものと推定している。（7・9朝）

**超電導で電力〝缶詰〟**

新しい高温超電導物質の浮上力を使って、回転円盤に半永久的に電力を〝缶詰〟するフライホイール（はずみ車）の試作に、超電導工学研究所が世界で初めて成功したと一三日発表、公開実験した。

実験に成功したのは、同研究所の村上雅人・主任研究員のグループ。イットリウム系超電導物質の塊を敷き詰めた基盤の上に、永久磁石の回転盤を載せると、「浮上力」とともに、回転盤がこぼれ落ちないような「支持力」が生まれる。回転盤は鉄・ネオジム・ホウ素合金で、ここに同心円状に磁石を埋め込むアイデアを見つけたことが、大型化と、滑らかな回転の実現につながった。




試作装置では、一〇〇ワットの電球を一時間ともし続けられる電力貯蔵ができた。近く、一〇キロ・ワット級の貯蔵装置を作る。数年先には一〇万キロ・ワット級の貯蔵装置の製造も可能で、夏場の電力利用ピーク時の援軍として実用化できる見通しができた。また、米航空宇宙局も、今世紀末に米国、欧州、日本、カナダが協力して完成させる宇宙ステーションの電力貯蔵装置として、同研究所の成果に関心を寄せている。（5・14読）

**オゾン量一％減で有害紫外線が2％増**

日本付近でオゾン量が一％減少すると、生態系などに悪影響を与える有害紫外線が二％近く増加することが一九日、気象庁高層気象台（茨城県つくば市）の観測でわかった。有害紫外線に対する観測網は世界的に不十分で「理論的に予測されたデータだが、実測値として裏付けられたのは世界で初めて」（気象庁オゾン層解析室）という。

昨年一月から観測を始めた同気象台の調査結果によると、大気中のオゾン量減少に伴い、波長のより短い人体に有害な紫外線が増えることが確認された。（7・20毎）

**フロンに代わる洗浄システム**

オリンパス光学工業と洗浄液や溶解液の研究開発会社ケミカルテクノロジー研究所は二日、多糖類を基本成分とした溶液を使って、フロンに代わる無公害の洗浄システムを開発した、と発表した。

フロンは、空気中で紫外線に分解され、中に含まれる塩素がオゾンを破壊する。新たに開発されたシステムでは、洗浄液、乾燥液とも、炭素、水素、酸素を主体として構成されているため、オゾン破壊の心配がない、という。（9・3朝）

**トヨタ「高速道自動運転」研究へ**

トヨタ自動車は一九日、自動車の安全性向上策の一環として、高速道路自動運転システムと側面衝突エアバッグシステムの研究に着手した、と発表した。

高速道路自動運転システムは、ドライバーがハンドルやアクセル、ブレーキを操作しなくても高速道路を安全に走れるシステム。内部に取り付けたカメラが車線両端の白線を検知し、画像処理してコースを認知、ハンドルを操作する。

また、道路に設置した無線標識（ビーコン）からの電波を自動車がキャッチ、自分の走路位置をチェックできる。前方に障害物があれば、レーザーレーダーが検知して減速、停止する。ブレーキも電子制御。

しかし、トヨタが東富士研究所（静岡県裾野市）のテストコースで実施している試験では、晴天時は時速百キロの自動運転を実現したものの、雨や雪の中では、センサーが白線を検知できないなどの課題が残る。また、高速道路のインフラ整備が必要で、国家的プロジェクトとしての位置づけが不可欠だ。（7・20毎）

# 北国の空のもとで——第8回旭川・札幌合同支部大会

夜来の雨も嘘のように晴れ上がり、素晴らしいフィーリングと晴天のもと、六月二三日、第8回旭川・札幌合同支部大会が、最北の街ここ旭川市で、久保田先生をお招きし開催されました。

伊藤重信氏の格調高い名司会のもと、各支部代表の挨拶と、旭川支部副代表島田幸典氏の近代バイオ畜産と、農業に於けるアダムスキー哲学の実践の中での、一%の閃きと九九%の努力との格言は感銘深い講演でした。引き続き久保田先生の御講演は『浮上するアダムスキー問題と幸福をつかむ方法』でした。

一九六一年（昭和三六年）にアダムスキーの要請によりGAP活動を開始され、満三〇年目を迎え、一段と格調高く力強いその内容は、出席者一同の心を深く打つものでした。GAP活動に専念されたのも何かカルマ的なものを痛感致しました。特に、GAP活動の様な〝本物〟は、一般にはなかなか理解しがたく、因みに日本GAP会員は一五〇〇名。しかし、日本は世界のトップにあるのが事実とのこと、アダムスキー問題も徐々に浮上はしてきているが、これが現実となれば大変な混乱が生じる事となるので、太陽系の現状が知らされていない。しかし、密かに電磁エネルギーが研究されている事実があるとのことで、しかも、これらを新聞社は慎重で、発表をしないのが現状である由。

続いて、アダムスキー哲学に触れられ、これこそ地球人にとり最重要であり、宗教の様な偶像崇拝、教祖崇拝のごとき地に堕ちたものとの違いについて話されました。意識との一体化、イメージを描く、これは必ず実現する、内部の意識体が援助をしてくれる。この意識体を使わないテはない。電気のパワーと同じである、等々……。また、『信念の力・希望の力・絶対に諦めない力』昨日失われたゴールは、明日は勝ち取ることが出来ること、『自分が見る物は、全て自分自身である』との、テレパシー開発上での最重要点を力説されました。そして何にもましてアダムスキー哲学の実践を通じての真摯な生き方を実社会・実生活の中で周りに示すことの重要性、並びにスペースピープルへの謙虚な呼び掛けにより必ずや援助がもたらされる！とのことを、先生の素晴らしい体験談をもとに話されました。

最後に、或る時、北海道で先生は逃げ出したくなるような圧倒的なUFOの目撃体験があるとの事が話されました。そしてこれからは偉大なる精神的進化を遂げられたスペースピープルの方々とのコンタクトを目指さなければならない！との力強い示唆でもって御講演を締め括られました。GAPの会員の皆様方に深く感謝します。

旭川支部代表　川上三秀

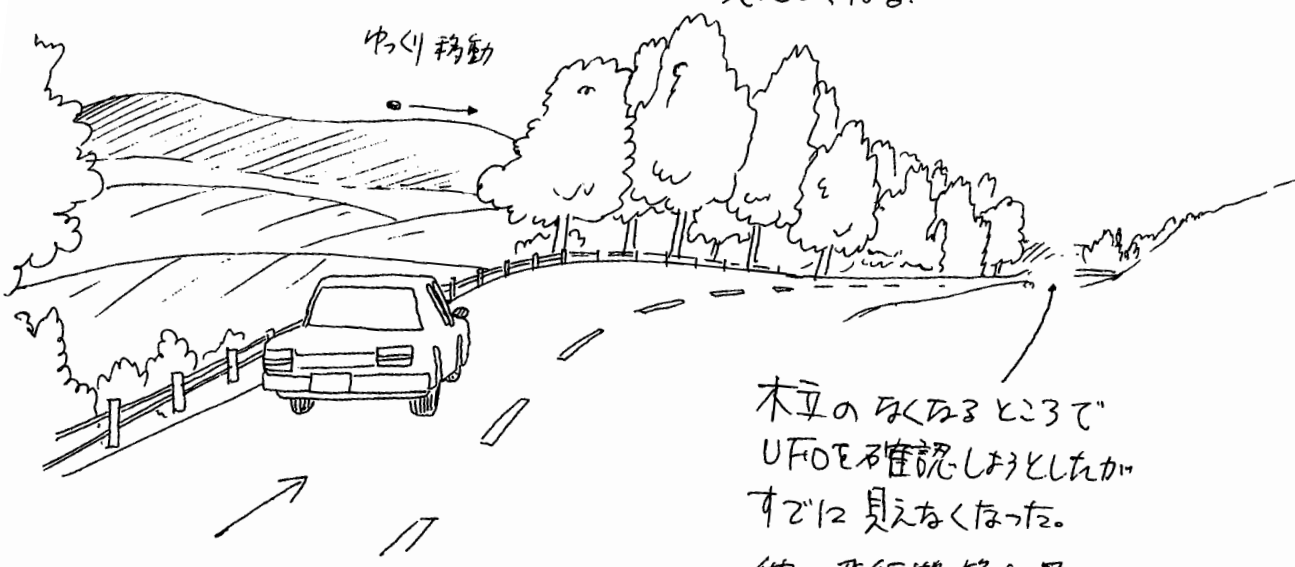
大会は素晴らしい雰囲気に満ちていた。数百名の会合を上回るほどの熱気と真剣さが溢れて、私も全力をあげてお話しした。アダムスキー哲学の理論はけっして難解ではないが、その生かし方が容易ではない。とかく感覚器官に振り回されがちになる自分を意志の力によって自律することの重要性を説いた。夕食会でも哲学問題で意見が出て活発に討議した。

翌日は快晴下を美瑛丘陵地帯と十勝岳観光に出る。途中、伊藤重信氏と高野省志氏がUFOを見たという。左頁に伊藤氏の報告を掲載した。警察の鑑識専門だけあって見事に描いてある。関係者各位に衷心より感謝し、皆さんの良きカルマを祝福致したい。

久保田八郎

▶上から久保田会長、川上旭川支部代表、大会、夕食会。撮影／伊藤重信

# 大会翌日の観光
# 美瑛で目撃したUFO




時速60~70Kmで
走行中、運転している高野氏と同時に目撃。

- 物体までの距離は推定約4Kmくらい.
- 大きさは不明であるが直感的には長さ10mくらいに思う.
- 色は、本当に薄いクリーム色(ほとんど白に近い)で、光は出していないが、底部に影があったように思う.
- グライダー滑空場が近くにあるがグライダーとは考えにくい。
- 私としては、事前に「UFOが目撃できるのではないか」という印象があったので、UFOの可能性が強いと思う.

# 大阪支部特別月例会

●六月一六日／吹田市民会館／三〇名

しばらく大阪支部は大会を開催していなかったので、久保田先生に直接お話を伺う機会もなく、このあたりで会員の士気の向上を図ろうと先生にご来阪をお願いしたところ、快く引き受けて下さり、お忙しいなかを早速月例会に出席して頂きました。そして特別講演として『宇宙哲学の生かし方』と題して次のようなお話をして頂きました。

(1)ファーコン氏の話として「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力」を座右の銘として、これを実践すること。

(2)何を見ても誰を見ても万物は自分自身だという一体感をもつこと。

(3)人間一人一人が大宇宙である。

(4)スペースピープルは他人を見るときに、眼前に神がいるという見方をする。

(5)絶えず他人を助けるような生き方をすること。そうすれば自分の良きカルマをつくることができる。

(6)人間一人一人の内部に絶対的なものをもつこと。偶像や教祖は必要ない。

以上の他にも「世界で二人といないような人間になりなさい」という強い印象が久保田先生の内部からわきおこってきたという話をされました。やはり先生を前にして直接にお話を聞くと、心に響くものが感じられて、非常に有益でした。

そして最後に強調されたのは、アダムスキー氏の超能力開発は、宇宙の意識を土台にした開発であって、一般に行なわれている超能力開発とは根本的に違うものだと説明され、深い感銘を受けました。

その後、休憩をはさみ、活発な質疑応答が行なわれ、全員記念撮影後、親睦会が開かれて、終始なごやかな楽しい雰囲気のなかに大会は終了しました。

また前日の夕食会から当日の夕食会に至るまで先生から秘話をたっぷり聞ける等、最小にして最大の効果をあげることができました。

今回は前回の支部大会以来約二年半のブランクを埋めるために企画したもので、ユーコンに予告はしなかったものの、準支部大会の性格をもたせることができ、本当に意義深い月例会になりました。ご多忙にもかかわらずご出席頂きました久保田先生に支部一同心から御礼申し揚げます。

大阪支部代表　平塚和義

大阪は開放的な土地柄か大阪支部の皆さんは非常に明るくて、愉快な雰囲気に満ちている。しかも平塚代表を父親のごとく慕い、まとまりのよいことこの上ない。まさに団結の見本のような支部である。したがって私も心底から寛ぎながら楽しい二日間を過ごさせて頂いた。

東京よりもしゃれた感じのする大阪の街は神戸とともに時代の最先端をいっているような気がする。この特別月例会もただ話を聞くだけでなく、何かを把握しようという意欲に満ちていた。

大阪支部は毎月の月例会でテレビを設置して東京月例会のビデオを見ながら学習するシステムを採用している。こうした進歩的な態度はこの支部特有のものである。夕食会の楽しさは筆舌につくしがたい。無遠慮ではなくて全員が溶け合っているという感じだ。

この美しい集いがいつまでも続くように祈りながら新大阪駅をあとにした。

久保田八郎

▶上は会長講演。下は夕食会。撮影／中村享

▶平塚氏撮影の奇妙な物体。特別月例会の日に出現。

# 凄い！ 新潟支部主催 UFO写真展

去る八月一一日より一五日まで新潟県新発田市のジャスコ新発田店で行なわれたUFO写真展は、五日間の総入場者が四一八二人に達して、空前の大盛況を呈した。

写真はアダムスキー撮影のUFO写真を主体にしたパネル数十点を展示。スライド映写コーナーではビデオと組み合わせて宇宙問題の解説を行ない、特に世界各地に出現するアダムスキー型円盤をスライドとビデオの映像で紹介。観客は強い関心をしめした。

新アダムスキー全集と日本GAP機関誌ユーコンの展示コーナーを大幅に拡大。新発田市は人口八万の地方都市で新潟市の六分の一の人口にもかかわらず、新全集がよく売れた。しかも第七巻「21世紀の宇宙哲学」が最多売上げを記録したのは不思議である。

ビデオコーナーでは「これがUFOだ！」を繰り返し放映。

ダニエル・ロス氏の宇宙科学の記事を主体にした解説コーナーを解説。科学的な角度から紹介。

今回最初の試みとして「宇宙哲学の解説コーナー」を設け、新全集と関連づけた。本を購入した人には「宇宙哲学の解説書」を無料進呈。これは新潟支部で製作したもの。四枚つづりのB4サイズ。新全集の中の哲学書の内容をさらに分かりやすく解説したもの。

新聞の折り込み広告を利用して、新潟日報の八月一一日付朝刊に両面印刷のB4チラシを一万枚折り込んで宣伝。

テレビ局・NT21から取材の申し込みがあり、その日の夕方ニュース番組でテレビ放映された。スタッフ四名がはるばる新潟市から訪れて長時間取材した。

来場者は若年層から老人まで多種多様であり、関心をもつ人の底辺の広さを感じた。まじめな観客ばかりで、揶揄する人は皆無であったことが特徴づけられる。

以上のとおりで、この大成功は支部会員の協力もさることながら、新発田市民の高度な知的好奇心と宇宙問題に対する意識の強さによるものと思われる。

日本GAP新潟市部代表　星　富治夫

◀上、中は会場。下はビデオコーナーで解説する星富治夫代表。

# UFOと古代マヤの謎

A Brief but not Uneventful Tour in US and Mexico
by Hachiro Kubota

文と写真―久保田八郎〈日本GAP会長〉

**今年八月七日より一二日間、日本GAPは恒例の海外研修旅行として「アメリカ東部西部・メキシコ宇宙ロードの旅」を実施。参加者一七名は感動と歓喜の旅を終えて全員無事帰国した。特に今回の旅はUFO出現とミステリーが連続発生して首をひねりながら歩いた旅であった。終始スペースピープルの注目を浴びていたのかもしれない。以下は筆者による紀行。参加者有志の手記も加えてある。**

今回のアメリカ行きは筆者にとって一三度目。メキシコは四度目。まだ回数が少ないせいか、両国とも訪れるたびに新鮮な空気を感ずる。実際、旅ほど人間を覚醒させるものはないので、同じ風景を見ても、そのたびに新たな発見をする。

九時間余の長途の飛行を終えてロサンゼルス到着後、コンコードからやってきたダニエル・ロス夫妻が我々一行に合流。再会に歓喜。

私はホテルの彼の部屋を訪れて『UFO―宇宙からの完全な証拠』の日本語版出版を祝い、出版社から預かった印税の小切手を渡したら大喜びする。出版社、というよりも日本人の誠実さを感じたらしい。

食堂の夕食会でワインを飲みながらここでもロスさんと大いに歓談した。

## デザートセンターのミステリー

翌九日は快晴下をバスでデザートセンターへ向かう。途中サンゴルゴニオ休憩所で一休み。発電用の風車の大群が見えるあたりへ来ると砂漠地帯の広漠たる風景が展開する。ここへ何度来たかしれないが、来るたびにアメリカの国土の雄大さを実感し、五〇年前、日本がこんな国を相手に戦争をおっぱじめた無謀ぶりが必ず脳裏をかすめる。

デザートセンターのコンタクト地点は猛暑もいいところ。ここは一九五二年一一月二〇日、アダムスキーが金星人とコンタクトした場所で、詳細は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に出ている。一一月下旬ならばここもかなり涼しいことは、その季節に来たことのある私も知っているが、八月は猛烈な炎暑で、たぶん摂氏四〇度以上はあるだろう。

ここはカリフォルニア州からアリゾナ州にまたがる広大なモハービ砂漠の一角で、樹木はないから隠れる場所がない。砂漠といってもエジプトのサハーラ砂漠のような美しい微細な砂の海ではなく、固い地面に石ころが転がり、低い灌木が点在する不毛地帯だ。したがって歩行は容易である。

コンタクト地点では一時間半ほどいて引き揚げた。これ以上暑くて居られないからだ。道路ぎわのバスまで約三五〇メートル。さほどの長道ではない。

バスに乗って帰途についてまもなく、たぶん三〇〇メートル走ったあたりだろうか、右側の低い丘の上に石を積み重ねたケルンがあることに一同気づいて、行ってみようということになり、バスを停めて数名の人が飛び出た。私はくたびれていたので出なかったが、丘へ登った人達とともに現地を見たロスさんが帰って来てから言うのに、右側のケルンのそばに直径約一メートルの白い円が描いてあり、その中にKという文字があったと言う。あれは久保田を意味するKではないかと言って笑う。それはたぶんスペースピープルが作ったものではないかと私が冗談に言うと、パメラさんも「そうかもしれないわよ」と言って笑う。

しかし、不思議なことがある。最初こちらへ来るときに、コンタクト地点を見つけるためにバスの窓から目を皿のようにして左側の風景を見つめていた私は、そんな二基のケルンなどを全く見なかったのだ。デザートセンターへ何度も来て、この辺一帯は自分の家

◀一九五二年一一月二〇日にジョージ・アダムスキーが異星人とコンタクトした地点で撮影。前列中央はダニエル・ロス氏、左はパメラ夫人。左端は筆者。

の庭みたいに熟知している私の目に大きなケルンが見えないはずはない。とすると、私達がバスを降りてコンタクト地点へ行っていた二時間近くのあいだに何者かが丘へ登ってケルンを作り、白い塗料でマルKを描いたのだろうか。そのマルKを見させるための標識としてケルン二基を建てたのか？　これが旅行中の第一のミステリーである。

デザートセンターというのは小さな集落のある地名なのだが、ロサンゼルスからは三八〇キロ。東京から名古屋へ行くほどの距離があるけれども、ロスからサンベルナルディノ高速に乗れば、あとは一本道なので迷うことはない。現地近くにガソリンスタンドがあり、ここからアリゾナ州境のパーカーへ通じる二車線の道路を約一五分行くと、コンタクト地点の見える場所へ着く。

コンタクト地点を見分ける秘訣は、車から左側前方を見ていると、左奥の低い白っぽい丘の中腹に車輪の跡が縦に二本ついている光景が見えてくるので、その位置で停車して、その車輪跡を目当てに歩けばよい。この車輪跡は昔ジープが丘を登るときにつけたものらしい。

あるいは道路沿いに電柱が約一〇〇メートル間隔で立っているので、「17 58209－E」という番号のついている電柱を見つければよい。そこがコンタクト地点へ行く最短距離の停車位置である。

## パロマー山の清澄な空気

翌日はおなじく快晴下をパロマー山に登る。標高一八〇〇メートルの山頂近くにかつて世界一を誇った口径五メートルの大望遠鏡を設置した天文台があり、その下方の山腹には一九五〇年代にアダムスキーが一族とともに住んだパロマーガーデンズ跡が残っている。以上の二カ所へ見学に行くのだ。

昼食はオーシャンサイドの日本料理店でとる。その大変な量に驚く。アメリカ人は概して大食するので、量の多い食事を出さないと店がつぶれると聞いたことがある。

オーシャンサイドはむかし私が最初にアメリカへ個人的に取材に来て、ここに滞在し、ビスタのアダムスキーの家へ三日間通って故アリス・ウェルズ女史からたっぷり話を聞いた思い出のある懐かしい所である。町の様子がずいぶん変わったようだ。

三時前にパロマーガーデンズ跡へ到着。現在はキャンプグラウンドになっているが、アダムスキーの住んだ家やアリス・ウェルズが経営していたレストランの跡にはコンクリートが敷いてあり、永久に残されることになっている。これはアダムスキーに師事したインディアンの婦人がこの土地を買い取って記念の遺跡としたものである。その婦人は白人男性と結婚してサンディエゴに住んでいると聞いたのはむかしのことで、いま健在かどうかは不明だ。

彼女はインディアンのある部族の王女だったということで、超能力を持ち、透視用に使っていた水晶玉をアダムスキーに贈った。この水晶玉は私も手に取ってみたことがある。

アダムスキーが自分で建てた物置小屋は今もあるが、上半分の木造部分は改築されている。下半分の石積みはアダムスキーの労力によるものだが、パイプを取りつけるときに、金星人オーソンが来て手伝ったという。

インディアンといえば、バスの中でロスさんが、今アメリカで最も有名な

◀パロマー山腹のパロマーガーデンズ。ここにアダムスキーが一族とともに住んでいた。

映画は「Dances with Wolves」だと言う。素晴らしい作品なので日本へ帰ったらぜひ見ろとすすめる。これはアメリカインディアンのスウ族を描いたもので、アメリカ人の良識を示した映画として全米で絶賛を博したと語る。

さて、パロマーガーデンズでは主人の帰りを待つかのように古い樫の大木が鬱蒼と茂っている。これはアダムスキーが愛した樹木で、彼ら一族の動向をすべて見ていたのだろう。いつ来ても静澄な空気と小鳥のさえずりに心身が洗われるような素晴らしい雰囲気だ。

天文台を見学後、バスで山を下って一路ロサンゼルスを目指す。この時点までにUFOを見た人が何人かいたようだが、詳細は思い出せない。

## ロサンゼルス上空のUFO！

五時にまたも養老の滝へ着いて奥座敷で夕食をとる。前日の八日にここへ来たときに大木民夫君と植木淳一君の二人が遅れて来ていわく、さきほどリトウル・トーキョーの上空にUFOが出現したのをなんと三〇分間も目撃したと言い、しかも大木君は8ミリビデオで撮影したという。これを一刻も早く見たかったが、私は8ミリビデオのデッキを持たぬので、伊東芳和君にVHSに編集するように依頼しておいた。うまく映っていれば、いずれ東京月例会で映写したい。

この養老の滝でまたもミステリーが発生した。食後、旅行社の田中さんが全員から食事代を集めたところ一〇〇ドル不足するという。一七名が確実に二〇ドルずつ出したのに、一〇〇ドルも足りないとは！　結局謎のままに終わり、全員が少しずつ出しあって埋め合わせをした。

翌朝、今度は私の部屋で不可解な事が起こった。私が養老の滝からホテルへ帰ったとき、うっかりしてカギをドアーのカギ穴から抜かないで置いたらしい。つまりカギを差し込んだ状態のままにしていたのだろう。というのは翌朝、磯目君が私の荷物を取りに来たとき、カギ穴にカギが差し込んだ状態になっていたので、それをガチャガチャ回して入り、部屋へ入って荷物を持ち、廊下へ出たら、もうカギがないという。そのことを廊下へ出たときに私に言った。わずか一〇秒ばかりのあいだにカギが消えたのだ。廊下を人が歩いた形跡はない。それよりも夜通しカギがドアーに差しっぱなしになっていたのに、よくも人が部屋へ侵入しなかったものだ。

ついでながら磯目君は旅行中、私の重い荷物を持ってくれて献身的に尽くしてくれた。他人を助けることの高貴さを身にしみて感じた次第である。

## 謎に満ちたメキシコの遺跡

一〇日はメキシコへ飛ぶ。メヒカナ航空のこの旅客機はB727の最新型で、各座席の背もたれの後ろに小さい液晶テレビが取りつけられているので、退屈しない。

約三時間後、機はメキシコ市の空港へ着いた。出迎えに来ていたヤマダ氏は日系メキシコ人。一〇年前、第二回目のメキシコ旅行のときにガイドを務めた方なので、懐かしい再会となった。氏はメキシコきっての名ガイド。日本語とスペイン語の完全なバインリングアルだが、まだ日本へ行ったことはないという。その博識はへたな学者を寄せつけぬだろう。

メキシコ市滞在は一日だけなので、午後はバスでテオティワカンの大遺跡へ行く。

メキシコの歴史は複雑で、しかも謎の遺跡が多く、知的好奇心をかきたてるのにこれ以上の国はエジプトを除いて他にない。特に古代マヤの遺跡は妖しい魅力を放ち、限りないロマンとファンタジーに満ちている。

メキシコ史をごくおおざっぱにみると、紀元前一〇〇〇年頃からオルメカ族がメキシコに現れる。続いて前二〇〇年頃にサポテカ族が出現してモンテ・アルバン文化を発展させる。一方マヤ人も同じ頃にユカタン半島やグァテマラに住み着いて九〇〇年頃までに一大文明が展開する。特に最後の西暦六〇〇年から九〇〇年頃までの古典期後期は絢爛たる文化が栄えた。しかし後に勇猛きわまりない鷲軍団やジャガー軍団などを擁するトルテカ族の出現で、マヤ文明は混交し、マヤ族は突如としてジャングルから謎の消滅をとげる。

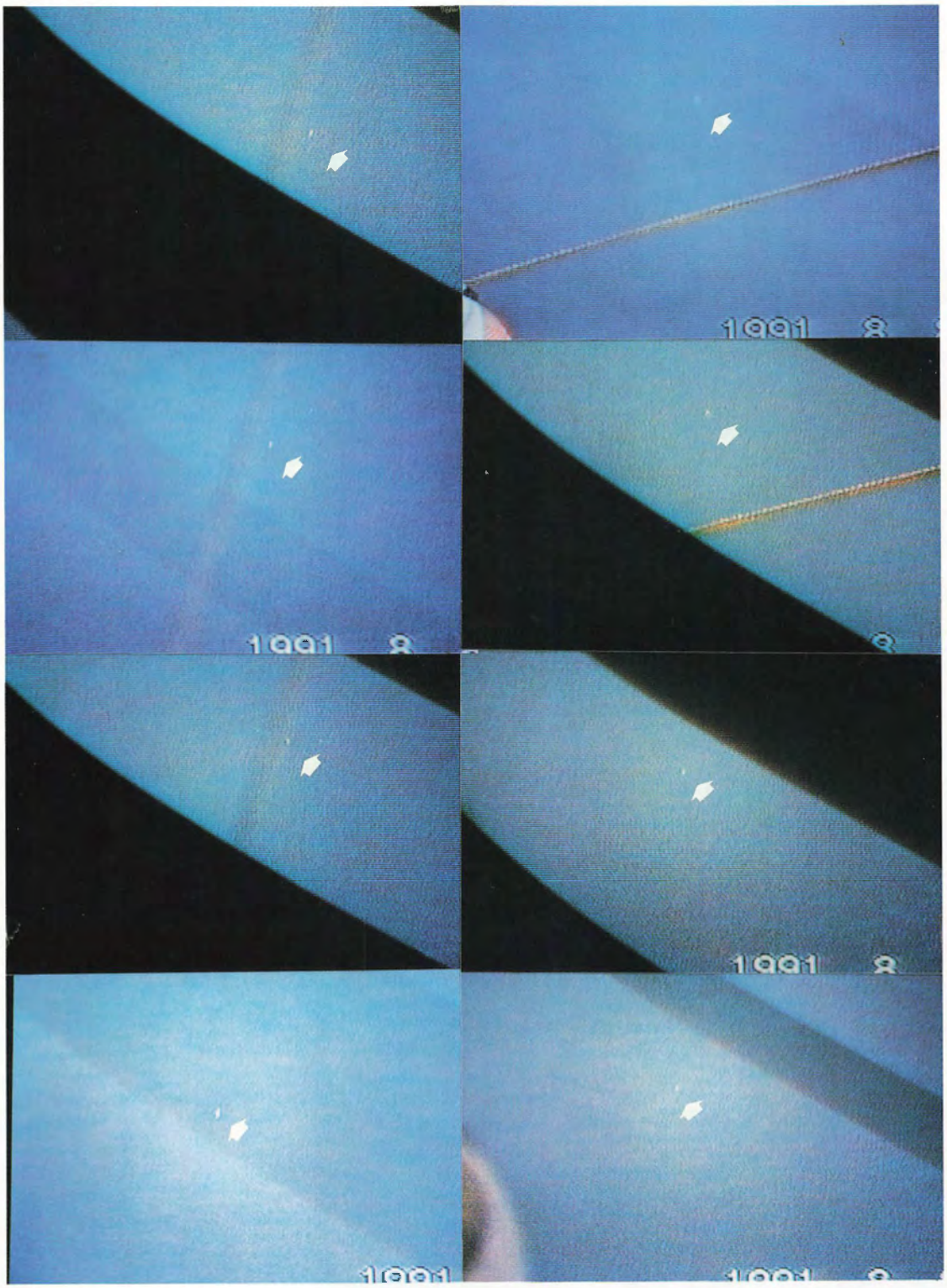
一方、紀元二〇〇年頃かまたはもっと以前、テオティワカンに謎の種族が住み着いて壮大な文明を構築する。これが現在残る太陽のピラミッド、月のピラミッドを中心とするテオティワカン文明である。後に流浪の民アステカ族がこの遺跡を発見して、「テオティワカン」と叫んだ。これはアステカ語で「人間が神様になれる」という意味。だがテオティワカンの末裔も北から来たアステカに滅ぼされ、アステカもスペイン人の侵略で滅亡する。

メキシコ文明の発祥地はタバスコ州で、その祖となったのはオルメカ人である。ちなみにメキシコは三一州からなり、国土は日本の約五倍ある。ヤマダ氏によるとテオティワカンはオルメカを親文化とする第二回目の文化であるという。

さて、私達は四時二〇分に右側の祭祀広場へ行ってヤマダ氏の説明を聞いた。しかしここで氏の熱がはいりすぎて（これは大変良いことなのだが）、時間をくったため、太陽のピラミッドへ登ることができず、月のピラミッドに登頂しただけで引き返した。ここを出るあたりから猛烈なスコールに見舞われる。いまメキシコは雨季なのだ。だがスコールはすぐやんでしまう。

## ●ロサンゼルス上空のUFO

▼8月8日、デザートセンターからロサンゼルスへ帰ってリトゥルトーキョーへ行ったとき、大木氏と植木淳一氏が、18：30分頃から上空に出現したUFOを発見、約30分間目撃した。下の写真はその間大木氏が8ミリビデオカメラで撮影したUFOを、さらに伊東芳和氏がテレビに映して、その画面を35ミリカメラで撮った連続写真。白い矢印は同一の物体を示す。形が円形から偏平に変化するのが分かる。



## メキシコのエキゾチシズム

翌日は早朝四時に起床。五時に出発する。今日はパレンケの遺跡を見学するのだ。ここはユカタン半島の付け根に近い内陸部で、まず飛行機で一時間かかってカンペチェ湾に近いビリャエルモッサに着く。ここは一五世紀に侵入してアステカを滅亡させたスペイン人が建設した町なので、スペイン風の古い建物が多い。

いったいにメキシコ人は土着のインディオといわれる東洋系のように見える人種が主体をなすが、スペイン人との混血も多く、若い混血の女性がやたら目立つ。日本へつれて来れば一流のファッションモデルになりそうな美女がうようよしている。

メキシコには本来の土俗性とスペイン文化とが混交した独特なエキゾチシズムが溢れており、特に音楽や舞踊に大いなる魅力がある。

メキシコ人は天性陽気で明るくて人なつこい。時間に束縛されることを嫌い、自由奔放に生きようとする。このためだらしないという日本人もいるが、私には彼らの屈託なさがユーモラスに見えて愛着を感じる。

彼らの陽気さは民族音楽によく表現されている。それは独特な様式の旋律であって、まさに太陽とサボテンの国の象徴だ。ちなみに私が選ぶ世界の三大民族音楽はメキシコ、ギリシア、沖縄のそれである。

時間があるので、一行はヤマダ氏の案内により、ビリャエルモッサに近いラベンタの野外博物館へ行く。

ここは以前にも来た。三〇〇〇年も大昔のオルメカ時代の石の彫刻類があちこちに無造作に置いてある。何を見つめているのか空を見上げるサルの像があり、神官や王などの像もある。これらを見ると石という素材の持つ永遠性というようなものが感じられる。エジプトへ行くと特にそうだ。

## 謎のパレンケの石棺の浮き彫り

一二時半にパレンケ到着。七七年に初めてここへ来て「碑銘の神殿ピラミッド」を見たときは、これは遠い昔、

●パレンケの石棺の蓋の浮き彫り

名高いマヤ研究家マーリ・グリーン・ロバートソン女史から筆者に贈られた写真。原画48×86㎝。

●碑銘の神殿ピラミッド　〈ブロニカGS-1、PG65mm、フジクローム100〉

私がこれを設計したのではないかと思うほどの凄い親近感と邂逅の念に打たれたものだが、この感覚は来るたびに強くなる。そして遠い故郷へ帰ったような安堵感がわきおこる。またここは宇宙的な雰囲気というか波動に満ちており、魂の安らぎを覚えるのである。

この神殿ピラミッドの底の玄室には巨大な石棺が安置してあり、その蓋には名高い浮き彫りがある。「これはロケットを操縦する古代マヤの宇宙飛行士だ」という珍説を展開したのはエーリッヒ・フォン・デニケンである。彼の書物のおかげでパレンケは世界的に有名になった。

だが、この浮き彫りは宇宙飛行士ではなく、棺の中に眠っているパカル王が天国へ昇天するための儀式を行なっているという説が有力で、ヤマダ氏もその意味のことを説明していた。しかし結局は謎。

だが、見逃せない事実がある。生前アダムスキーはメキシコのユカタン半島の大探検計画をたてて、一列車を借り切り、壮大な調査を意図し、参加者を募ったことがある。このことを知った私は家土地を売り飛ばしてでも旅費を作り、参加しようと思っていたが、後になぜか計画は中止された。理由は不明。

だが、アダムスキーがあれほどの大計画をしたからには、何か宇宙的な物がユカタンの地下に埋蔵されているにちがいない。そのことをおそらくスペースピープルから聞いたのではないだろうか。計画の中止はたぶん資金難かメキシコ政府の発掘拒否のいずれかによるものだろう。

古代マヤは謎に満ちているけれども、なにかの宇宙的な歴史が秘められているような気がするのだ。そういえば、ウシュマルの大遺跡の尼僧院と呼ばれる壮麗な建造物の左手には「金星の神殿」という狭い一角がある。ここを昔調査したイギリスの探検家、ジェームズ・チャーチワードは、この神殿の壁の浮き彫りから、この建物がムー大陸を記念して建てられたものであることを発見したと述べている。

古代マヤ人は神聖文字と呼ばれる絵文字を持っていたし、数学が異常に発達してゼロの概念を有していた。またパレンケの碑銘の神殿ピラミッドの左手前に残る「宮殿」と呼ばれる巨大な石造建築の中に四層になった塔があるが、これは天体観測に用いられたものだろうと考えられている。

一〇年前、ここへ来たときにパレンケに住むアメリカ人の女流マヤ研究家として名高いマーリ・グリーン・ロバートソン女史から、石棺の蓋の浮き彫りを撮った大きなカラー写真を分けてもらった思い出がある。あと三枚しかないという貴重な写真を見知らぬ日本人に気前よく譲って下さった寛大さに恐縮し感動した。帰国後、大きな日本人形を大丸デパートを通じて送ったところ、丁重な礼状をよこされた。

今回パレンケで当時のことを覚えていたヤマダ氏によると、ロバートソン女史は数年前に亡くなられたという。束の間の面会だったが、私にとっては「忘れえぬ人々」の一人である。女史は石棺の蓋の撮影をメキシコ政府から許

可された唯一の人であったとヤマダ氏が話していた。

## 壮麗なウシュマル遺跡

一一日はユカタン北端に近いメリダへ飛ぶ。ここは昔、野口英世博士が在住して風土病を研究した土地で、博士の銅像が立っている。小さな像なので迫力がない。資金難によるものだろう。

一二日、バスで出発。ウシュマルへ向かうが、まず近くのカバー遺跡を見る。一〇年前とは比較にならぬほど修復が進み、雨の神チャクを無数に外壁に飾った「仮面の宮殿」が異彩を放っている。これは古典期のプーク様式である。

このあとウシュマルの大遺跡へ行く。ここの目玉はなんといっても「魔法使いのピラミッド」。三〇数メートルの高さの大神殿が威容を誇っている。傾斜角四〇度くらいと思われる長い石段は降りるときが危ないので、左横に鉄の鎖が下げてあり、それにつかまりながら降りてくる。毎年ここで数名の転落死者がでるという。日本ならば文句なしに「危険につき登頂禁止」の立て札が立つだろう。日本という国は全体が幼稚園化しているような気がする。

尼僧院の「金星の神殿」へ磯目君とともに行ってみた。狭い室内は汚くて、悪臭がする。チャーチワードの言う浮き彫りが見当たらない。左側の室内の壁の一部がえぐり取られてポッカリと穴が開いている。以前には確かにこの位置にあったのに、取り去ってメキシコ市の人類博物館へ運んだのだろう。

こうした古代マヤの複合遺跡は全国で約五万カ所あるらしい。そういえば樹木に覆われた未発掘のピラミッドがあちこちに見える。だがメキシコ政府は予算の関係からか、遺跡発掘にあまり関心を示さぬとヤマダ氏。現在、メキシコ政府はグァテマラの国境に位置するヤシュチラン遺跡を本格的に発掘中だが、これはたぶんメキシコ最大規模の遺跡であろうという。

四時二〇分にここを出てバスでメリダ空港へ行き、ここから飛行機でカンクンに向かい、約一時間後に到着。ただちにホテルへ入る。

カンクンはむかし最初のメキシコ旅行で来たことがあるけれども、当時はホテルが一軒しかない寒村にすぎなかった。ところが今はホテルが数十軒も林立して殷賑をきわめ、世界屈指の大リゾートになった。

エメラルドグリーンのカリブ海は夢のような色彩を帯びて、純白の砂浜は限りなく優しく展開している。まさに天国といえるだろう。ただしこの土地を享楽するにはそれなりの経済的バックを持たねばならない。すべて先立つものがつきまとうのである。これが地球の特徴。

翌日は終日自由行動。各自海水浴に興じたり、町の中心部へ買い物に出たりする。夕方はコルティホ・フラミンゴという大きなクラブへ行き、食事しながらメキシコの民族音楽と舞踊を見る。メキシコ市の国立芸術院レギュラーのマリアッチや舞踊団が出演して素晴らしい。メキシコの伝統的な芸術の粋を満喫し、本場のマルガリータを飲みながら陶酔の一夜を過ごしたのであった。

紙数の都合により、先を急ぐと、カンクンを出たあと、一四日にはニューヨークへ飛び、翌朝、メイン州から来たアリス・ポマロイ女史が合流。終日ニューヨーク市内を見学。

ここには日本GAP会員のデイビッドウィッツ・邦子さんが私達をあたたかく迎えて下さった。彼女は静岡県出身で、ご主人はアメリカ人。経営コンサルタントの会社を経営され、お二人で五番街の超豪華なアパートにお住まいとのこと。この日の旅行団の昼食と夕食はすべてご夫妻のおごりで、恐縮した。デイビッドウィッツ氏とは夕食会のときに親しく語りあったが、高度に知的な温和な紳士。夕食はGAP会員の菅原恵子さん（千葉県）のお兄さんである前田氏が経営されるフランス料理店で楽しくすごした。むかしサンフランシスコでお会いしたことがあるが、そのことをよく憶えておられて、これも懐かしい再会となった。

デイビッドウィッツ氏といい、前田氏といい、いずれも実力を発揮して地位を築いた方。人間の実力というものについて考えさせられた次第。そして多数の人との交際の重要性を痛感したのであった。

## 人間は本質的に旅人

今回の旅行では宇宙哲学を生かして、四つの感覚器官を極力コントロールしながら歩いたつもりだが、どうにかするとそれを忘れて、いつのまにかそれらに振り回されている自分を発見するということがしばしばあった。対人問題で気分が沈みそうになると、私はよくルカ伝の一節を英語でくちずさむ。

「他人を許しなさい。そうすれば創造主もあなたを許したまうでしょう」

人間は本質的に旅人である。町から町へ、国から国へ、そして転生を通じて惑星から惑星へ、さらに太陽系から別な太陽系へと果てしない旅を続ける。私達の日常生活も旅の一断片にすぎない。今生の伴侶や友人と別れて、また来世で別な伴侶や友人とすごす。こうして現象界は流転するけれども、その底には絶対的なものが潜んでいる。それは万物を生かす「宇宙の意識」である。これに気づかねば旅の行く先は決まらない。良き惑星への転生のためのキップは「宇宙の意識に対する自覚」である、とアダムスキーは言う。これは真実であろう。

ロマンや幻想におぼれることなく、あらゆる現実を直視し、しかもその現

●魔法使いのピラミッド（ウシュマル遺跡）〈ブロニカGS-1、PG65mm、フジクローム〉

◀金星の神殿

実の背後にひそむ実態をガシッと心眼で見透す力を持ちたいものだ。それは結局自分自身の本体を発見することになるだろう。

# 「アメリカ東部西部・メキシコ宇宙ロードの旅」に参加して

## ロサンゼルス上空に出現したUFO

●植木淳一（千葉県）

今回は、グループの一員としてはじめて日本GAPの旅行に参加させていただき、多くの学びを得させていただきましたことを、旅行に参加した皆さまと久保田先生、そしてお世話いただいた田中氏に感謝いたします。

今回の「アメリカ東部・西部・メキシコ宇宙ロードの旅」の目玉はやはりデザートセンターでしょうか。ここは一番期待していた所でした。目的地への途上、何回かUFOらしき光を目撃した人がいます。私の場合、過去にUFOが出現する時にはそれが自分にとって特別な意味のある場合が多かったので、バスの窓越しに飛行機とは思えない光点が山の上空に出現した時、その直前に考えていたことへの肯定の印のように思われました。この光点は出現後数秒して、位置を変えることなく消えました。砂漠の中のコンタクト地点では残念ながらUFOは出現しませんでした。

帰りぎわに気づいたのですが、コンタクト地点近くの道路脇の丘の上に、高さ一メートルくらいの石を積んだ塔が二つ立てられていました。さらにそのひとつの近くの地面に、Kの字を丸で囲んだものがあったのです。これには様々な憶測がなされましたが、たぶん誰かがコンタクト地点の目印として立てたのではないかと思われます。Kは久保田先生の頭文字のKでしょうか。

二日目はパロマー山への旅行です。ここには、昔、太陽磁場の逆転に関して問い合わせたことがあり、天文台自体にも特別な親しみを感じていたのです。ご存じのように、太陽の一般磁場は約一一年周期で逆転をくり返すことが知られています。これと、アダムスキー氏が述べている太陽磁場の逆転とは同じ現象であることがわかったわけです。パロマー天文台への途上にあるアダムスキー氏の住居跡は、周辺にインディアンの居留地もあり、自然が荒らされていないせいか不思議とすがすがしい波動をもっています。

天文台前での全員の写真撮影では、ある自動車が、親切にもその道路のずっと手前で撮影の済むまで停止していてくれたのが印象的でした。帰途で水平線近くの山の上に平行に移動する白い物体をいくつか見かけましたが、それが何かはわかりません。

ロサンゼルスではリトウルトーキョーの日本料理店で夕食となったのですが、その料理店に向かう直前に、大通りの脇の歩道で大木氏とともにUFOを目撃したのです。以下にその詳細を述べてみます。

ここでの出現は二回あり、初回の出現は通りの反対側のビルの上空から出現し、それは紡錘型の白い雲のように見えました。音は聞こえません。これがビルの上空から現れて波うつ軌道を描いて進行した後、しばらくの間静止し、（上昇したためか）小さくなって方向を変えた後、通りに沿ってリトウルトーキョーのオニヅカ大佐記念碑のある方向に移動してゆきました。

二つ目はその目撃の直後、通りに沿って電柱ひとつ分歩いた時でした。形は白い楕円形とその長軸に平行な直線部分とがくっついたように見え、それが共通の重心の回りを回転しながら移動していました。これも一回目の出現とほぼ同じコースをたどり、静止後、小さな光点となって通りに沿った方向にゆっくりと移動して見えなくなってゆきました。

私たち二人は脇を通り過ぎる人達の目も気にせずに、上空に現れたUFOを大木氏のVTRで撮影しつづけましたが、後に考えてみると、よく路上に置きっぱなしにした荷物が盗まれなかったと半ば呆れながら笑い合ったのでした。この目撃に要した時間は通算して約三二分ほどです。（個々のUFO目撃時間は現地時間一七時二五分より一七時三八分、一七時四一分より一七時五七分）

メキシコの遺跡めぐりはとても素晴らしい体験でした。パレンケでは、碑銘の神殿の中にあるパカル王の有名な石板を見学し、昔、空を飛んだ人がここに眠っていたのではないかと想像をたくましくしたものでした。

また、現在はジャングルの中に眠っているカバー遺跡の仮面の宮殿は、地下が空洞になっていて、雨水が蓄積できるようになっています。昔、このあたり一帯の古代都市地域に上水道として水を供給する施設ではなかったのかとも思われるのです。マヤの古典期の遺跡は意外に実用的な用途で作られていたのには驚きました。

アステカのテオティワカンは宗教的な施設ですが、閉園近くに小高い丘に登りました。この丘の手前に細い道がありますが、ここを通過するときに何か暖かいエネルギーを感じたのです。また、随所にみられる四角いひな段のような設備の上では精神が不思議と落ち着きを取り戻すような感覚があります。これらはエネルギースポットとかそうしたシステムの一種なのでしょうか。

旅行中、私には次のような自覚が芽生えました。それは友好的な他の惑星から来られた方々は常に我々を見守り導いていてくださるのだということです。また、個人の内部には真の自我（宇宙的な英知）が存在し、それも我々を導いてくれているはずです。

最後になりましたが、旅行に参加された皆さまに、目に見えない形で様々なご迷惑をかけたことをお詫び申し上げます。ありがとうございました。

## テレパシーで望みが実現

●大橋　豊（栃木県）

雨の日本を出て、カラッとしたロサンゼルスに着く。ロスは環境にめぐまれた美しい街だ。魚もうまい。デザートセンターはロスからかなり離れていて、とにかく暑い。記念写真を写しているときなど、ジッとっていると足の裏が火傷しそうだった。

コンタクト地点の周りの丘は意外に小さかった。近くの丘にケルンがふたつ立っているのが気になった。そのうちの、コンタクト地点に近いケルンのそばにⓀのマークが描いてあった。

デザートセンターに行く途中と、帰る途中は、白い飛行機がたくさん飛んでいた。それらの飛行機を注意して見ていると、何機かは、青空にパッと消えてしまう。大木氏の話だと、飛行機に偽装したUFOだという。確かに、飛行機と見分けはつかない。消えて初めてUFOだとわかるくらいだ。

パロマー天文台は高い山の上にあり、道路は急カーブばかりなので車酔いをしてしまった。

メキシコの街は色が派手だった。月のピラミッドを見学した後のスコールはすさまじいものだった。マヤ文明のピラミッドは、石段が急こう配なので、高い所が苦手なぼくは登れなかった。バスの中から見るメキシコのパレンケの周りの風景はとてもよかった。カンクンの海はエメラルドグリーンでとても美しい。カンクンに一生住みたいと思ってしまった。

余談だけど、成田空港で、アメリカに行く飛行機と、日本に帰る飛行機の座席を抜迫さんの右どなりにして下さいと、テレパシーをスペースピープルに送ったら、そのとおりの座席が取れた。帰りの飛行機など、乗りかえてもそうなった。また、家に帰ると、集英社から、秋山真人さんデザインの指輪がプレゼントされていた。前からほしいとスペースピープルにテレパシーでお願いしていた品物だった。表面には宇宙文字が彫ってある。

## すごかったマヤ遺跡群

●磯目三鶴（東京）

一一年前にやはりGAP旅行団とともにアメリカへ行きましたが、なんといってももう一度踏めたモハービ砂漠への大地の欲びは大きかったです。一九五二年一一月二〇日、金星人オーソンとアダムスキーの劇的な会見地は、のちの感想文で誰しもが言ったように大地のよい波動が体にジーンと響いてくるではありませんか。猛暑でなければ木陰の下で昼寝でもしたい気分です。でも木などは一本もはえていませんし日陰などはありません。ハゲ山でした。しかし大昔は大草原でバッファローや鹿、オオカミや野うさぎなどが走りまわっていたのでしょうね。そしてアダムスキーがトリテリア民族の大指導者だったころ宇宙からの訪問地として宇宙船が着陸していた一大家族の楽園だったかもしれませんね。

どこかに円盤が着陸していないかと期待していたんですが、この日は軍用機か民間機がよく飛んでいました。

帰途コンタクト地点を出発してから間もなく大橋君があの丘の上に立っているケルン（石積み）はなんだろうということでバスを止めて、一五分間ぐらい時間をもらって数名の人は道路から右脇に入った丘に向かって駆けていきました。ダニエル・ロスさんも行きました。その丘の上からはコンタクト地点が充分に見下ろせるところです。

「そのケルンのところに、向かって右側のケルンのそばに直径一メートルぐらいの円の中にKの字が書かれてあったんですが、これは簡単には消えるものではありませんでしたよ」とダニエルさんも他の方も言ってましたけれど、これはおそらく久保田先生の頭文字のように思えます。

第三日目パロマーガーデンズの故アリス・ウェルズ女史が経営していたレストランの跡地へ行きました。そこで先生はアダムスキーが落書きした円盤のコンクリート跡があったんだが、どこだったかと捜していましたところ、神奈川県の田中氏が枝棒で枯れ葉をどけて、ここですと見つけてくださいました。しかしアダムスキーが生前に円盤問題と他の惑星人の話でレストランが活気だっていたころ、軍関係者や科学者、いろんな人たちがアダムスキーの知識を求めて訪れていたんでしょうね。のちにこのレストランの跡地へ日本GAP旅行団が幾度もやって来るなんて誰が思ったんですかね。でもスペースピープルはきっと予想していたことかもしれませんね。そう、あの日本人の哲人、久保田先生を……。

メキシコに到着しました。さあ、遺跡の見学だ。メキシコ市からテオティワカンまで約一時間、六五キロメートルの地点にあります。八月は雨期とのことで、一時的に強い雨が四時から五時の間に降るといっていましたが、ちょうど私たちが月のピラミッド、太陽のピラミッドを見学中でしたけれど、小雨がパラついただけで、その間は大雨に襲われませんでした。ふらつく足どりで太陽のピラミッドを登っていましたが、雨雲がはびこるなか、風に吹かれていたのが少しおっかなかったです。頂上までは行きませんでしたが、途中の段から見下ろした太陽のピラミッドから月のピラミッドにかけてのこの広場は死者の大通りといわれてますけど、ほんとうはなんのために作られたのでしょうね。このようなピラミッドは他にも発見されていますが、墓とされているものはないといいます。宗教センターともいっていましたが私にはそう思えませんし、ここで生活していたとも思えません。井戸はありました。石段はどこからどうやって運んできたのでしょうかね、謎です。

パレンケの有名な王の遺体を納めた石棺のモチーフですが（デニケンの宇宙飛行士説）そのまわりを一周できるのかと思っていましたが、そんな広さはなくその部屋の入口にかかる鉄格子のところで一分も見れず、二五メートルもある階段を再び登っていきました。なにせ、これを見ようと観光客の列がひっきりなしにピラミッドの頂上にまで続いていたのですから。

ウシュマルで魔法使いのピラミッドにも登りました。ここには尼僧院という所がありまして久保田先生に連れられて行きましたが、「失われたムー大陸」を書きましたジェームズ・チャーチワードが発見した浮き彫りの壁画があってムー大陸のことが書かれてあったんだが、きれいにはがされて人類博物館へ持ち去られたのだろうとおっしゃっていました。今は壁が黒ずんでおり、鳥の巣になっているみたいで臭かったです。

ガイドの山田さんが話されていたなかでおもしろいのがありました。オルメカ人たちはオーラが見えるようにするために赤ん坊のころから額のまん中に何か目印のものを置いてそれを赤ん坊が見ているうちに目が斜視になり、大きくなるうちにはオーラが見えるようになっているというのです。そのころの人たちはオーラというものを知っていて、どのように意識していたんでしょうね。

カンクン最後の晩に行ったディナーショーはほんとうに豪華で素敵でした。そのあとホテルへ帰ってからロビーで生バンド演奏が行なわれているカフェで数名の人が一杯やりながら談笑し、みんなのっちゃって他の外人の人もリクエストしたナツメロにのっちゃって踊りまくりましたね。久保田先生と篠崎さんとの社交ダンスは素敵だったなあ。

この夜中に私は腹をこわしまして朝の出発まぎわまで一時はどうなるものかと危ぶんでいましたが、無事ニューヨークまで持ちこたえることができて幸いでした。その間、皆さんにご心配をおかけしましてすみませんでした。二、三おなかの調子が悪くなった人もいましたが、大事にならないでほんとうによかったと思います。ワシントンに来るまでにはすっかり良くなってしまいました。パメラ夫人からも皆さんからも薬やみそ汁をいただき、久保田先生からはバイウォーターを飲ませていただきありがとうございました。

今回の旅行で素敵な思い出を作ってくださったロス夫妻、アリス・ポマロイ女史、ニューヨーク滞在のクニコ・デイビッドウィッツさん、添乗員の田中さん、同行の皆さん、久保田先生ありがとうございました。

## 感動のデザートセンター

●大沼潤一（神奈川県）

ついにコンタクト地点に着いた。目の前に川の跡の様な幅広い溝があり、右手前方の丘の稜線は確かにコンタクト地点に立つアダムスキーの写真と一致する。また、振り返って、道路側を見れば、オーソンの足跡を石膏にとったというウィリアムソンの写真と一致する景色だ。

アダムスキーとオーソンが出会ったデザートセンターへ行って、この目で確かめたかった願いが実現したのだ。この感動と猛烈な暑さのためかコンタクト地点の近くを歩き回り、立ち止まってはただ写真を撮った。

歩く度に小銭いれのコインが鳴りその音が岩場に反射して、まるで虫が鳴いている様に耳に入ってくる。全く不思議な場所だと感じた。今度はもう少し涼しい時期に来てみたいと思う。

翌日行ったパロマー山一帯は予想よりはるかに広い山系で、パロマーガーデンズも落ち着ける場所だと思った。やはり自分の目で確かめることの大切さを実感した。

ロサンゼルスからメキシコに入りテオティワカン、パレンケ、ウシュマルの遺跡を見学した。

特に、パレンケの遺跡では素材が石とは思えない柔らかな印象を受けた。多くの彫刻類は削りとられているが、珊瑚礁が堆積してできたという岩石で作られた神殿は単に静かな雰囲気だけではなく、人の想念を解放する様な感じを受けた。

次の日、ウシュマルの遺跡ではパ

▲コンタクト地点付近の丘の上の地面に刻まれた不思議なⓀの文字。　撮影／大沼潤一

レンケとは違った印象を受けた。魔法使いのピラミッドに登った時はその高さにびっくりしたが、むしろ、地上を意識した造りだと思った。

旅行中、感動したことはたくさんあったが、一番楽しかったのはカンクンでの一日だった。今まで見たこともないほどに青く透き通った海の水、独特の乳白色の砂、波の音を浜辺で聴いていると何日いても飽きないと思った。特にディナーショーの後、ホテルのロビーで踊ったのは本当に楽しかった。いっしょに踊った青柳さん、平林さん、抜迫さん、小原さん、ありがとうございました。

ダニエル・ロス氏ご夫妻といっしょに旅をし、アリス・ポマロイさんと会えたことも良い思い出である。ニューヨークのデイビッドウィッツご夫妻にもお礼申し上げます。

## 奇跡連続の旅行

●工藤光博（北海道）

燦々と降り注ぐ太陽。容赦ない熱風攻撃。砂と岩とカン木だけの不毛地帯。数年来憧憬してきたデザートセンターはかたくなに人間を拒んでいるようだった。バスから降りて一〇分程平原を行くと、そこには紛れもなくあの写真と酷似した景色が展開していた。今まさにコンタクト地点に足を踏み入れたのだ。私は言いしれぬ感動でうち震えた。一人目を閉じ三九年前に思いを馳せると、瞼に当時の情景がありありと浮かんでくる気がした。

同じアダムスキー師ゆかりの土地でもパロマーガーデンズからは柔らかい波動を感じた。夾竹桃の紅色の花が咲き乱れ、繁茂した木の葉が適度に光線を遮り、快適な空間を提供している。既に建物はなく土台のみが寂しく亡き主を偲んでいる気がした。ア師自らが描いたといわれるUFOの絵に、言葉で言い尽くせぬ親しみを感じたのは私だけだったろうか。

ワシントンに着くと早速アーリントン墓地へ向かった。ところが広大な敷地ゆえア師の墓碑の正確な場所がつかめない。ところがまもなく奇跡が起こったのだ。しかも自らがその瞬間を目のあたりにしようとは。

それはユーコン（一〇二号。ア師の墓とポマロイさんの写真を掲載）を借りることから始まった。といってもこの区画だけで一〇〇〇を超える同形の墓碑と多くの木々があった。写真はその一部にすぎず、明白な指標を見いだせなかった。ところが何かに引かれるようにある地点へ足が向かっていった。立ち止まったところへ発見者となった清水さんが近づいてきて「樹の右側の下」と教えたところ、十数秒後「あった」という声を聞くことになった。驚くべきことに目の前にその墓は立っていた。

まさしくこのことはスペースピープルの援助が働いていた証明といえないだろうか。墓碑ナンバー四三二九五（四三区画の二九五番）。ワシントンを訪れることがあればぜひ墓参してほしい。合掌。

かえりみればこの旅行はいくつもの奇跡に守護されていた。強烈なイメージが結実した結果かもしれない。その意味からも今回の旅行のもつ意義を考える必要があると思う。決して単なる物見遊山ではないし、UFO観測も全てではない。その鍵を帰途の機中で上映された〝ダンス・ウィズ・ウルブス〟に見いだすことができる。主人公のアメリカ兵士がインディアンの社会に同化していくうちに、アメリカの犯した重大な誤ちに気づくという内容である。この作品は昨年度のアカデミー賞七部門を受賞し、アメリカの良識と賛美されたのは記憶に新しい。異民族を理解するには現地に赴き、相手の風俗、習慣の中に身をおくのが必要だろう。

全ての動植物は宇宙の意識によって生かされており、優劣の差など存在しない。この宇宙哲学を我々一人一人が実践するならば、環境の回復はおろか世界平和も夢ではあるまい。まずGAP会員が率先して実践しようではないか。

最後に久保田会長をはじめロス氏夫妻、ポマロイ氏、デイビッドウィッツ夫妻、ツアーコンの田中氏、そして旅行に参加した皆さんにお礼を述べたい。多謝。

◀ワシントン市郊外アーリントン墓地のアダムスキーの墓（中央）。その後ろはアリス・ポマロイ女史。

# 本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

## No.114　平成3年7月25日発行　¥900

日本GAP全国ネットワークテレパシーコールUFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景――松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン――高木　澪
奇跡を起こす想念の力――遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た！――松浦義教
タパヌイの謎の大爆発――ジャン・パジャク博士
アダムスキーの主張は正しかった――ダニエル・ロス

## No.113　平成3年4月25日発行　¥900

ファティマの大円盤出現事件――久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則――ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験――中村省三
オーラ透視力開発法――遠藤昭則
壁画の奇跡――永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO――北館博子
クリスマス前のUFO出現――伊藤芳和
私のUFO目撃体験――平井沙織
UFO-宇宙からの完全な証拠(完)――ダニエル・ロス

## No.112　平成3年1月25日発行　¥900

アダムスキー問題と日本GAP――久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった！――ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完)――G.アダムスキー
〈写真〉金星の不思議なスジ模様――
青森県に頻発するUFO出現事件――
UFO-宇宙からの完全な証拠⑭――ダニエル・ロス

## No.111　平成2年10月25日発行　¥900

高度に進化した金星人の実態――G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ――久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO――村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ――番場博次
松本市にもフットボール型UFO――茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤――堀江健一
私のテレパシックな不思議人生――郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑬――ダニエル・ロス

## No.110　平成2年7月25日発行　¥900

UFOの正体と観測の仕方――本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記――藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法－久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視――遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話――向井　裕
アメリカGAP発足！(完)――ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑫――ダニエル・ロス

## No.109　平成2年4月25日発行　¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続－G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現！――
デザートセンター円盤着陸事件(2)――久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち――川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー――遠藤昭則/秋山眞人
「アメリカGAP」発足！――ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑪――ダニエル・ロス

## No.108　平成2年1月25日発行　¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則――G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」――久保田八郎
超能力開発の新しい視点――秋山眞人
潜在意識としてのDNA――N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た――小瀬村芙美子
私についてきた光るUFO――郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO――中根　豊
ロイよ、来て助けておくれ！――久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠⑩――ダニエル・ロス

## No.107　平成元年10月25日発行　¥900

テレパシー開発法とUFOの実態――G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎――久保田八郎
私はペルーでUFOを見た――富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人(完)――向井　裕
超能力開発の基礎レッスン――斉藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法――遠藤昭則

## No.106　平成元年7月25日発行　¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号――G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人②――向井　裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法――久保田八郎
ヒーリングとテレパシー――遠藤昭則
テレパシー現象の医学的考察――N.H.M.D.
UFO-宇宙からの完全な証拠⑨――ダニエル・ロス

## No.105　平成元年4月25日発行　¥900

デザートセンター円盤着陸事件―久保田八郎/篠芳史/坂本貢一・茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人①――向井　裕
過去生透視法とその実例②――遠藤昭則
輝く星々の彼方へ――斉藤庄一
長野県に巨大UFO出現！――博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠⑧――ダニエル・ロス

## No.104　平成元年1月25日発行　¥900

UFO問題と世界の運命――久保田八郎
アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助――アリス・ポマロイ
デザートセンターで円盤着陸痕跡発見！－安藤澄雄/久保田八郎
過去世透視法とその実例――遠藤昭則
UFO-宇宙からの完全な証拠⑦――ダニエル・ロス
GAP活動の原理――ダニエル・ロス

## No.103　昭和63年10月25日発行　¥900

アダムスキーの体験は真実だった！――アリス・ポマロイ
我らの惑星に愛と希望を――久保田八郎
カイロ上空に輝くUFOが出現――伊東芳和
私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め――富岡設子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑥――ダニエル・ロス

## No.102　昭和63年7月25日発行　¥900

UFO目撃で驚嘆、大変化した私――後藤泰二
仙台市上空にUFO長時間出現――遠藤昭則
富士山周辺でテレパシーに応えるUFO群――長沼宏志
ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす――田中　正
良い想念であなたの環境は良くなる――
UFO-宇宙からの完全な証拠⑤――ダニエル・ロス

# Letters ユーコン広場

**投稿歓迎** 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

## 素晴らしい東京月例会

東京　岸本　悟

先日の七月東京月例会では大変お世話になりました。いつもながらの素晴らしいご講義に感銘を深めております。それから、今回の超能力開発練習も私自身の成績は大した事はなかったのですが、なかなか素晴らしい方法だったと思います。ただもう少し時間を長くしていたらもっと良かったかもしれません。あの方法は日常生活に応用がきくものでして、このような方法で行なっていきますと、ミスターなんとかという人とはくらべものにならない本当の意味でもすぐれた超能力者になりうるかもしれませんね。スプーンは曲げられなくても、こちらに向かって来る台風の進路を変えてしまったり、燃えたはずの一万円札がたまごの中から出てくるなんてことができなくても、部屋の中に失くしてしまった大事な物を捜し出せるかもしれません。この方がよっぽど有益ですね。私も自然な形で日常生活に超能力を応用し、より喜びに満ちた素晴らしい生活をおくってゆきたいと思っています。

ところで、二次会で先生にたずねられた件ですが、液晶画面のラップトップで固定ディスクが内蔵されているパソコンがあるそうなのですが、これを用いまして、データベースを使ってやりますと、先生の要望のものができるそうです。ただデータベースを要望にあわせた形で運用していくためにプログラミングする必要があるそうですが、ただ、私はデータベースを使用したプログラムは今まで作った事がないものですから、経験のある石田さんに話しまして、石田さんの方から先生宛に話がいくようにしたいと思っています。

ところで話は変わりますが、最近強く感じるようになった事があります。それは、宇宙の意識と一体化している時に（あるいは、相手の意識と一体化している時に）考えている事は周りの人（あるいは相手の人）につたわっているのではないかという事です。これをうまく応用しまして、世界が平和になるイメージや、豊かで幸せな世界のイメージを調子の良い時でいいですから、イメージしていると、もしかするとそのイメージが周りに影響するのでは、なんて思ったりします。

## アダムスキー全集を読みましょう

名古屋　高原登茂子

久保田先生、先日は暑中見舞にまでお返事を下さり、ありがとうございました。あの〝ぐわん、ぐわん〟とダイナミックに書かれた大きな宛名を郵便受に発見した日には、世の中がそれはもうバラ色みたいに見えるのです。数少ない先生からのお手紙は私の宝物として大切にしまってあります。

お盆休みの一日、ずい分流行遅れではありますが、ホーキング博士の宇宙論を要約した本を読みまして、たしかに彼の新しい発想は愉快だと感じましたが、しかし何だか苦労して遠まわりをしているなあと思いました。疲れたので口直しにとアダムスキー全集を読み出したことが、最近全集にごぶさたしていた私にとって良いきっかけになりました。わかっている地球の歴史の中だけでもたくさんの学者が宇宙について考えてきました。少し気になるのは斬新な理論が出ても、それまで権威を持っていた学者が自己の打ちたてた古い理論に固執するというところです。エジソンだってアインシュタインだって……。地球人の性でしょうか、この柔軟性のなさは。それでも古いものは容赦なく新しいものにとって替えられて今日に至りました。

その本にはホーキング博士のこんな言葉が載っていました。「私は宇宙がある法則によって支配されているとの確信のもとに活動している。そのような希望は妄想かもしれないし、実際には完全統一理論などないかもしれない。また、あっても私たちには発見できないかもしれない。だが絶望よりは、完全な理解を求めて努力する方がずっといい。そしてもし完全な統一理論が発見されれば、私たちや宇宙がなぜ存在しているのかという根源的な問題が、広く議論されるようになるだろう。それに対する答えが見いだせれば、それは人間の理性の究極的な勝利となる。なぜならば、そのとき神の心を私たちは知るのだから」

私は「人間とは常に絶対的な宇宙のパワーを探究してやまない生き物なんだ」とちょっぴり感動もしましたが、今の地球的考察の果てには神の心は発見されないと思います。一九八一年、ローマ法王がホーキング博士に語った「ビッグバン以後の宇宙を研究するのは結構だが、ビッグバン自体は探究してはならない。なぜなら創造の瞬間、それは神の御業なのだから」という言葉はアダムスキー的に解釈すれば「今のままでは因の領域を理解できませんよ」といったような意味なのでしょう。別の惑星では、アダムスキーが金星の母船で会った（もと）メリーのような少女でさえ地球人の知らない沢山の宇宙の法則を学んでいるではありませんか！　溜め息モノです。なんてすばらしい！

私が「生命の科学」に出会ってから七年、その教えは少しも色あせないばかりか少しずつ体の細胞に染みわたっていき、わずかに理解も深まったように思います。七年前にようやく階段を一段上がったところです。

ここまで読んで下さってありがとうございました。来たる九月二二日には今までにない大盛況な総会になる予感がしてきました。どんな時にもどんな事をしていてもきっと先生はたくさんのブラザーズに見守られているに違いありません。お体を大切になさっていつまでも私たち地球人の良き指導者として頑張って下さい。

## 知らせる運動を

沖縄県　比嘉　文雄

UFOコンタクティー一一四号を送って下さいましてありがとうございます。私はG・アダムスキーに関心をもってから一〇年以上になりますが、難しいながらも多くの教示が得られ、座右の銘として愛読させて頂いています。

この書籍とGAPとの縁も私にとって必然的なものだったと思います。人生は自分自身の内部にあるもの、自分の必要とするものにしか出逢うのではないでしょうか。又、人生は旅にもたとえられますが、旅に出るのは外にあるのを探し観ているようですが、実際は自分自身との出逢いを探し求めているのではないでしょうか。本に出逢う旅にたとえても同じような気がします。その点で久保田八郎先生の御尽力によるアダムスキーとの出逢いを感謝しています。まさに人間個々、社会、国、世界、地球人の生き方の動向は宇宙の意識と単位個々の想念の持ち方にかかっているような気がします。

GAPの発展を祈り、今後もアダムスキーを学んで、微力ながらも「知らせる運動」に生かすのが私の夢です。

## 友を求む

通日〝二五三〟東洋大陰暦の〝中秋節（満月）〟でもある私と同じ生年月日（昭和四〇年九月一〇日）生まれの友をさがしています。該当者、もしもこのメッセージに触れたのであれば、第一種的コンタクトに違いないので、是非連絡を。

〒三三八　埼玉県与野市大戸七三三
清野信一（25歳）
☎〇四三―八三一―八一〇七

## 祝・日本GAP創立三〇周年

静岡県　高梨十光(和明)

久保田先生、いつもありがとうございます。先生の熱情と気迫の込もった「Uコン」ありがとうございます。

思い起こせば、日本の空飛ぶ円盤研究界の第一人者、パイオニアとして先生が日本GAPを創立されたのが一九六一年九月(まちがっていたらお許しください)。爾来、今日に至るまであらゆる困難と想像を絶するドラマティックな数々のシーンを展開されてこられた先生の偉業に対して、小生は個人的にもそして客観的にも感謝がささげられるべきと信じて疑わない次第です。今なお先生が当時の情熱を少しも失わず活動を続けられているということに、限りない憧景を感じる次第です。どうぞ今後とも増々のご発展をお祈り致します。

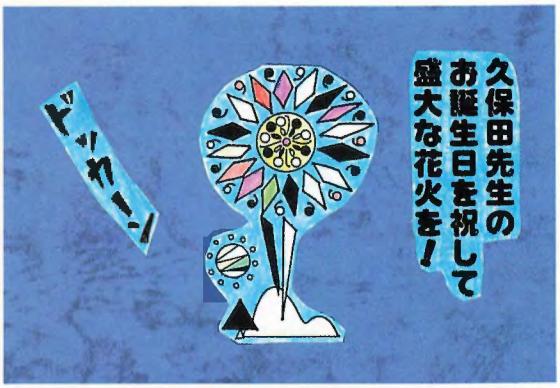
さて小生は相変わらずマイペースでやっております。日本GAPにおいて使っていただいた当時に比して、現在は東京にも御無沙汰で申し訳ございません。久保田先生のあのダイナミックでエキサイティングなお話をお聞きするのが小生の楽しみでしたが、いずれ真夜中にでもじっくりお聞きしたく存じます。

御祝詞(第二信)

想えば世界に類を見ない宇宙的研究集団日本GAPを創立されて三〇年、日本の空飛ぶ円盤研究界、いや世界の研究界の第一人者として君臨されて来られた御足跡は想像以上に偉大です。久保田会長の堅忍不抜の精神は他を圧倒していると拝察いたします。強靱な肉体と大胆不敵な精神で、今日の日本GAPを築かれましたことは、極めて見事な業績です。久保田会長の日本GAPの数々の栄光と御活躍はそれこそ、「十戒」「ベンハー」などの壮大で豪華な映画を感動して見詰めるごとき感覚とオーバーラップします。

この度は先生、貴会日本GAP創立三〇周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。長きに渡りたゆむことなく超人的な努力をされ、宇宙に栄えあるこの日を迎えられましたこと、感慨もひとしおと存じます。このうえは輝かしき伝統と信用の上に立ち、なおいっそうの御発展をとげられますようお祈り申し上げます。

▶高梨氏(RTO高なし鍼灸治療院院長)からの暑中見舞カード




◀茨城県・鹿窪一江さんからの誕生祝カード


## 英文版「UFO contactee」No.7

申込先▶日本GAP

B5／12頁／コート紙使用／
¥500(送料¥175／3冊まで¥250)

世界のUFO研究会で注目の的になっている日本GAP発行英文版は、各国UFO研究家や団体が絶賛。UFO問題は国境を越えた宇宙的な要素を帯びていますから、英文による国際版が情報伝達に重要。No.7はコンタクティー春川正一氏(仮名)の宇宙的体験記事「A Young Japanese Man Visits Other Planets」の連載最終回、アダムスキーの質疑応答を掲載。いずれも流麗な英文による貴重な情報源となるもので、英語学習用テキストとしても最適。両記事とも質疑応答形式なので、UFOや宇宙的思想を話題とする高度な英会話の習得に絶好の資料になります。


## 編集後記

★今年度日本GAP総会は大盛況でした。ご参加下さった方々に厚く御礼を申し上げます。本号ではハンス・ピーターセン氏の講演全文を収録して冒頭に掲げました。あらためて読み直すと迫力ある内容に打たれます。

★金星表面に超長大な水路を発見した記事、二八年ぶりに宇宙から帰還した宇宙飛行士、フランスで一〇名の少年少女が突然消えた事件等、ショッキングなニュースを掲載しましたが、本誌は読者に恐怖心を起こさせるような記事を極力排する方針です。これらの記事は恐怖とは無関係ですが、その背後に何があるかは読者の判断次第です。

★今夏の海外研修旅行も大成功でした。少人数ながらもよく団結し、全員無事帰国できてなによりでした。その報告も掲載しましたが、この旅行はただの物見遊山ではなく、きわめて宇宙的な意義があったものと解釈しています。来年度の旅行にも多数ご参加下さい。毎回何か得るものがあります。

★東京月例会は九月より会場を東京タワーそばの機械振興会館に変更してから盛況の状態が続いています。気軽にお寄り下さい。食事等はタワー内のレストランが利用できるので便利です。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの不得手な人は面談でも結構です。

★本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望者はハガキでお申込み下さい。説明書をお送りします。(K)


日本GAP機関誌・季刊　冬季号
UFO contactee　115号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511
☎03-3651-0958
振替　東京4-35912
一九九一年一〇月二五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料210円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き＋送料がサービスとなります。

# 新アダムスキー全集

## ――全面改訂・改訂　全10巻――

久保田八郎・訳／各四六判

CAP 中央アート出版社・発行　〒104 東京都中央区京橋3－7－13 三成ビル5F　☎03(3561)7017●郵便振替 東京8－66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

アダムスキー

### ❶ 第2惑星からの地球訪問者　352頁・定価1980円

UFO研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

### ❷ 超能力開発法（テレパシー、遠隔透視その他）　192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感受し、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

### ❸ 21世紀/生命の科学　208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第５巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

### ❹ UFO問答100　216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

### ❺ 金星・土星探訪記　380頁・定価2400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第２部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

### ❻ UFOの謎　262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第２部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第１巻の続編。

アダムスキー

### ❼ 21世紀の宇宙哲学　148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第５巻、６巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

### ❽ UFO・人間・宇宙　370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆくH本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第２部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

### ❾ UFOの真相　320頁・定価1980円　1991年4月刊！

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙的実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバシル・パン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

### ❿ 超人ジョージ・アダムスキー　232頁・定価1300円

壮大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの偉人の人間像を克明に描写。これ１冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究家・久保田八郎が書き下ろし執筆。

## UFO―宇宙からの完全な証拠　480頁・定価2400円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究家ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

## オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第１巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

**¥1,000** 送料￥120

## 金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の４層の星は人間のマインド（心）の発達状態をあらわしている。9.3cm×8.8cm。

**¥500** 送料￥62

## ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。５種類の図形カードが各５枚ずつ、計25枚１セット。堅牢な厚紙製。重さ40ｇの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯に便利なので、どこでも気軽に練習できます。

**¥900** 送料￥120（2～5個￥175）

## テレホンカード

日本ＧＡＰ特製のテレホンカード第５弾。今度はアダムスキーの原書からオーソン氏のスケッチを取り入れました。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターで会見した金星人の姿を目撃者のアリス・ウェルズ女史がスケッチしたものです。

**¥1,500** 送料10枚まで￥62

## GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS（宇宙の意識とともに）」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径32㎜、全長90㎜。

**¥1,900** 送料￥120

## 会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径17㎜。

**¥2,000** 送料4個まで￥120

## 新アダムスキー全集★★★★★★★★訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り//★★★★★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本ＧＡＰでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。

**申込先**

住所、氏名、電話番号、商品番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに必要事項をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替によるご送金は当方へ到着するまでに約１週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 ☎03-3651-0958

**日本GAP** 振替・東京4-35912

## 日本GAP能力開発テープ

### ●日本GAP東京本部月例会

毎月開催される日本ＧＡＰ東京月例研究会セミナーから、久保田会長の解説講義と質疑応答その他を録音したもの。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきおこり、人生の荒波に屈することなく堂々と前進できます。

- ●テープ① **¥1,300** 送料￥175
  〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集の解説講義。近況報告。
- ●テープ② **¥1,000** 送料￥175
  〈内容〉超能力開発練習。質疑応答。

※①②一括ご注文の場合は送料￥250。
※1990年以前のバックナンバーもあります。往復ハガキでお問い合わせ下さい。

### ●1991年度日本GAP総会

2巻セット **¥3,900** 送料￥250
〈内容〉ハンス・ピーターセン氏講演、他。

**申込先**

「商品名」「○年○月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 ☎03-3653-9387

**松村 芳之** 振替・東京0-162644

## 日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- ●東京月例会セミナー 全1巻 **¥4,000**
  〈内容〉久保田会長の解説講義、他。約120分。（1990年12月分から在庫有）
- ●日本GAP総会 全2巻 各**¥3,000**
  〈内容〉毎年の日本ＧＡＰ総会を完全収録。（1989年度分から在庫有）
- ●日本GAP海外研修旅行 全1巻 **¥3,000**
  〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。（1989年度分から在庫有）
- ●デンマークGAP大会 全2巻 各**¥3,000**
  〈内容〉上巻＝久保田会長の講演（英語）、他。英文テキスト（和訳付）もついているので英語学習にも好適！
  下巻＝美しいデンマークの探訪記録。

送料はいずれも１本￥360、２本￥510。

**申込先**

「商品名」「○年○月分」「上・下巻」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。

〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103 ☎03-3351-9526

**伊東 芳和** 振替・東京4-13811

平成３年度

# 日本GAP全国月例研究会案内

| 支部名 | 日時 | 会場 | 会費 | プログラム・テキスト |
|---|---|---|---|---|
| 東京本部 | 毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 | 港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下３Ｆ第２研修室。<br>☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。<br>浜松町駅から東京タワー行きバスで約８分。<br>連絡先＝日本ＧＡＰ本部　☎03-3651-0958 | 会場費<br>¥1000<br>セミナー<br>受講料<br>¥1500<br>計¥2500 | 1:00→1:30　会員による講演。<br>1:30→3:00　久保田会長による講義。<br>テキスト＝『超能力開発法』<br>3:10→5:00　超能力開発練習／近況報告／質疑応答。 |
| 大阪支部 | 毎月第３日曜日　午後1:00→5:00<br>※11月のみ第２日曜日（10日）に変更。<br>※平成４年１月～10月まで会場変更。<br>日程変更があるので問い合わせること。 | 大阪府吹田市出口町４丁目「吹田市民会館」<br>☎388-7351。JR または阪急電車吹田駅下車。<br>連絡先＝平塚和義　☎06-436-3478<br>平成4年1～10月＝「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2 | ¥500 | 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。<br>テキストその他＝東京本部に同じ。 |
| 新潟支部 | 毎月第４日曜日　午後1:00→5:00 | 新潟市東万代町９「新潟市青年の家」<br>☎025-244-6766。JR新潟駅より徒歩５分。<br>連絡先＝星 富治夫　☎02579-2-5562 | ¥500 | 同　上 |
| 名古屋支部 | 毎月第２日曜日　午後1:00→4:30 | 名古屋市中区金山１丁目５番１号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141代。<br>JR 東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩５分。<br>連絡先＝林　国宣　☎0586-45-6468 | ¥300 | 同　上 |
| 仙台支部 | 毎月第３日曜日　午後1:10→4:20 | 仙台市青葉区米ケ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。<br>☎022-227-5333。仙台駅からお盛屋橋経由動物公園方面バスで約７～10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。<br>連絡先＝笠原弘可　☎022-295-0725 | ¥300 | 同　上 |
| 山形支部 | 毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 | 山形県天童市老野森１丁目1-1「天童市中央公民館」<br>☎0263-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー４分。天童市役所の裏側。<br>連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261 | ¥300 | 同　上 |
| 札幌支部 | 毎月第１日曜日　午後1:00→4:30<br>※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。 | 中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。<br>☎011-271-5821。<br>連絡先＝高野省志　☎011-783-6393 | ¥500 | 同　上 |
| 旭川支部 | 毎月第４日曜日　午後1:00→5:00 | 旭川市五条４丁目「旭川ときわ市民ホール」３Ｆ 302研修室<br>☎0166-23-5577<br>連絡先＝川上三秀　☎0166-61-0044 | ¥500 | 同　上 |
| 青森支部 | 毎月第４日曜日　午後1:00→5:00 | 青森市松原「青森市民文化センター」教養室。<br>☎0177-34-0163。<br>連絡先＝田村嘉彦　☎0177-38-0416 | ¥500 | 同　上 |
| 沖縄支部 | 毎月第４日曜日　午後1:00→5:00 | 具市川市栄巣野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。<br>☎09897-2-7722<br>連絡先＝比嘉政広　☎09893-3-2889 | ¥500 | 同　上 |
| 秋田支部 | 毎月第２日曜日　午後1:00→5:00 | 秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。<br>☎0188-24-5377。<br>連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831 | ¥500 | 同　上 |
| 横浜支部 | 毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 | 横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」７Ｆ 703号室。<br>☎045-681-6511。JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩３分。<br>連絡先＝清水　正　☎048-866-7048 | ¥500 | 同　上 |
| 茨城支部 | 毎月第４日曜日　午後1:20→5:00<br>※10月は移動月例会。26日(土)に変更。 | 水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。<br>☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。<br>連絡先＝清水勝一　☎0292-73-1903 | ¥300 | 同　上 |
| 長野支部 | 毎月第４日曜日　午後1:00→5:00 | 塩尻市大門７番町「塩尻総合文化センター」第１会議室。<br>☎0263-54-1253。<br>連絡先＝博田文喜　☎0263-58-8510 | ¥500 | 同　上 |
| 紀南会 | 毎月第３日曜日　午後1:00→5:00<br>※代表が長期療養のため月例会は当分休会。 | 和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」１Ｆ相談室。<br>☎0735-21-2760。JR 西日本新宮駅下車、徒歩５分。<br>連絡先＝(副代表)小川隆志　☎0735-32-2834 | ¥300 | 同　上 |
| 栃木支部 | 毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 | 鹿沼市市役所裏「御殿山会館」１Ｆ小会議室。<br>☎0289-64-4334。JR 鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩５分。<br>連絡先＝渡辺克明　☎0289-62-3319 | ¥500 | 同　上 |
| 南九州支部 | 毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 | 鹿児島市与次郎２丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」<br>☎0992-57-8111。<br>連絡先＝鶴田清則　☎0993-25-4398 | ¥500 | 同　上 |
| 高松支部 | 毎月第３日曜日　午後1:00→5:00<br>※日時・会場は変更があるため、関宛問い合わせること。 | 高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。<br>☎0878-39-2888。JR 高松駅より徒歩15分。<br>連絡先＝関 高明　☎0875-72-2698 | ¥400 | 同　上 |

# お好みのサブリミナルテープ®を1本（60分テープ デジタル録音）無料進呈！

先着250名様

●「記憶力・集中力強化」「魅力的性格」「学力向上」「心のやすらぎ」「最高の頭脳」等々を努力なしに現実のものにしてくれる、アメリカからやってきた「サブリミナルテープ」がNHK等でも紹介され、話題になっています。

●その人気16シリーズの実際の効果を試せるベーシックテープ（60分・デジタル録音）をこの広告をご覧の方、先着250名様に無料で差し上げます。

▶今すぐおハガキ・お電話でお申込み下さい。

**下のテープの中から、お好みのテープを選べます！**

| | |
|---|---|
| 『自分の能力への自信の強化』 | 『女性への緊張感の除去』 |
| 『自分の可能性への確信』 | 『男性への緊張感の除去』 |
| 『ビジネス能力開発への意欲』 | 『偉大な成功へのイメージを描く』 |
| 『本来の自分を取り戻す』 | 『幸運な人生をめざす』 |
| 『自分自身への自信』 | 『経済的成功への自信』 |
| 『人間関係の苦手意識の克服』 | 『充実人生獲得への自信』 |
| 『人間的魅力を養う』 | |
| 『自分の魅力に気づく』 | |

（詳しくは、お届けする案内書をご覧下さい。）

## サブリミナルテープ®の美しい音楽をBGMとして聴くだけで あなたの人生が変わる！

サブリミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果」をもたらす「耳に聴こえない周波数に変換された心理的メッセージ」を同調させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、自然に潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「無料ベーシックテープ引換券」と同時に「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。

■無料サブリミナル・ベーシックテープをご希望の方は、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上「無料ベーシックテープ案内書と商品券」と下記までお電話・おハガキでお申込み下さい。（お申込みいただきますと、折返し、サブリミナル・ベーシックテープの商品引換券ハガキと詳しい案内書をお送りいたします。）

「サブリミナル・ベーシックテープ案内書と商品引換券」希望
- 住　所
- 氏　名
- 年　令
- 職　業
- 電話番号

41円
郵便はがき
〒107
東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社
1409係

**お電話でのお申込みは 0120-363002**
（受付AM8～PM24、日・祝日も受付中）

▶広瀬綾子（プロテニスプレイヤー）
'91ダンロップ・マスターズのダブルスで優勝し、波に乗って現在人気・実力とも急上昇中の女子プロテニス界の新星。

〒107 東京都港区南青山1-26-4 アメリカンライブラリー社 1409係

UFO contactee 115号
一九九一年一〇月二五日発行 発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511 振替 東京4-35912
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料210円

先着500名様限り、下記までお電話・おハガキで!!

# 超高速英語学習 無料進呈

英会話テープ(C-30)

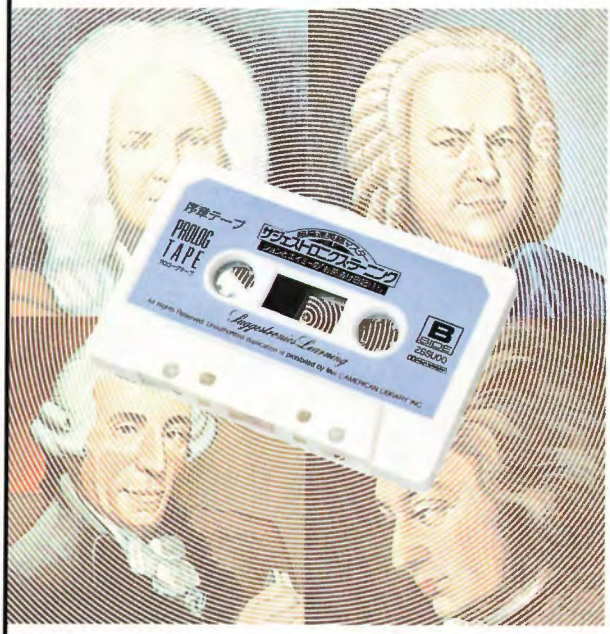
サジェストロニクス・ラーニング

『短期間に英会話をマスターしたい』『ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい』『楽しく聴けて、しかも飽きのこないテープがほしい!』――――――そんな方にぜひお勧めします。

## BGMとして楽しんでいるだけで『自然に英語を口ずさみ始める』

●BGM感覚で、聴き流しているだけで、自然に英語が身についてしまうという、ブルガリア出身のI・バルザコフ博士の手になる超高速英語学習テープ『サジェストロニクスラーニングテープ』がアメリカからやってきました。

●日常英会話シリーズの第1回目のテープ(デジタル録音・C-30)を、この広告をご覧の方500名様に下記のシステムにて無料で差し上げます。今すぐお電話又は、おハガキでお申込み下さい。



I.バルザコフ博士

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ビバルディー等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓をうけた加速教育ナレーションの専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙のハーモニーをかもし出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な語学テープ。「歌の歌詞を憶えるように自然に頭へ入ってゆく」「何度聴いても飽きがこない」「BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける」というのがこのテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

今回無料でお届けするのは、サジェストロニクス・ラーニング日常会話シリーズ(1)『ジョンとエイミーのお茶漬け日記』の序章テープ。「空港で」「喫茶店で」等々の場面でジョンとエイミーのカップルの会話を通して、日常英会話のエッセンスが効果的に学べるテープです。

## 『超高速英語学習』序章テープ申込み要項

サジェストロニクス・ラーニングの日常英会話シリーズ『ジョンとエイミーのお茶漬け日記』の序章テープを、次のようなシステムにて無料でお届けします。以下の要項を良くお読みになり、お電話・おハガキにてお申込み下さい。

●序章テープは、日常英会話シリーズの第0回目の頒布テープ"としてお送りいたします。

●お届けする序章テープは、日常会話シリーズ(1)の、第1回目以降のテープご購入の有無にかかわらず、無条件で無料です。

●序章テープをお申込みいただきますと、日常会話シリーズ(1)の頒布会員に自動的に登録され、キャンセルの通知がない場合は、翌月より第1回目以降のテープを毎月自動的にお送りいたします。

●第1回目以降は一年単位の会員制の頒布会方式でお届けします。毎月いろいろな場面での基本会話が効果的に学べるテープを一巻ずつお届けしてゆきます。お支払いは毎月テープ到着後に、4,260円。

第1回目およびそれ以降もテープ到着後5日間の無料試聴期間を設けていますので、気に入らない場合は自由に返品できます。又、途中退会も自由です。

●序章テープをご使用の結果、ご満足いただけなかった場合は、テープ到着より3週間以内に「キャンセル」のご連絡を電話かテープに同封されるキャンセル用ハガキにていただければ、第1回目以降のテープは発送されず、そのまま「退会」となります。

●「キャンセル」の場合でも、お届けした序章テープのご返品は必要ありません。そのままご愛用ください。

超高速英語学習
「序章テープ希望」
●住　所
●氏　名
●年　令
●職　業
●電話番号

41
郵便はがき
〒107
東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社
1415係

■『超高速英語学習』序章テープをご希望の方は、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「序章テープ希望」と左記まで、おハガキまたはお電話でお申込み下さい。(序章テープの返品の義務や商品購入の義務は全くありませんので安心してお申込み下さい。)
注意＝序章テープのお申込みは16才以上の方に限らせていただきます。

お電話でのお申込みは
フリーダイヤル 通話料無料
0120-363-002
(受付時間AM8:00～PM24:00 日・祝日も受付中)